

高浜 I 遺跡 (3 区)

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4

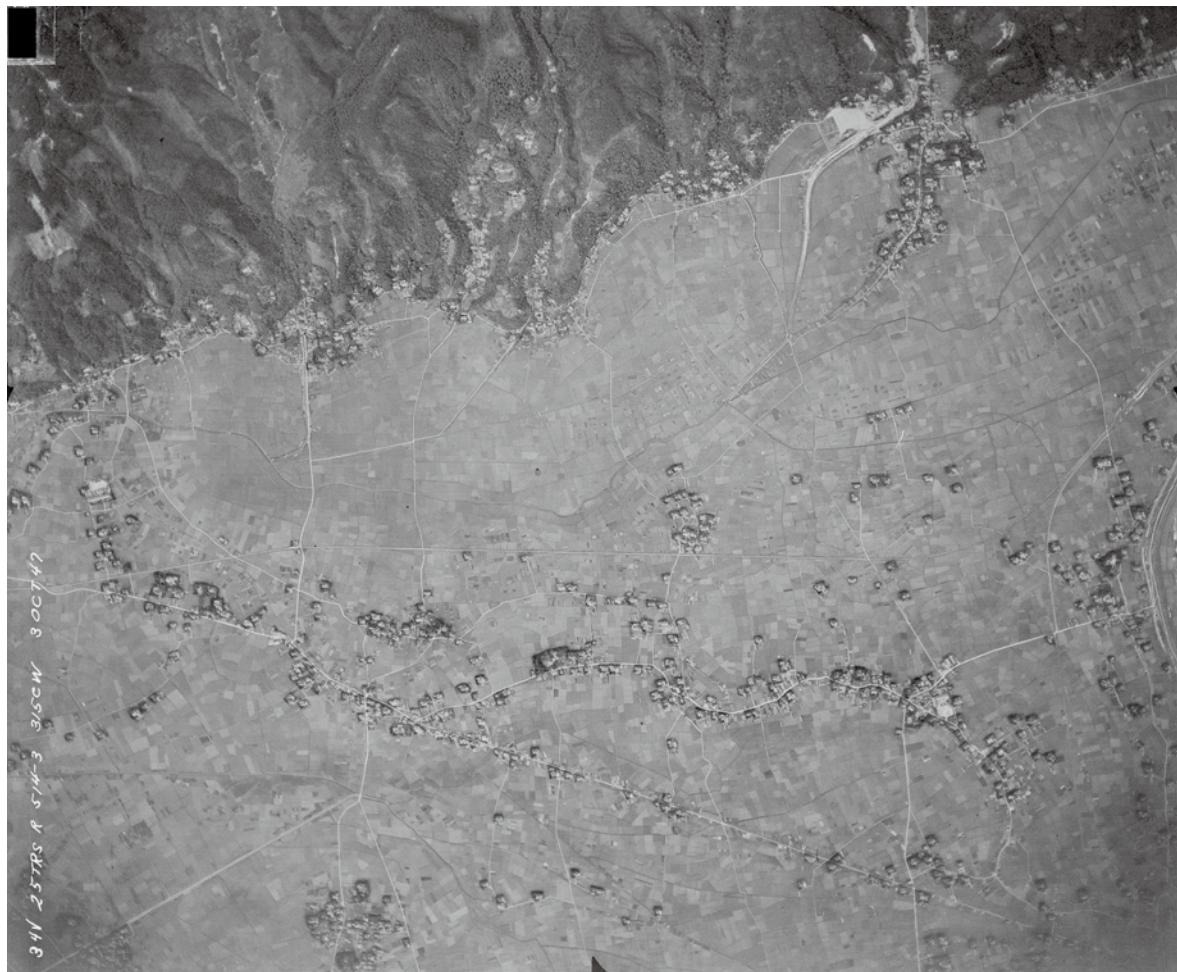
2019年3月

島根県教育委員会

高浜 I 遺跡（3 区）

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4

2019 年 3 月
島根県教育委員会



1. 遺跡空中写真(1947年10月3日)



2. 遺跡空中写真(北から)

序

本書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成29年度に実施した一般県道矢尾今市線（大塚工区）予定地内に所在する高浜I遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

高浜I遺跡は出雲平野の中央部、里方町・高岡町・平野町に広がっています。これまでに1区で15世紀から16世紀頃の有力者の居館跡、2区で16世紀から17世紀頃の居館跡が見つかっています。とくに1区の居館跡から日本最古の将棋盤が出土し大きな話題となりました。

今回ふたつの居館跡のあいだに位置する3区を調査した結果、15世紀から16世紀頃に埋没した川跡などが見つかりました。館跡周辺の景観復元に加えて、出雲平野における土地利用の変遷を知るうえでも貴重な成果となりました。

本書がこの地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めるために、広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査および報告書の作成にあたり御協力いただきました島根県土木部をはじめ、出雲市、地元の方々、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成31年3月

島根県教育委員会
教育長 新田 英夫

例 言

1. 本書は、島根県土木部道路建設課からの委託を受けて、島根県教育委員会が平成 29 年度に実施した一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査地は下記のとおりである。

出雲市里方町 941-47 外 高浜 I 遺跡

3. 調査組織

調査主体 島根県教育委員会

平成 29 年度

[事務局] 萩 雅人（埋蔵文化財調査センター所長）、石橋 聰（同総務課長）、
池淵俊一（同管理課長）

[調査担当者] 間野大丞（調査第三課長）、角森玲子（同調査補助員）、佐野木信義（同）、
高木優子（同）

平成 30 年度

[事務局] 椿 真治（埋蔵文化財調査センター所長）、石橋 聰（同総務課長）、
守岡正司（同管理課長）

[調査担当者] 間野大丞（調査第三課長）、米田美江子（同調査補助員）、佐野木信義（同）

4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については、株式会社トーワエンジニアリングに委託した。
5. 発掘調査にあたっては以下の方々から御指導いただいた。
中村唯史（島根県立三瓶自然館企画情報課調整幹）
6. 挿図中の方位は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系 X 軸方向を示し、座標系の XY 座標は世界測地系による。レベル高は海拔高を示す。なお、『高浜 I 遺跡(1 区)』『高浜 I 遺跡(2 区)』では方位を世界測地系によると記載していたが、日本測地系であったので訂正する。
7. 本書で使用した第 1 図は国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図（出雲今市・大社・稗原・神西湖）、第 2 図・第 42 図は出雲市都市計画図、第 45 図から第 51 図は国土地理院発行の 5 万分の 1 旧版図（今市・杵築・木次・大田）を使用して作成したものである。また巻頭図版 1 で使用した空中写真は国土地理院所蔵の写真を使用し、整理番号等は図版目次に記載した。
8. 出土遺物の保存処理は公益財団法人大阪市博物館協会に委託している。
9. 本書に掲載した写真は埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て間野が撮影した。
10. 本書に掲載した遺構・遺物実測図の作成・浄書は調査員・臨時職員・遺物整理作業員が行ったほか、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。
11. 本書の執筆は、第 2 章と第 4 章第 3 節は米田、第 4 章第 4 節は間野と米田、その他を間野が行なった。
12. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町 33 番地）にて保管している。

凡 例

1. 本文、図版中の表に用いた遺構略号は次のとおりである。

SB：堀立柱建物、SD：溝、SX：墓その他の遺構、SK：土坑、SE：井戸、NR：自然河道

2. 本文、挿図、写真図版中の遺物番号は一致する。

3. 遺物実測図の▲印は釉際を示す。

4. 陶磁器および石製品に関しては下記の論文・報告書を参考にした。

木戸雅寿「石鍋の生産と流通について」『中近世土器の基礎研究IX』日本中世土器研究会

1993年

九州近世陶磁器学会『九州陶磁の編年 - 九州近世陶磁学会 10周年記念 -』2000年

佐伯昌俊「須佐焼の生産・流通と石見焼 - 近世末から近代初頭の鉢類を中心に」『近世・近代の石見焼の研究』島根県古代文化センター研究論集第17集 島根県古代文化センター
2017年

重根弘和「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生退官記念論文集
近藤喬一先生退官記念事業会 2003年

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 位置と歴史的環境	2
第3章 高浜I遺跡	14
第1節 調査の概要	
第2節 遺構の調査	
第3節 包含層の調査	
第4章 総括	46
第1節 遺跡の立地と様相	
第2節 古墓の様相	
第3節 出雲平野における遺跡の分布と土地利用—古代・中世を中心に—	
第4節 出雲平野の中世の館跡及び屋敷地	
第5節 おわりに	

挿図目次

第 1 図 高浜 I 遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第 2 図 高浜 I 遺跡調査区配置図	15
第 3 図 調査区全体図	16
第 4 図 調査区グリッド配置図	17
第 5 図 3-1 区北壁土層断面図	18
第 6 図 3-2 区東壁土層断面図 (1)	19
第 7 図 3-2 区東壁土層断面図 (2)	20
第 8 図 3-2 区 5 ライン土層断面図	21
第 9 図 3-2 区茶褐色土・青灰色粘質土出土遺物実測図	22
第 10 図 3-2 区遺構平面図 (1)	23
第 11 図 3-2 区遺構土層断面図 (1)	24
第 12 図 3-2 区遺構平面図 (2)	25
第 13 図 3-2 区遺構土層断面図 (2)	26
第 14 図 3-2 区遺構土層断面図 (3)	27
第 15 図 3-2 区遺構土層断面図 (4)	28
第 16 図 3-2 区遺構平面図 (3)	29
第 17 図 3-2 区遺構土層断面図 (5)	30
第 18 図 ピット出土遺物実測図	31
第 19 図 SD03・08 出土遺物実測図	31
第 20 図 SK01・02・04・06・07 出土遺物実測図	32
第 21 図 NR01 出土遺物実測図 (1)	32
第 22 図 NR01 出土遺物実測図 (2)	32
第 23 図 SD01・NR01 実測図	33
第 24 図 NR02・SD04・SD05 土層断面図	34
第 25 図 NR02 出土遺物実測図 (1)	34
第 26 図 NR02 出土遺物実測図 (2)	35
第 27 図 SX01 実測図	36
第 28 図 SX02 実測図	36
第 29 図 SX01 出土遺物実測図	36
第 30 図 SX02 出土遺物実測図	36
第 31 図 3-1 区包含層出土遺物実測図 (1)	37
第 32 図 3-1 区包含層出土遺物実測図 (2)	38
第 33 図 3-1 区包含層出土遺物実測図 (3)	39
第 34 図 3-1 区包含層出土遺物実測図 (4)	39
第 35 図 3-2 区包含層出土遺物実測図 (1)	40
第 36 図 3-2 区包含層出土遺物実測図 (2)	41

第 37 図 3-2 区包含層出土遺物実測図(3).....	42
第 38 図 3-2 区包含層出土遺物実測図(4).....	43
第 39 図 3-2 区包含層出土遺物実測図(5).....	44
第 40 図 3-2 区包含層出土遺物実測図(6).....	44
第 41 図 3-2 区包含層出土遺物実測図(7).....	45
第 42 図 高浜 I 遺跡の中世屋敷跡復元図	47
第 43 図 高浜 I 遺跡遺構全体図	48
第 44 図 蔵小路西遺跡出土五輪塔実測図	49
第 45 図 出雲平野の遺跡分布図(明治 28 年地図)	51
第 46 図 繩文時代の遺跡分布図	52
第 47 図 弥生時代の遺跡分布図	52
第 48 図 古墳時代の遺跡分布図	52
第 49 図 古代の遺跡分布図	52
第 50 図 中世前半の遺跡分布図	53
第 51 図 中世後半の遺跡分布図	53
第 52 図 築山遺跡・角田遺跡・寿昌寺遺跡の中世屋敷跡復元図	57

表 目 次

第 1 表 古代～近世前半 遺跡一覧表.....	61
第 2 表 出土土器観察表	68
第 3 表 出土木製品観察表	72
第 4 表 出土錢貨観察表	73
第 5 表 石・金属製品観察表	73
第 6 表 2 区出土石製品観察表.....	73

卷頭図版目次

卷頭図版 -1 遺跡空中写真(1947年10月3日) UR5143-CA-34

卷頭図版 -2 遺跡空中写真(北から)

本文写真目次

写真 1 高浜 I 遺跡 2 区 遠景(上空:南から)	59
写真 2 高浜 I 遺跡 2 区 近景(上空:南から)	59

写真図版目次

- 図版 1 1. 3-1 区表土掘削後（南東から）
2. 3-1 区調査終了後（南東から）
- 図版 2 1. 3-2 区表土掘削状況（北から）
2. 3-2 区調査終了後（南から）
- 図版 3 1. 3-1 区北壁土層堆積状況（西から）
2. 3-2 区東壁土層堆積状況（南から）
- 図版 4 1. 3-2 区ピット検出状況（東から）
2. 3-2 区ピット半裁状況（南から）
- 図版 5 1. ピット 33 完掘後（北から）
2. SD01 調査状況（東から）
- 図版 6 1. SD01 土層堆積状況（東から）
2. SD04・05 土層堆積状況（南から）
- 図版 7 1. SK01 半裁状況（東から）
2. SK02 調査状況（東から）
- 図版 8 1. SK06 土層堆積状況（南から）
2. NR01 調査状況（東から）
- 図版 9 1. NR01 漆器椀（第 22 図 1）出土
状況（東から）
2. NR01 矛子状木製品（第 22 図 2）
出土状況（東から）
- 図版 10 1. NR01 完掘状況（東から）
2. NR02 杭（第 26 図 2～4）出土
状況（東から）
- 図版 11 1. NR02 五輪塔水輪部（第 25 図 4）
出土状況（北から）
2. SD04・SD05 完掘状況（南から）
- 図版 12 1. SX01 検出状況（東から）
2. SX01 半裁状況（北東から）
- 図版 13 1. SX01 人骨出土状況（北東から）
2. SX01 底面検出状況（北から）
- 図版 14 1. SX02 検出状況（東から）
2. SX02 検出状況（北から）
- 図版 15 1. 土師器鍋（第 35 図 8）出土状況（東
から）
2. 青灰色粘質土：須恵器（第 9 図 4）
出土状況（東から）
- 図版 16 1. 茶褐色土：中世須恵器（第 9 図 2）
出土状況（北東から）
2. 茶褐色土：須恵器甕（第 9 図 1）
出土状況（西南から）
- 図版 17 1. 茶褐色土・青灰色粘質土出土遺物
(第 9 図)
2. ピット 33 出土遺物（第 18 図）
- 図版 18 1. 溝状遺構出土遺物（第 19 図）
2. 土坑出土遺物（第 20 図）
- 図版 19 1. NR01・02 出土遺物（第 21 図）
2. NR01 出土遺物（第 22 図）
- 図版 20 1. NR02 出土遺物（第 25 図）
2. NR02 出土遺物（第 25・26 図）
- 図版 21 1. SX01・02 出土遺物（第 29・30
図）
2. 3-1 区・3-2 区包含層出土遺物（第
31・32 図）
- 図版 22 1. 3-1 区包含層出土遺物（第 32 図）
2. 3-1 区包含層出土遺物（第 33 図）
- 図版 23 1. 3-1 区・3-2 区包含層出土遺物（第
33・34 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 35 図）
- 図版 24 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 35 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物
- 図版 25 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 36 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 37 図）
- 図版 26 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 37 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 38 図）
- 図版 27 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 35・
37・38 図）
- 図版 28 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 39 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 38・
40・41 図）

第1章 調査に至る経緯と経過

一般県道矢尾今市線は、地域高規格道路境港出雲線(国道 431 号)と一般国道 9 号線(出雲バイパス)及び山陰自動車道を連結する道路であるとともに、広域的な地域連携に寄与するために計画された道路である。

平成 17 年 10 月 26 日に島根県出雲土木建築事務所（現：出雲県土整備事務所）から出雲市文化観光部文化財課（以下、出雲市文化財課と称す）に対して、出雲市大塚町から高岡町地内における埋蔵文化財の有無について照会があった。同年 12 月 27 日に出雲市文化財課は事業予定地内に近接して周知の遺跡である大塚遺跡が存在することから確認調査を実施し、大塚遺跡が事業地内にも広がっていることが確認されたため、12 月 28 日付けで発掘調査が必要な旨を回答した。その後、出雲市文化財課では当事業予定地内の調査について対応が困難な状況であることから、島根県教育委員会が事業を実施することとなった。平成 19 年 4 月から大塚遺跡の発掘調査を実施し、平成 21 年 3 月に報告書が刊行されている。

その後、出雲県土整備事務所から平成 20 年 8 月 20 日付けで高岡町から矢尾町地内における埋蔵文化財の有無について島根県教育委員会に照会があり、事業予定地内には周知の遺跡である高浜 I 遺跡と下澤遺跡が存在することから遺跡の取り扱いについて協議が必要であることを同年 12 月 1 日付けで回答した。これを受け出雲県土整備事務所から文化財保護法第 94 条の 1 の通知が提出され、島根県教育委員会では工事着手前に記録保存のための発掘調査が必要な旨を勧告した。

上記の法的手続きを基づいて、高浜 I 遺跡の発掘調査に着手した。調査の経過は下記の通りである。

平成 21・22 年度 1 区の調査。15～16 世紀の居館跡を検出。日本最古級の将棋盤など特殊な遺物が出土。平成 22 年度に報告書を作成。

平成 23 年度 1 区の北側水田で水路工事に伴う立会調査。遺構面を形成する基盤層は確認されたが、明確な遺構は検出されず。

平成 24 年度 国道 431 号の南に位置する下澤遺跡の試掘確認調査。遺構・遺物は検出されず。

平成 25 年度 一畑電鉄大社線の南側から県道矢尾今市線までの区間について試掘確認調査。市道高浜 97 号線から北は遺構面を形成する基盤層が検出されず。市道以南を本調査対象範囲（2 区）とする。

平成 26 年度 2 区を調査。16 世紀～17 世紀にかけての建物跡などを検出。

平成 27 年度 2 区の報告書を作成。

平成 29 年度 3 区（1,000m²）を調査。調査は 5 月 22 日から着手、9 月 4 日に完了。

平成 30 年度 3 区の報告書を作成。

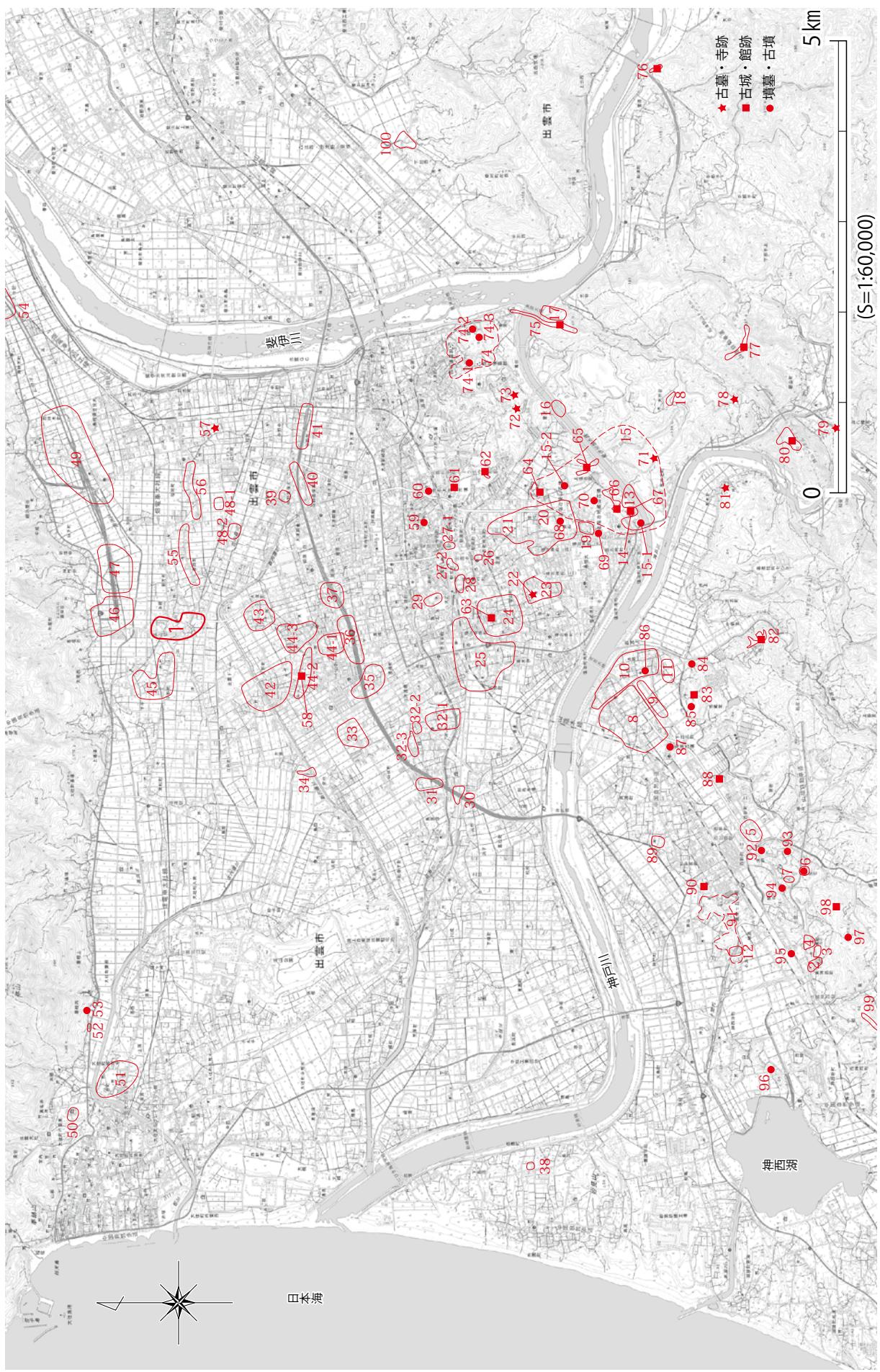
第2章 位置と歴史的環境

出雲平野は斐伊川・神戸川の二大河川により形成されてきた沖積平野である。約6,300年前（縄文時代早期）の温暖な時期には、現在の宍道湖が西の日本海側まで開いた湾（古宍道湾）の水海域であったとされる。約4,800年前（縄文時代前期）と約3,600年前（縄文時代後期）には三瓶山で大規模な噴火が起こり、神戸川を介して出雲平野に数mもの厚い洪水砂が流され堆積している。三田谷I遺跡ではボーリング調査により、築山遺跡では発掘調査によりその堆積を確認している。

天平5（733）年編纂の『出雲国風土記』によると、当時は平野の西半分を占める「神門水海」とよばれる周囲35里75歩（18.84km）の水海が、現在の神戸川河口付近で日本海へ口を開け、その水海には出雲大川（旧斐伊川）と神門川（旧神戸川）が注いでいたとされる。出雲郡の帖には「出雲大川。源は伯耆と出雲との二國の境なる鳥上山より流れて、・・・・出雲郷の境なる多義村に出て、

1	高浜I遺跡	34	井原遺跡	66	平分城跡
2	九景川遺跡	35	瀬瀬浦遺跡	67	権現山城跡
3	玉泉寺裏遺跡	36	咸小路西遺跡	68	上塙治築山古墳
4	御崎谷遺跡	37	姫原西遺跡	69	地藏山古墳
5	浅柄遺跡	38	上長浜貝塚	70	池田古墳
6	浅柄II遺跡（浅柄II古墳）	39	中野西遺跡	71	光明寺3号墓
7	浅柄III遺跡	40	中野美保遺跡	72	菅原王墓
8	下古志遺跡	41	中野清水遺跡	73	長者原廃寺
9	田舎遺跡	41	（大津町北遺跡を含む）	74	西谷墳群跡
10	古志本郷遺跡	42	矢野遺跡	74	西谷3号墓
11	古志遺跡	43	大冢遺跡	75	西谷15号墓
	小浜山横穴墓群	44	小山遺跡第1地点	75	滝谷山城跡
12	（神門横穴墓群第10支群）	44	第2地点	76	旭ノ前城跡
13	三田谷I・II遺跡	45	第3地点	77	庫墨城跡
14	權現山石切場跡	45	高浜II遺跡	78	大坊古墓（伝吉伴姫五輪塔）
15	上塙治横穴墓群	1	（里方八石原遺跡を含む）	79	朝山古墓
	第33支群	2	下塙遺跡	80	姪山城跡
	第40支群	46	（前I遺跡を含む）	81	小坂古墳石欄
16	上沢III遺跡	47	里方本郷遺跡	82	要納城跡
17	長岡遺跡	48	高岡遺跡第2地点	83	淨土寺山城跡
18	大伴谷II遺跡	2	高岡II遺跡	84	放れ山古墳
19	寿昌寺遺跡	49	（山持川川岸遺跡を含む）	85	妙蓮寺山古墳
20	篠山遺跡	50	五反配遺跡	86	大船古墳
21	角田遺跡	51	原山遺跡	87	宝塚古墳
22	神門寺境内焼寺	52	菱根遺跡	88	比布智館跡
23	神門寺右近遺跡	53	西経古墳	89	知井宮多聞院遺跡
24	高西遺跡	54	青木遺跡	90	智伊飯跡
25	天神遺跡	55	高岡遺跡	91	神門横穴墓群
26	藤ヶ森南遺跡	56	福岡遺跡	92	浅柄北古墳
27	藤ヶ森遺跡I地点	57	抜杼古墓	93	浅柄古墳
2	II地点	58	三木氏館跡	94	間谷東古墳
28	善行寺遺跡	59	塚山古墳	95	丁之内古墳
29	海上遺跡	60	大念寺古墳	96	山地古墳
30	余小路遺跡	61	平家丸城跡	97	北光寺古墳
31	白枝本郷遺跡	62	向山城跡	98	高城跡
32	1号丁山遺跡1次調査地点	63	淨音寺境内跡	99	神西城跡
2	2次調査地点	64	塙治神社境内遺跡	100	後谷V遺跡
3	3次調査地点	65	大伴谷城跡		
33	白枝荒神遺跡				

第1図 高浜I遺跡の位置と周辺の遺跡



河内・出雲の二郷を経て北に流れ、更に折れて西に流れ、即ち伊努・杵築の二郷を経て、神門水海に入る。」と。神門郡の帖には「神門川。源は飯石郡の琴引山より出でて北に流れ、・・・・神門郡の餘戸里門立村に出て、即ち神戸・朝山・古志等の三郷を経、西に流れて水海に入る。」と説明している。

この二大河川によってつくられた自然堤防（微高地）に集落が築かれ、本流のほかにも支流が何本も流れその後背湿地には水田が広がっていたことが発掘調査で明らかになってきた。そのような風景は、縄文時代晚期から徐々にできあがり風土記の時代に至ることになる。以後、近世までには徐々に「神門水海」は沖積作用により縮小していく。

現在の出雲平野の景観はほぼ近世になって形成されたものである。斐伊川は、東流して宍道湖に注ぎ、上流からの鉄穴流しにより土砂が流されて天井川となっていく。この堆積状況が中野清水遺跡のボーリング調査により明らかとなっている。「神門水海」は縮小して神西湖となり、肥沃な湿地帯は水利管理されて有数の穀倉地帯となっていく。

高浜I遺跡は、この出雲平野の中央北寄りの出雲市里方町、平野町、高岡町にまたがって所在する。遺跡空白地域を挟んだ南側は、縄文時代以降の集落遺跡である矢野遺跡や小山遺跡を中心とする四絡遺跡群が存在しており、出雲平野の形成過程を研究していく上でも重要な地域の一つとなっている。

縄文時代

早期になると菱根遺跡や上長浜貝塚などの遺跡が確認されるようになる。前者は「菱根式」と呼ばれる当地域における早期末の繊維土器の標式遺跡である。後者からは菱根式から前期初頭の轟B式の土器が出土している。山持遺跡からも早期からの土器が出土しており注目される。後期になると三田谷I遺跡では土器の他にドングリピットや丸木舟などが確認され、築山遺跡からは後期初頭の中津式土器が出土し、壱丁田遺跡から磨消縄文土器が確認されている。当遺跡に近い矢野遺跡では縄文後期後葉の福田KⅢ式・元住吉山Ⅱ式が採集されている。続く晩期には矢野遺跡のほか、蔵小路西遺跡・善行寺遺跡・築山遺跡・三田谷I遺跡・浅柄遺跡・九景川遺跡などから遺物が出土している。また蔵小路西遺跡では縄文晩期の火処が確認されており、縄文時代晩期までには出雲平野中央部まである程度陸地化していたものと考えられる。

弥生時代

弥生時代になると平野全域に集落が形成され始める。前期には縄文時代から続く山持遺跡・矢野遺跡・築山遺跡・三田谷I遺跡・浅柄遺跡・九景川遺跡などのほか、新たに原山遺跡・五反配遺跡・中野美保遺跡・海上遺跡・角田遺跡などが築かれる。墓域としては原山遺跡で前期の配石墓が確認されている。

中期に入ると遺跡は急増し、神戸川などによって生成された自然堤防上には小山遺跡・天神遺跡・古志本郷遺跡・下古志遺跡・田畠遺跡などが知られ、環濠集落の様相を呈した大規模な集落も出現していく。旧斐伊川の微高地縁辺部に位置する中野清水遺跡、「神門水海」の汀線付近にはサメの絵画土器が出土した白枝荒神遺跡、貝塚のある知井宮多聞院遺跡などが築かれ始める。他地域との交流を示すものとして、北部九州の須玖式土器が出土した天神遺跡・古志本郷遺跡・下古志遺跡、備後北部の塩町式系土器が出土した古志本郷遺跡・下古志遺跡などがある。

後期になると中期に形成された多くの集落が継続して営まれ、遺物量も大幅に増加する傾向にある。平野中央部では姫原西遺跡など新たな遺跡も加わる。山持遺跡・矢野遺跡・白枝荒神遺跡などでは吉備系特殊土器やその模倣品が確認されているほか、西部瀬戸内系の土器も出土する。中野清水遺

跡では西部瀬戸内系・北部九州系土器のほか朝鮮半島系の土器も出土する。また古志本郷遺跡では北部九州の下大隈式土器が出土し、中期から引き続き他地域との交流も活発に行われていたことを窺い知ることができる。

墳墓遺跡としては、中野美保遺跡で中期中葉の方形貼石墓が確認され、青木遺跡では中期後葉の小規模な四隅突出型墳丘墓が築造されている。後期には平野南側の丘陵上に最大級の四隅突出型墳丘墓である西谷3号墓をはじめとする西谷墳墓群が、平野低地部の中野美保遺跡や青木遺跡でも中小規模の四隅突出型墳丘墓が築造されている。また、三田谷I遺跡では方形周溝墓が確認されている。

古墳時代

古墳時代の集落は基本的には弥生時代から継続して営まれているが、小山遺跡・天神遺跡・古志本郷遺跡・下古志遺跡のように前期には大溝への土器廃棄後、衰退する事例が多く、出雲平野の集落は前期以降減少する傾向が認められるようである。中・後期になると南側の丘陵上に位置する長廻遺跡・御崎谷遺跡・玉泉寺裏遺跡・九景川遺跡や南側の丘陵下に位置する三田谷I遺跡・浅柄遺跡などが知られる。平野中央部では矢野遺跡・中野西遺跡・中野美保遺跡・井原遺跡など数例しか知られていない。また、御崎谷遺跡・玉泉寺裏遺跡・九景川遺跡などからは建物跡や中期を中心とする多量の遺物が出土しており、この地域に古墳時代中期頃を中心とする大規模な集落が営まれていたものと推測される。

古墳の様相としては、前期から中期初頭は、北山南麓の大寺1号墳、神西湖東岸の山地古墳・浅柄II古墳・間谷東古墳・浅柄北古墳が知られる。当遺跡の北東に位置する大寺1号墳は出雲平野の前期古墳では唯一の前方後円墳である。山地古墳・浅柄II古墳・間谷東古墳は埋葬施設に礫床を備えている。山地古墳は径24mの円墳で筒形銅器や銅鏡など豊富な副葬品を有する古墳である。間谷東古墳は奥才型木棺と称される棺底礫敷の組合式木棺を有する古墳である。奥才型木棺の分布は北部九州から北近畿に限定されていることから、海上交通を中心とした広域な地域間交流が存在していたことが窺える。

中期中葉には神西湖東岸の南側丘陵上に出雲平野を見下ろすように北光寺古墳が築造される。全長64mと中期では出雲西部において最大の前方後円墳である。その周辺には箱式石棺を伴う浅柄古墳、全長10mの方墳と推定される丁之内古墳、神戸川と斐伊川に挟まれた南側の丘陵上に全長約15mの方墳と考えられる池田古墳・西谷15号墓、径約11mの円墳である西谷16号墓などの小規模古墳が築かれる。北山南麓の西側には、箱式石棺が確認されている西組古墳、東側にも箱式石棺が確認されている平林寺山6・7号墳・膳棚山3号墳・美談神社1号墳などの小規模古墳が築かれている。

後期になると平野中央部に出雲西部最大クラスの前方後円墳である大念寺古墳、上塩治築山古墳、地蔵山古墳などが築かれるようになる。これらに次ぐ規模の古墳として、神戸川左岸地域で妙蓮寺山古墳や放れ山古墳などが築かれる。後期後葉以降は横穴墓の造墓が盛んに行われ、平野南部の丘陵には上塩治横穴墓群や神門横穴墓群などの大規模な横穴墓群が営まれるようになる。また、築山遺跡では上塩治築山古墳の周辺南東部を囲むように、時期を前後して径10～25m級の円墳7基が築かれ、群集墳の様相を呈している。その副葬品から直ぐ南に広がる上塩治横穴墓群の被葬者と階層差があったと考えられている。また塚山古墳・大樋古墳・宝塚古墳など平野部にも古墳が築かれている。

奈良・平安時代

奈良時代の出雲平野は律令制下の行政区画でいう「出雲郡」と「神門郡」に編成される。高浜I遺

跡は、出雲郡伊努郷と神門郡八野郷の境界付近と推定される。

多くの古代遺跡は、官衙関連遺跡、寺院・神社跡などに比定されており、集落遺跡は少ない。

出雲平野北部の高浜Ⅱ遺跡と平野中央部の東寄りに位置する中野美保遺跡・中野清水遺跡では、建物跡などが検出され古代の遺物が多く出土する。北山裾に位置する下澤遺跡では古墳時代末から8世紀にかけての水田跡を検出している。同じ北山裾に位置する山持遺跡では盛土工事を行なった道路状遺構・畝状遺構・水田耕作跡を検出している。

平野の南部では、多数の掘立柱建物跡が検出された浅柄遺跡、建物跡や多量の遺物が確認されている九景川遺跡、貝塚が形成された上長浜貝塚などが知られている。九景川遺跡は溝により区画された北東部に居住用建物、北西部に倉庫群及びそれに付随する施設が計画的に配置されている。墨書土器「中」「伎」や鉄鉢形土器も出土しており、単なる集落ではないかもしれない。『出雲国風土記』の滑狭郷の帖に「郡家の南西八里なり。」これは約4.3kmで、九景川遺跡にほぼ一致する。滑狭郷か。また建物の軸方位は、南北正位を志向するものと、当時の山陰道の地割に合わせたものがある。この二つの軸方位は、遺跡から旧山陰道を東へ直進したところに位置する古志本郷遺跡の二時期の官衙建物の軸方位と、それぞれ一致することが指摘されている。また、その中間位置に当たる浅柄遺跡の建物跡の軸も旧山陰道に平行している。上長浜貝塚は砂丘上に位置しており、『出雲国風土記』「神門郡」の帖に「即ち水海と大海との間に山あり。長さ22里234歩、広さ3里あり。此は意美豆努命の國^{おみづぬのみこと}引き坐しし時の綱なり。今俗人、号けて菌松山と云ふ。地の形体、壤も石も並びになし。白き沙のみ積み上がり。即ち松の林茂繁るも、四風吹く時は、沙飛び流れて松の林を掩ひ埋む。」と記載されている。貝塚は8世紀後半～9世紀に形成されており、土器以外にも製塩土器、大量の土錐・釣針などが出土している。貝塚には『風土記』記述の魚貝以外にもヤマトシジミが大量に出土し、オキアサリ・フグなど多くの貝殻・魚骨が出土している。網漁を中心とした漁労、貝の採取、製塩など漁村の全ての労働が集約された専業的な漁業集落の存在が考えられている。

集落遺跡と考えられる遺跡が少ないため、民が暮らした様子は不明な点が多い。しかし『出雲国風土記』「出雲郡」の帖に「河（旧斐伊川）の両邊は、或いは土地豊かにこえて土穀・桑・麻、稔りたわわに、百姓^{たみ}のうるおいの菌なり。・・・河口より河上の横田村に至るまでの間、五つの郡の百姓、河に便りて居めり」と記載された通りだとすると、民は旧斐伊川の両岸に住まいし、潤った土地で田畠を耕し、河の恵みに恩恵を受けた生活をしていたと思われる。

官衙関連遺跡としては、古志本郷遺跡が神門郡家に、後谷V遺跡が出雲郡家の関連施設として比定されている。

矢野遺跡では、建物跡・倉庫などを伴う屋敷地が5箇所検出され、転用硯、墨書土器「内」「内家」「家」「八内」「大山」「伊」「大」「三」「酒」「專」などが出土した。小山遺跡第3地点では、墨書土器「池内」「井」「人□」やヘラ描土器「井」が出土しているが、計画性に乏しい大型柱穴の建物跡・倉庫・区画溝などが集中する。天神遺跡では、墨書土器「旱天」、綠釉陶器が出土したり、大型の柱穴をもつ建物跡が検出された。三田谷I遺跡では、「八野郷」「高岸」の木簡、墨書土器「神門」、鉄鉢形土器などを出土し、倉庫群を検出した。以上は神門郡の官衙関連施設である可能性が指摘されている遺跡である。

そのほかに、中野清水遺跡からは所在する郷名の「塩冶」などの墨書土器・硯・銅製分銅などが出土している。また古志本郷遺跡の郡庁跡中心部から約900m南に所在する古志遺跡は、付近から古瓦が出土する遺跡として注目されていた。発掘調査の結果、多くの建物跡や竈を含む生活具が出土

しており、郡庁の厨か役人の居住域ではないかと考えられる。伊努郷に位置する山持遺跡では、墨書き土器「國益」「益」「華」「圓」「田」「屋」「西 大坏 大木犬」、吉祥天などが書かれた板絵、木簡「伊努郷若倭部□□」「神戸額田部□問」などが道路状遺構から出土しており、その居住域は単なる集落ではないと思われる。出雲郡では多量の墨書き土器や木簡の出土した青木遺跡を出雲郡家の出先機関的機能を備える遺跡と評価する見方もある。

寺院跡としては、『出雲国風土記』記載の「神門郡」朝山郷新造院に比定される神門寺境内廃寺や長者原廃寺が知られている。なお、『風土記』に「神門軍団は、郡家の正東7里（約3.75km）なり」と記されており、長者原廃寺が存在する地域には神門軍団が置かれていたと推定される。大井谷Ⅱ遺跡では2条の大溝が天応元辛酉（781）年創建とされる般若寺が所在する北の山上から南の谷部に向かって削られており、上流部から流された寺院関係の遺物が出土している。角田遺跡は古瓦が出土する遺跡として知られる。築山遺跡1～4号墳周辺では墳丘部をはずすように建物跡が検出されており、古代には引き続き神聖な場として認識されていたと考えられる（中世には墳丘及び主体部を破壊して集落を築いている）。墨書き土器「佛」「吉」「田」「無」「門」「舍」「家」「酒」「井」、鉄鉢形土器（「勝」の刻書）、水瓶、灯明皿、赤彩土器など仏教関係を思わせる遺物が出土し、この建物跡を含め仏教関連施設があった可能性を示唆している。また約100m東の調査区（5号墳と6号墳の間）では、火葬骨がぎっしりと収められた須恵器蓋坏の埋置された小土壙が検出され、付近には土壙墓も造られている。三田谷Ⅰ遺跡の官衙関連遺構が集中する丘陵地より更に奥の丘陵地に位置する三田谷Ⅱ遺跡では、土壙墓5基が纏まっている。

上塩治築山古墳と築山遺跡の群集墳、上塩治横穴墓群が集中するこの地域を囲むように、火葬骨を納めた石櫃が出土した光明寺3号墓、菅沢古墓、朝山古墓のほか、石櫃を納めた小坂古墳、西谷古墓などが造られている。この一帯が地域有力者の奥津城であることが認識されており、宗教的な聖域と観念されていたことを物語っている。

このほか「出雲郡」では青木遺跡で、社殿を想定する建物跡が検出されており、「伊努」「美社」の墨書き土器が出土することから伊努社、美談社、縣社などに推定されている。「八野郷」では矢野遺跡で「社」「社司」の墨書き土器が出土することから矢野社に推定されている。現在でも遺跡北西部に八野神社が鎮座する。

中世

高浜Ⅰ遺跡（1区）では、大規模な造成（盛土）を行なって15～16世紀中心の建物跡、井戸などが検出されている。特殊な木製品や将棋の駒とともに最古の将棋盤が出土していることも特に注目される。高浜Ⅰ遺跡（2区）では、14世紀中頃～17世紀初頭を中心とした屋敷地を囲む堀と建物跡、井戸、土壙墓などがみつかっている。堀の周囲は遺構の空閑地となっており、土壙が築かれていたものと思われる。

平野中央部に位置する渡橋沖遺跡からは、13世紀前半～14世紀の区画溝を伴う庇付きの総柱建物跡を含み、井戸などが検出される。ミニチュア五輪塔も出土しており一般の屋敷とは差異があるようである。渡橋沖遺跡の約700m東に位置する蔵小路西遺跡では、12世紀後半～15世紀前半の一町四方の屋敷地を囲む幅約4mの堀を検出しており、屋敷地内に建物跡、井戸、木棺墓・土壙墓などが検出された。陶磁器類も多数出土しており、朝山氏または塩治氏の居館跡と推定されている。その北西約10mには小山遺跡第1地点の同時期の土坑・柱穴などがトレンチ調査で検出されており、館

に関わる小集落が存在したと思われる。またこの遺跡の北には、佐々木塙治氏から分かれた三木氏の屋敷跡と伝えられる館跡がある。矢野遺跡では13～14世紀の30m四方の屋敷地を囲む堀状の大溝を検出している。余小路遺跡では、区画溝を伴う建物跡が検出され、中世後半には浜山の南部でも集落を形成できるほど地盤が安定したことがわかる。余小路遺跡の約200m北東に位置する白枝本郷遺跡では、中世後半に南北に走る道路の側溝が検出され、その両側には木棺墓・土壙墓が造られている。この道は墓道と考えられ、その東には建物跡・井戸なども検出されている。旧斐伊川付近の山持遺跡・中野清水遺跡・中野美保遺跡では中世後半には水田耕作地として利用される。

上塙治地域では、角田遺跡・築山遺跡・寿昌寺遺跡で屋敷地を囲む堀を検出している。角田遺跡では12～13世紀の屋敷跡を検出している。築山遺跡では、現在の塙治神社から150m西に15～16世紀の屋敷跡があり、その南には13～14世紀の屋敷跡と14～15世紀の屋敷跡が東西に並ぶ。それらの南には15世紀頃の30m四方の区画溝が検出されている。遺跡南西部には13～14世紀の屋敷跡が検出されている。寿昌寺遺跡では14～15世紀の屋敷跡がある。築山遺跡で検出された15～16世紀の一町四方の屋敷跡は、塙治神社が正徳3（1713）年に現在地に遷座される前の旧塙治神社の敷地内であると考えられる。輸入陶磁器も多数出土し、13～14世紀には舟形木製品を使った祭祀を行なったと考えられる遺構も検出している。遺跡南西部の13～14世紀の想定一町四方の屋敷跡は塙治氏の推定期間跡地に位置しており、南東部調査地からは塙治氏家紋入りの漆器椀が出土している。ほかに塙治氏の館跡候補地として、土壠や堀の痕跡が残る淨音寺境内館跡がある。

神戸川左岸では、下古志遺跡で、幅約2mの堀や建物跡、井戸などを伴う16～17世紀頃の屋敷地と考えられる区画を検出している。屋敷外からは溝・建物跡・井戸・畝状の耕作跡が検出されている。これらは古代の遺構の集中箇所をずらして作られたようである。古志本郷遺跡でも古代遺構の集中する箇所とは多少ずれながら、区画溝を伴った建物跡、井戸がセットで検出されている。また遺跡中央の正法寺が存在していたとされる付近からは15世紀後半～17世紀の土壙墓が集中して検出されている。建物跡・井戸も検出されており、墓地を伴う寺跡の可能性が高い。また遺跡の北端にも15～17世紀の火葬墓・土壙墓が集中し、一部は古代の郡庁跡を壊している。

上長浜貝塚では、12世紀に再び貝塚が形成されるが、古代後半から「神門水海」が埋没し沼地化するに従い、飛砂も増えて漁業集落として機能しなくなる。「神門水海」の南部神西湖の南丘陵上に位置する九景川遺跡では、小貝塚を複数形成し鯨骨・漁労具などが出土することから、漁労も行なっていたと思われる。

寺院跡としては、大井谷II遺跡があげられる。古代と13世紀の大溝がいずれも15世紀頃に埋没し、その後般若寺への参道かと思われる階段状遺構、五輪塔を伴う墓域、建物跡、石敷き遺構などが造られている。荻原古墓では常滑焼の大甕に青磁碗・皿を副葬している。姫原西遺跡では中世後半の木棺墓が墓域を形成する。天神遺跡では遺跡北西部のL字状に区画した溝内に土壙墓が築かれている。また寿昌寺遺跡では東側に位置する（通称）中屋山で近世に土留めとして再利用された石塔が見つかっており、中世にその中腹に墓地があったと考えられている。

室町時代から戦国時代にかけて多数の山城が築かれる。当遺跡の北東の丘陵上には戦国時代に鳶ヶ巣城が築かれる。尼子氏復興戦の際には毛利氏による高瀬城攻略拠点となったことで著名である。斐伊川・神戸川の南丘陵寄りには、塙治氏との関わりが指摘される半分城跡、権現山城跡、大井谷城跡、向山城跡がある。向山城跡のすぐ北には平家に関わる城との伝承を持つ平家丸城跡が所在する。神戸

川左岸には、神西氏の居城である神西城跡、保知石氏の居城である高城跡・智伊館跡がある。比布智神社のある独立丘陵の頂部には土壘で囲繞された比布智館跡が存在する。また古志氏の居城である淨土寺山城跡・栗栖城跡がある。神戸川上流の朝山には、朝山氏の居城である姉山城跡、土壘の残る唐墨城跡がある。斐伊川左岸をやや遡ると瀧谷山城跡、畠ノ前城跡、上ノ郷氏の居城である上ノ郷城跡が斐伊川沿いに所在する。

近世

高浜Ⅰ遺跡（3区）では水田耕作地・墓域が検出され、高浜Ⅱ遺跡では墓域として利用される。

平野中央部に位置する矢野遺跡第2地点では、中世後半の居住域の後に建物跡・水溜め・井戸・土壙墓が、第3地点では墓域が検出されている。小山遺跡第2地点では、宅地跡の調査で、当該期の区画溝を伴う屋敷跡が検出されており、近世の居住地が現在の宅地として継続している様子が伺われる。中野美保遺跡では中世から近世にかけて遺跡全体が水田耕作地となり、人・牛の足跡が多数検出されている。旧斐伊川の洪水により水田を1～2回復旧した跡も確認されている。余小路遺跡では中世の屋敷地が近世まで利用されている。近世になると屋敷地内と外に土壙墓・木棺墓・桶棺墓群が4箇所認められる。遺跡のすぐ北側では高瀬川の普請が貞享4（1687）年に行なわれており、それに関連する遺跡の可能性がある。白枝本郷遺跡では中世の堀を壊して建物を建てている。井原遺跡では当該期の水路及び西側の微高地側に土壙墓などが検出されている。壱丁田遺跡の南部では、多くの土壙墓・木棺墓・骨壺墓が集中して検出されている。宝暦4（1754）年『神門郡北方萬指出帳』には、付近に「長圓寺」という寺が存在していたという記載があり、その寺の墓地の可能性がある。

塩冶地域では、天神遺跡で旧河道上の湿地になっている区間に石を敷いて安定させた道状遺構を検出している。角田遺跡では木棺墓と桶棺墓が近距離で検出されている。築山遺跡の東丘陵に位置する上塩冶横穴墓群第40支群6・7号穴墓道上付近には土壙墓が集中して出土している。上塩冶横穴墓群第33支群3～7号穴付近では、石塔がグループをなして出土しており、中世末～近世初頭にかけての墓地と考えられる。その石塔は、谷を挟んだ東側にある権現山石切場で製作されたものと考えられている。

神戸川左岸に位置する古志本郷遺跡では旧山陰道の周辺に建物跡が、遺跡中央の正法寺跡と思われる周辺に水田耕作地と建物跡が集中している。下古志遺跡の北西部では、早くに水田耕作地となり、牛の足跡が検出されており牛耕を行なっていたようである。南部では中世からの屋敷地が継続していくが、近世半ば頃には廃絶され水田耕作地となっている。

各遺跡の詳細は、「第1表 古代～近世前半 遺跡一覧表」（P.61～67）にまとめている。

〔古代以降の参考文献〕

高浜 I 遺跡

島根県教育委員会「高浜 I 遺跡」『一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2011
島根県教育委員会「高浜 I 遺跡（2 区）」『一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3』2016

九景川遺跡

島根県教育委員会「九景川遺跡」『一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 I』2008
島根県教育委員会「九景川遺跡」『一般国道 9 号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2017

玉泉寺裏遺跡

島根県教育委員会「玉泉寺裏遺跡」『一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 II』2008
島根県教育委員会「玉泉寺裏遺跡」『一般国道 9 号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2017

御崎谷遺跡

島根県教育委員会「御崎谷遺跡」『一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 III』2009

浅柄遺跡

出雲市教育委員会「浅柄遺跡」『西出雲駅南土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2000

浅柄 II 遺跡

島根県教育委員会「浅柄 II 遺跡」『山陰自動車道鳥取益田線（宍道～出雲間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2005

浅柄 III 遺跡

島根県教育委員会「浅柄 III 遺跡」『一般国道 9 号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4』2017

下古志遺跡

出雲市教育委員会「下古志遺跡」『一般県道多伎江南出雲線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2001

出雲市教育委員会「下古志遺跡」『平成 11 年度古志遺跡群範囲確認調査報告書』2002

出雲市教育委員会「下古志遺跡－考察編－」『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 12 集』2002

島根県教育委員会「下古志遺跡（第 3 次調査）」『一般県道多伎江南出雲線地域活力基盤創造交付金（交通安全）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2012

田畠遺跡

東森市良「破壊に瀕している低湿地遺跡」『季刊文化財 第 20 号』1973 島根県文化財愛護協会

田中義昭・宮本正保「出雲市田畠遺跡出土の弥生土器について」『山陰地域研究 第 5 号』1989 島根大学山陰地域研究総合センター

出雲市教育委員会「田畠遺跡」『市道浅柄古志線歩道設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2000

古志本郷遺跡

出雲市教育委員会「古志本郷遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 4 集』1994

出雲市教育委員会「古志本郷遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 5 集』1995

出雲市教育委員会「市道本郷新宮線道路改良工事に伴う古志本郷遺跡第 6 次発掘調査報告書』1998

出雲市教育委員会「古志地区土地改良総合事業地内古志本郷遺跡発掘調査報告書』1999

島根県教育委員会「古志本郷遺跡 I」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 VI』1999

島根県教育委員会「古志本郷遺跡 II」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XI』2001

島根県教育委員会「古志本郷遺跡 III」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XII』2001

島根県教育委員会「古志本郷遺跡 IV」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 14』2002

出雲市教育委員会「古志本郷遺跡」『平成 11 年度古志遺跡群範囲確認調査報告書』2002

島根県教育委員会「古志本郷遺跡 V 出雲国神門郡家閑連遺跡の調査」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XVI』2003

島根県教育委員会「古志本郷遺跡 VI-K 区の調査」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XVII』2003

古志遺跡

出雲市教育委員会「古志遺跡」『古志運動広場等整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2005

小浜山横穴墓群 I（神門横穴墓群第 10 支群）

出雲市教育委員会「小浜山横穴墓群 I（神門横穴墓群第 10 支群）」『十間川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1995

三田谷 I 遺跡

島根県教育委員会「三田谷 I 遺跡 Vol.1」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 V』1999

島根県教育委員会「三田谷 I 遺跡 Vol.2」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 VII』2000

島根県教育委員会「三田谷 I 遺跡 Vol.3」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 IX』2000

出雲市教育委員会「三田谷 I 遺跡」『塩冶 299 号線道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2000

三田谷 II 遺跡

島根県教育委員会「三田谷 II 遺跡」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 I』1994

権現山石切場跡

島根県教育委員会「権現山石切場跡」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XV』2003

上塩治横穴墓群

島根県教育委員会「上塩治横穴墓群第 7・12・22・23・33・35・36・37 支群」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 IV』1998

出雲市教育委員会「上塩治横穴墓群第 33 支群」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 14 集』2004

出雲市教育委員会「上塩治横穴墓群第 40 支群」『県道出雲三刀屋線上塩治工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1』出雲市の文化財報告 32 2016

上沢Ⅲ遺跡

島根県教育委員会「上沢Ⅲ遺跡」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XII』2001

長廻遺跡

島根県教育委員会「長廻遺跡 (Vol.1)」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XⅢ』2001

島根県教育委員会「長廻遺跡 (Vol.2)」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XVIII』2003

出雲市教育委員会「長廻遺跡」『斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書 IV』2003

大井谷Ⅱ遺跡

出雲市教育委員会「大井谷Ⅱ遺跡」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 III』2001

出雲市教育委員会「大井谷Ⅱ遺跡」『斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書 IV』2003

寿昌寺遺跡

出雲市教育委員会「寿昌寺遺跡」『出雲市築山土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2004

築山遺跡

出雲市教育委員会『塩治判官館跡』2003

出雲市教育委員会『上塩治築山古墳』2004

出雲市教育委員会「築山遺跡」『出雲市築山土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2004

出雲市教育委員会「築山遺跡 I」『県道出雲三刀屋線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2005

出雲市教育委員会「築山遺跡 II」『県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2007

出雲市教育委員会「築山遺跡 III」『県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』出雲市の文化財報告 5 2009

出雲市教育委員会「築山遺跡 IV」『県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』出雲市の文化財報告 6 2009

出雲市教育委員会「築山遺跡」『平成 26 年度出雲市文化財調査報告書』出雲市の文化財報告 27 2015

角田遺跡

出雲市教育委員会「角田遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 5 集』1995

出雲市教育委員会「角田遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 8 集』1998

出雲市教育委員会「角田遺跡第 3 次発掘調査報告書」『都市計画道路天神一の谷線道路改良事業地内』2004

出雲市教育委員会「角田遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 16 集』2006

神門寺境内廃寺・神門寺付近遺跡

池田満雄「史跡、初期寺院址」『出雲市の文化財－出雲市文化財調査報告第一集－』1956 出雲市教育委員会

出雲市教育委員会『神門寺境内廃寺－第 1 次発掘調査概報－』1983

出雲市教育委員会『神門寺境内廃寺－第 2 次発掘調査概報－』1984

出雲市教育委員会『神門寺境内廃寺』1985

出雲市教育委員会「神門寺付近遺跡」『出雲市都市計画道路(医大前新町線 3 工区)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』出雲市の文化財報告 9 2009

出雲市教育委員会「神門寺付近遺跡 II」『出雲市都市計画道路医大前新町線 3 工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』出雲市の文化財報告 13 2010

出雲市教育委員会「神門寺付近遺跡 III」『出雲市都市計画道路医大前新町線 3 工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3』出雲市の文化財報告 23 2013

高西遺跡

出雲市教育委員会「高西遺跡」『出雲市都市計画道路医大前新町線 3 工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3』出雲市の文化財報告 23 2013

天神遺跡

池田満雄「考古資料」『出雲市の文化財－出雲市文化財調査報告第一集－』1956 出雲市教育委員会

出雲市『出雲市天神遺跡 調査の記録』1972

東森市良「破壊に瀕している低湿地遺跡」『季刊文化財 第 20 号』1973 島根県文化財愛護協会

出雲市教育委員会「天神遺跡」『国立島根医科大学教職員宿舎建設にかかる緊急発掘調査概報』1977

出雲考古学研究会「天神遺跡の諸問題－'78 年発掘調査報告－」『古代の出雲を考える 1』1979

大国晴雄「天神遺跡の問題」『菅田考古 第 15 号』1979 島根大学考古学研究会

出雲市教育委員会『建設省職員宿舎新築に伴う天神遺跡発掘調査報告書』1982

出雲市教育委員会『建設省職員宿舎新築に伴う天神遺跡発掘調査報告書 IV』1986

出雲市教育委員会『出雲市駅付近連続立体交差事業地内天神遺跡第 7 次発掘調査報告書』1997

出雲市教育委員会『建設省職員宿舎新築に伴う天神遺跡第 8 次発掘調査報告書』1996

出雲市教育委員会『出雲市駅付近連続立体交差事業地内天神遺跡第 9 次発掘調査報告書』1999

出雲市教育委員会「天神遺跡 (第 10 次発掘調査)」『市道山陰本線北沿線設置予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』2002

出雲市教育委員会『(社)中国建設弘済会事務所建設に伴う天神遺跡第 11 次発掘調査』2001

出雲市教育委員会「天神遺跡第 12 次発掘調査」『都市計画道路山陰本線南沿線設置予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』2002

藤ヶ森南遺跡

出雲市教育委員会「藤ヶ森南遺跡」『出雲郵便局移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1999

藤ヶ森遺跡

出雲市教育委員会「藤ヶ森遺跡(Ⅰ地点・Ⅱ地点)発掘調査報告書」『JR山陰本線・私鉄一畑電鉄連続立体交差事業地内』1998

出雲市教育委員会「藤ヶ森遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第11集』2001

善行寺遺跡

出雲市教育委員会「善行寺遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第7集』1997

海上遺跡

出雲市教育委員会「海上遺跡」『出雲市民病院移転予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』2002

余小路遺跡

島根県教育委員会「余小路遺跡」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書8』2007

島根県教育委員会「余小路遺跡(2)」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書9』2008

出雲市教育委員会「余小路遺跡」『神戸川(赤川)広域基幹河川改修事業埋蔵文化財発掘調査報告書』出雲市の文化財報告2 2008

白枝本郷遺跡

島根県教育委員会「白枝本郷遺跡」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書7』2006

壱丁田遺跡

出雲市教育委員会「出雲市駅前白枝線街路事業地内壱丁田遺跡発掘調査報告書」1998

出雲市教育委員会「壱丁田遺跡(2次調査)」『都市計画道路「出雲市駅前白枝線」街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』出雲市の文化財報告3 2008

出雲市教育委員会「壱丁田遺跡第3次発掘調査報告書」『出雲市白枝北土地区画整理事業地内壱丁田遺跡発掘調査報告書』2006

白枝荒神遺跡

出雲市教育委員会「白枝荒神遺跡」『市道松寄下小山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1997

出雲市教育委員会「白枝荒神遺跡」『白枝地区ふるさと農道整備事業に伴う発掘調査報告書』2002

井原遺跡

出雲市教育委員会「井原遺跡発掘調査報告書」『新内藤川広域基幹河川改修事業地内』2002

出雲市教育委員会「井原遺跡」『白枝地区ふるさと農道整備事業に伴う発掘調査報告書』2002

渡橋沖遺跡

島根県教育委員会「渡橋沖遺跡」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告3』1999

蔵小路西遺跡

島根県教育委員会「蔵小路西遺跡」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2』1999

姫原西遺跡

島根県教育委員会「姫原西遺跡」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告1』1999

出雲市教育委員会「姫原西遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第9集』1999

上長浜貝塚

出雲市教育委員会「上長浜貝塚」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第1集』1988

出雲市教育委員会『上長浜貝塚』1996

中野西遺跡

出雲市教育委員会「中野西遺跡」『出雲市北部第二土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』2002

中野美保遺跡

出雲市教育委員会「中野美保遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第11集』2001

島根県教育委員会「中野美保遺跡」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4』2004

出雲市教育委員会「中野美保遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第15集』2005

中野清水遺跡(大津町北遺跡は含める)

島根県教育委員会「中野清水遺跡・大津町北遺跡」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5』2004

島根県教育委員会「中野清水遺跡(2)」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6』2005

島根県教育委員会「中野清水遺跡(3)」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書7』2006

矢野遺跡

山本清「弥生式文化」『新修島根県史 通史篇1 考古・古代・中世・近世』1968 島根県

東森市良「破壊に瀕している低湿地遺跡」『季刊文化財 第20号』1973 島根県文化財愛護協会

池田満雄・足立克己「出雲市矢野遺跡出土の縄文土器」『島根考古学会誌 第4集』1979

出雲考古学研究会「出雲市矢野遺跡出土の特殊器台形・壺形土器」『八雲立つ風土記の丘 No.74』1985 島根県立八雲立つ風土記の丘

出雲考古学研究会「矢野遺跡とその周辺」『古代の出雲を考える5 出雲平野の集落遺跡II』1986

田中義昭ほか「出雲市矢野遺跡の研究(1)」『山陰地域研究 第3号』1987 島根大学山陰地域研究総合センター

島根県教育委員会「古代玉作遺跡の概要 矢野遺跡」『島根県生産遺跡分布調査報告書IV 玉作関係遺跡』1987

田中義昭ほか「出雲市矢野遺跡の発掘調査」『古代出雲文化の展開に関する総合的研究—斐伊川下流域を中心として—』1989 島根大学山陰地域研究総合センター

出雲市教育委員会「出雲健康公園整備プロジェクト事業に伴う矢野遺跡第2地点発掘調査報告書」1991

田中義昭「出雲市矢野遺跡第1地点の調査」『古代金属生産の地域的特性に関する研究—山陰地方の銅・鉄を中心にして—』1992 島根大学山陰地域研究総合センター

出雲市教育委員会「矢野遺跡」『四絡地区遺跡発掘調査報告書』1992

出雲市教育委員会「矢野遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第10集』2000

出雲市教育委員会「矢野遺跡」『新内藤川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』出雲市の文化財報告 10 2010

大塚遺跡

出雲考古学研究会「矢野遺跡とその周辺」『古代の出雲を考える 5 出雲平野の集落遺跡Ⅱ』1986

島根県教育委員会「大塚遺跡」『一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1』2009

小山遺跡

田中義昭「出雲市小山遺跡第1地点の調査」『古代金属生産の地域的特性に関する研究—山陰地方の銅・鉄を中心にして—』1992 島根大学山陰地域研究総合センター

出雲市教育委員会「県立看護短大教員宿舎整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 小山遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第6集』1996

出雲市教育委員会『市道渡橋平野線道路改良工事に伴う 小山遺跡第2地点発掘調査報告書』1998

出雲市教育委員会『平成9年度島根県立看護短期大学教職員宿舎建設に伴う 小山遺跡発掘調査報告書』1999

出雲市教育委員会『平成12年度市道四絡30号外1線道路改良工事に伴う 小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第3次発掘調査）』2002

出雲市教育委員会『平成12年度四絡幼稚園改築事業に伴う 小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第4次発掘調査）』2002

出雲市教育委員会『四絡30号外1線改良工事地内 小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第5次発掘調査）』2005

出雲市教育委員会「小山遺跡」『平成23年度出雲市文化財調査報告書』出雲市の文化財報告 20 2012

高浜II遺跡・里方八石原遺跡

出雲市教育委員会「里方八石原遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第8集』1998

出雲市教育委員会「高浜II遺跡」『高浜地区ふるさと農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1999

出雲市教育委員会「高浜II遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第10集』2000

下澤遺跡

島根県教育委員会「下澤遺跡」『国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 11』2013

里方本郷遺跡

島根県教育委員会「里方本郷遺跡」『国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6』2008

高岡遺跡

出雲市教育委員会「高岡遺跡」『出雲ジュンテンドー敷地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2000

高岡II遺跡

出雲市教育委員会「高岡II遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第16集』2006

山持遺跡（山持川川岸遺跡を含める）

島根県教育委員会「2出雲・山持川川岸遺跡」『島根県埋蔵文化財調査報告書 第VIII集』1981

出雲市教育委員会『山持川川岸遺跡』1996

島根県教育委員会「山持遺跡 Vol.1」『国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2005

島根県教育委員会「山持遺跡 II・III区 Vol.2」『国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 IV』2007

島根県教育委員会「山持遺跡（IV区）Vol.3」『国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 V』2007

島根県教育委員会「山持遺跡 4（5・7区）」『国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6』2008

島根県教育委員会「山持遺跡（6区）Vol.5」『国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7』2009

出雲市教育委員会「山持遺跡」『平成23年度出雲市文化財調査報告書』出雲市の文化財報告 20 2012

その他

出雲市教育委員会『出雲市文化財－出雲市文化財調査報告第一集－』1956

島根県教育委員会『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書』1980

出雲市教育委員会『古墳と城跡』『出雲市文化財』1981

出雲考古学研究会「出雲平野の集落遺跡 I」『古代の出雲を考える 3』1983

出雲市教育委員会『塩治地区遺跡分布調査 I』1986

出雲市教育委員会『塩治地区遺跡分布調査 II』1987

出雲市教育委員会『古志地区遺跡分布調査報告書』1988

田中義昭・西尾克己「出雲平野における原始・古代集落の分布について」『山陰地域研究 第4号』1988 島根大学山陰地域研究総合センター

出雲市教育委員会『神門地区遺跡詳細分布調査報告書』1989

西尾克己・大国晴雄「出雲平野の古墳」『出雲市民文庫 9』1991 出雲市教育委員会

出雲市教育委員会『出雲市遺跡地図』1993

出雲市教育委員会『遺跡が語る古代の出雲』1997

島根県教育委員会「出雲・隱岐の城館跡」『島根県中世城館跡分布調査報告書 <第2集>』1998

松本岩雄・松尾充晶「史料編（民俗・考古資料）」『大社町史』2002 大社町

佐藤 信「出土文字資料が語るあたらしい古代史像」『出土文字資料が語る古代の出雲平野 平成15年度島根県埋蔵文化財調査センター講演会資料』2004 島根県埋蔵文化財調査センター

藤永照隆「遺跡の分布からみた出雲平野の古地理再考」『八雲立つ風土記の丘 No.182』2005 島根県立八雲立つ風土記の丘

米田美江子「遺跡分布から見た出雲平野の形成史」『島根考古学会誌 第23集』2006 島根考古学会

出雲塩冶誌刊行委員会『出雲塩冶誌』2009

京都国立博物館・島根県立古代出雲歴史博物館『古事記1300年・出雲大社大遷宮特別展覧会 大出雲展』2012

高浜歴史研究会『高浜探訪』2015

第3章 高浜I遺跡

第1節 調査の概要（第2図～第9図）

高浜I遺跡は県道斐川・大社線の北側から一畠電鉄大社線の南側にかけて広がる大規模な集落跡である。調査区は東西に延びる水路により南北に分かれるため、北を3-1区、南を3-2区とした。3-1区は宅地、3-2区は畑および水田として利用されていた。調査前の標高は3-1区が4.8m、3-2区が3.9m前後であった。

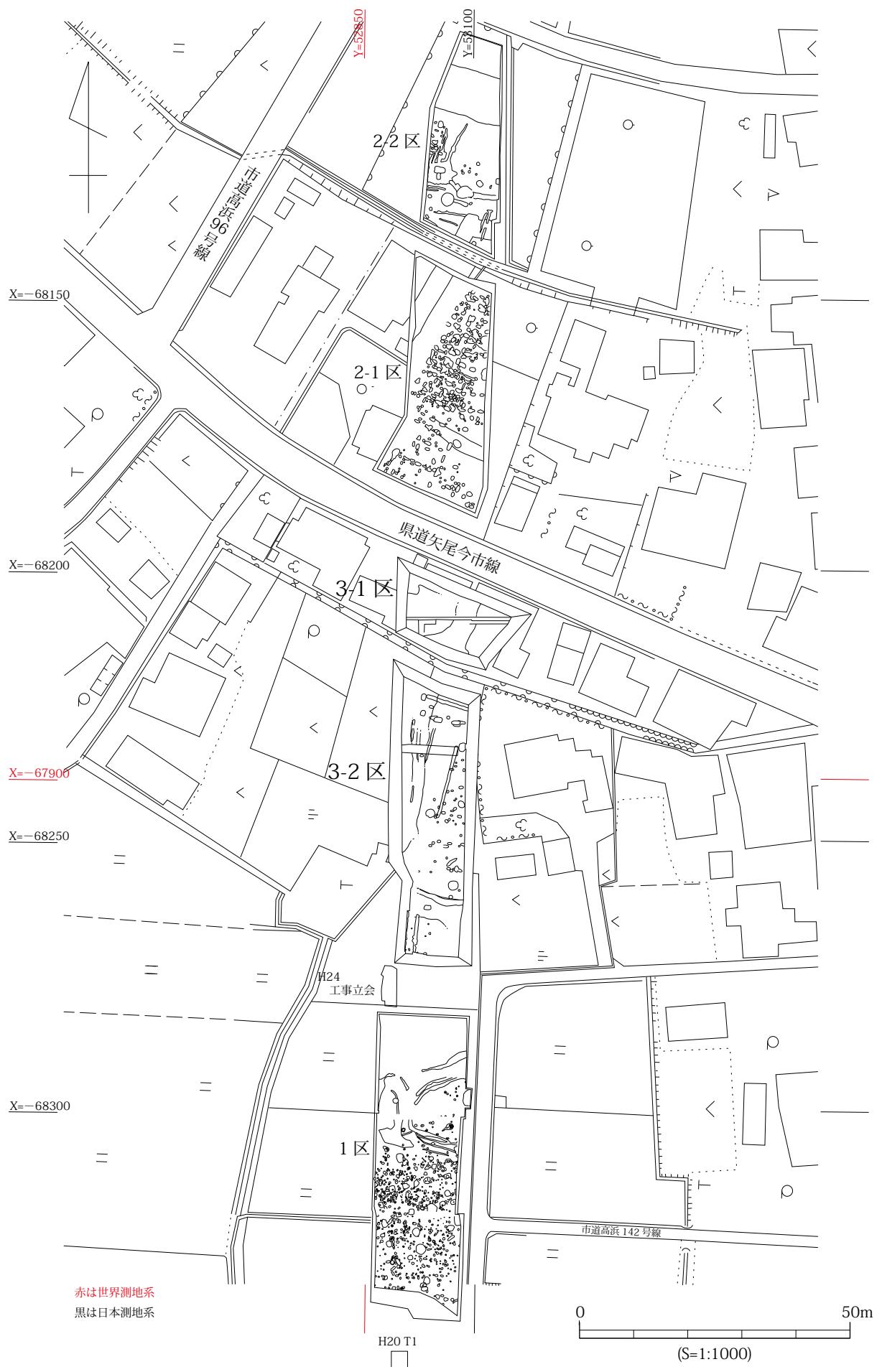
調査は国土座標、X= - 67860 と Y=52850 の交点を基準に、10m メッシュでグリッドを設定し、遺構に伴わない遺物の取り上げをおこなった（第4図）。

3-1区は宅地造成土の下層には、旧水田耕作土と思われる粘質土と砂質土が堆積する（5・6・7層）。その下層、標高3.4～3.5mで青灰色～黄灰色粘質土（基盤層）となる。基盤層の上面は平たんではなく、調査区中央や東端で浅く窪み、砂質土（10層・20層）が堆積する。この堆積は南北方向の自然河道（NR02）によるものと思われる。基盤層は北側の2区で検出した硬い黄褐色土と異なり、グライ化した粘質土となっている。遺構は確認されず、2区の屋敷地が営まれた時期には居住域ではなかったと思われる。遺物は表土（2層）から最下層の青灰色砂質土（20層）まで混ざっている。

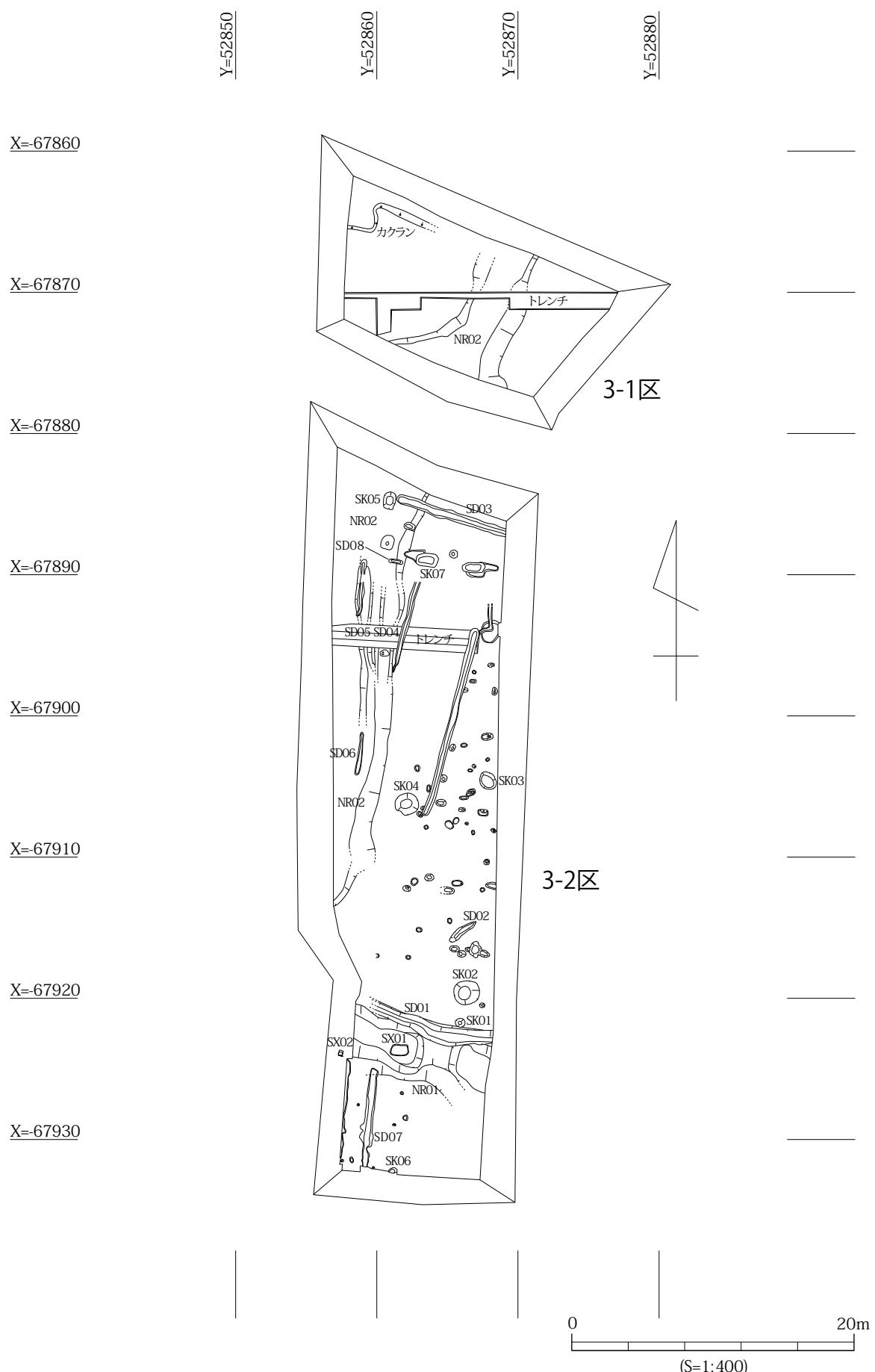
3-2区では畑・水田耕作土の下層で硬い褐色土の基盤層を検出した。標高は3.8～3.5mで、調査区中ほどでは茶褐色土（10層）と灰色土（9層）を盛り土し遺構面としている。茶褐色土には、わずかに遺物が含まれていた。第9図の1は調査区東壁で出土した。須恵器甕の胴部破片である。焼きが甘く、内外面・断面が摩耗している。外面に平行タタキ、内面に同心円当て具痕がみえる。2は中世須恵器系の鉢である。底部内面に細かいハケ調整をし、体部は放射状に粗いハケ調整をする。3は「瓷器」系陶器の甕で、備前焼の可能性がある。1区でも須恵器・土師器の細片が混ざった整地層が確認されている。調査区の整地層には中世後期の遺物が混ざっており、1区とは整地された時期が異なるものと思われる。遺構面は調査区北東に向けて高くなる。この遺構面は西側を流れる自然河道NR02、南側のNR01上面につながっている。NR01の南側には硬い基盤層はみられず、グライ化した青灰色土となる。NR01が削り込んでいる青灰色粘質土からは、第9図4の須恵器高台付き壺が1点出土したのみである。同じ青灰色粘質土は南側の1区にもみられ、上面から鉄鏃と木製品が出土している。この層は厚さ1m以上堆積し、さらに下層で腐食土層（オモカス層）を確認している。1区と3区の間には自然河道が流れ、周囲に湿地がひろがっていたことがわかる。

調査の結果、柱穴50基あまりと溝8条、土坑7基、墓2基のほか、自然河道2条を検出した。柱穴・土坑は調査区東寄り、B4・B5・B6グリッドを中心に検出している。柱穴のなかに、盛り土を掘り下げる段階で検出したものもある。土坑は切り合い関係や出土遺物から、いずれも近世・近代の廃棄土坑と考えられる。

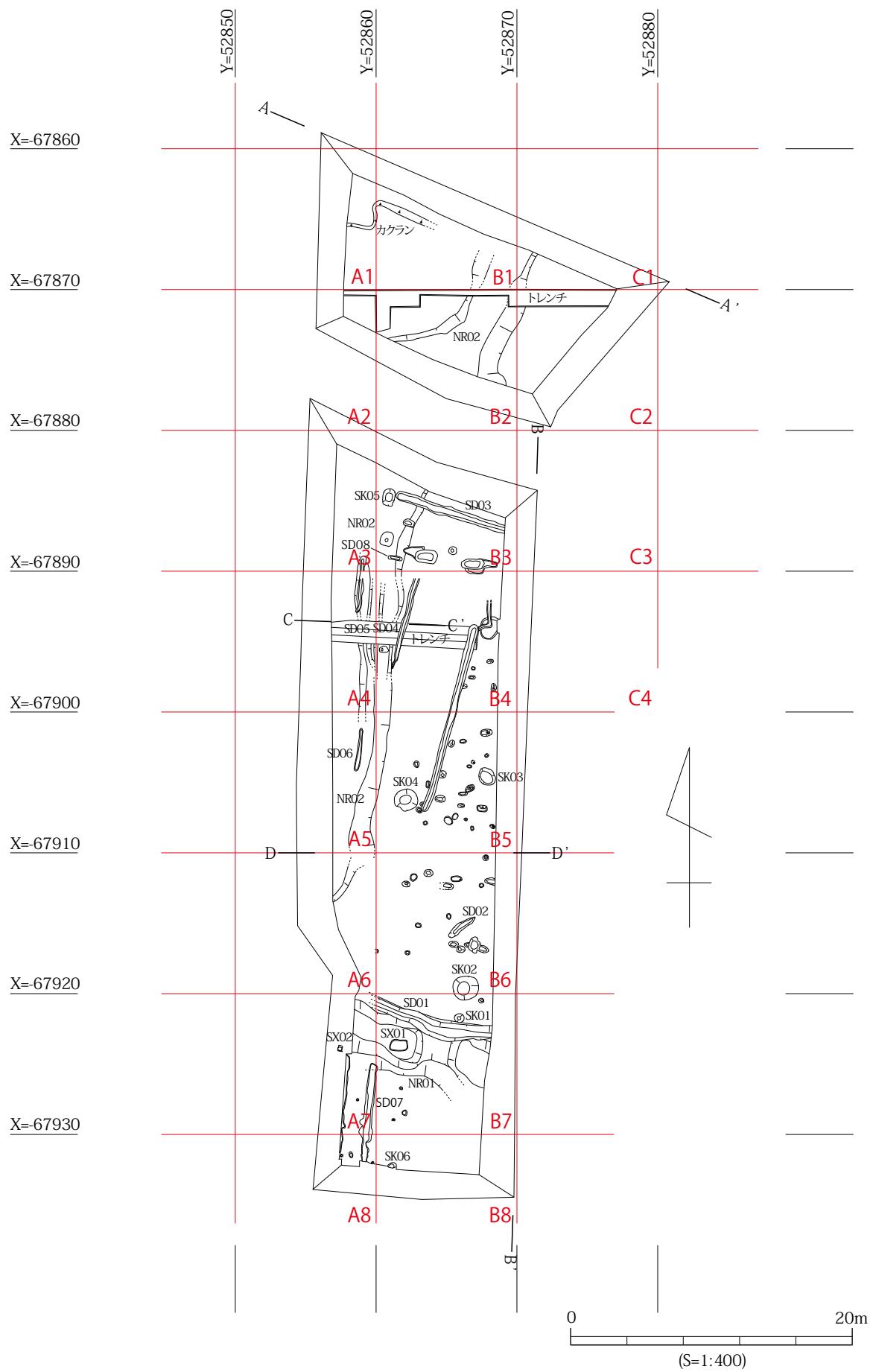
また遺構に伴わないが中世の土師器、石鍋、青磁のほか、近世以降の陶磁器類が多数出土している。近世・近代の遺物は3-2区A3・B3・C3グリッドで多くみられる。北側を流れる水路の浚渫などに伴い、廃棄されたものと思われる。



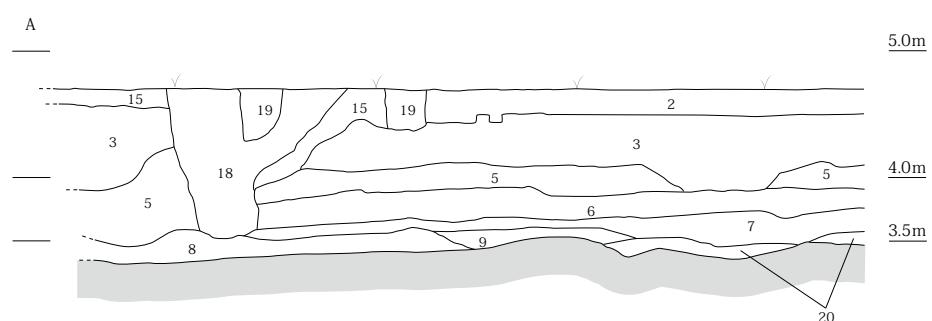
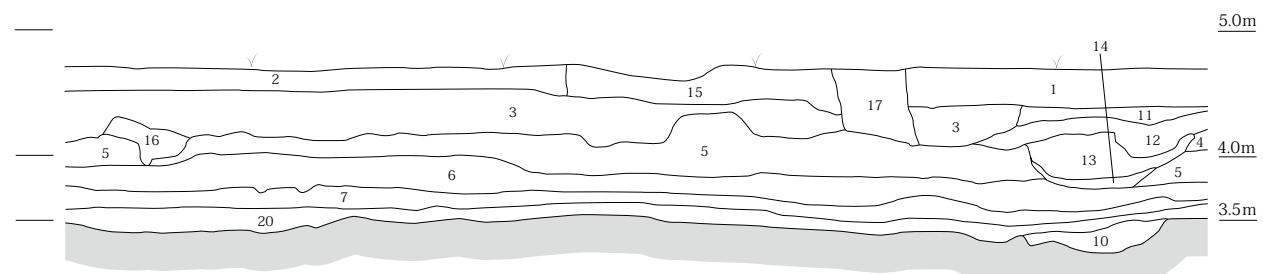
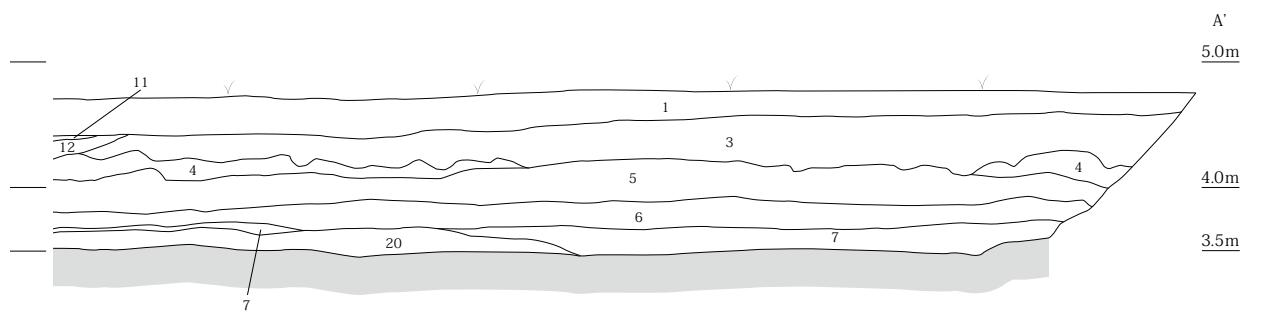
第2図 高浜I遺跡調査区配置図



第3図 調査区全体図



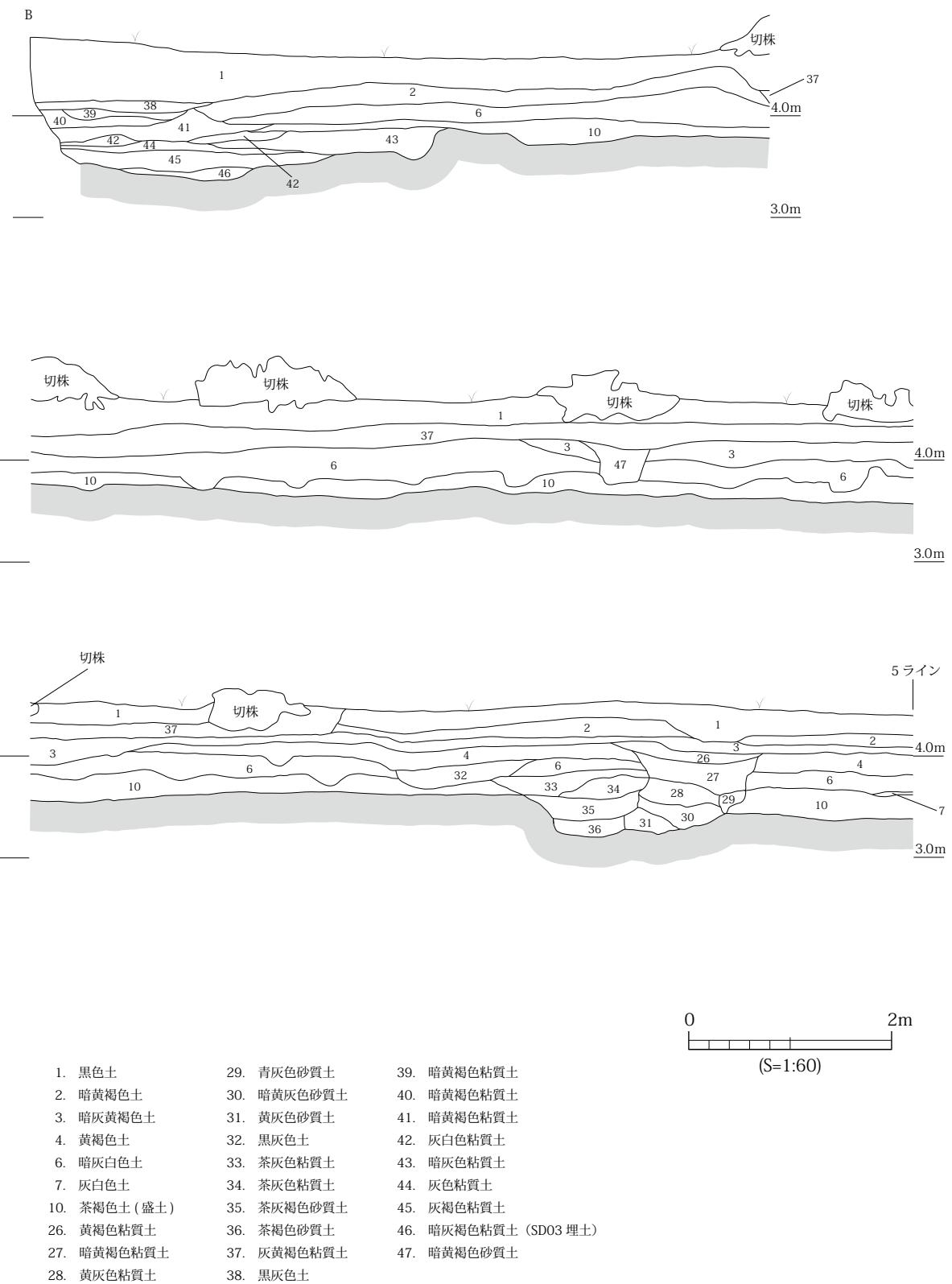
第4図 調査区グリッド配置図



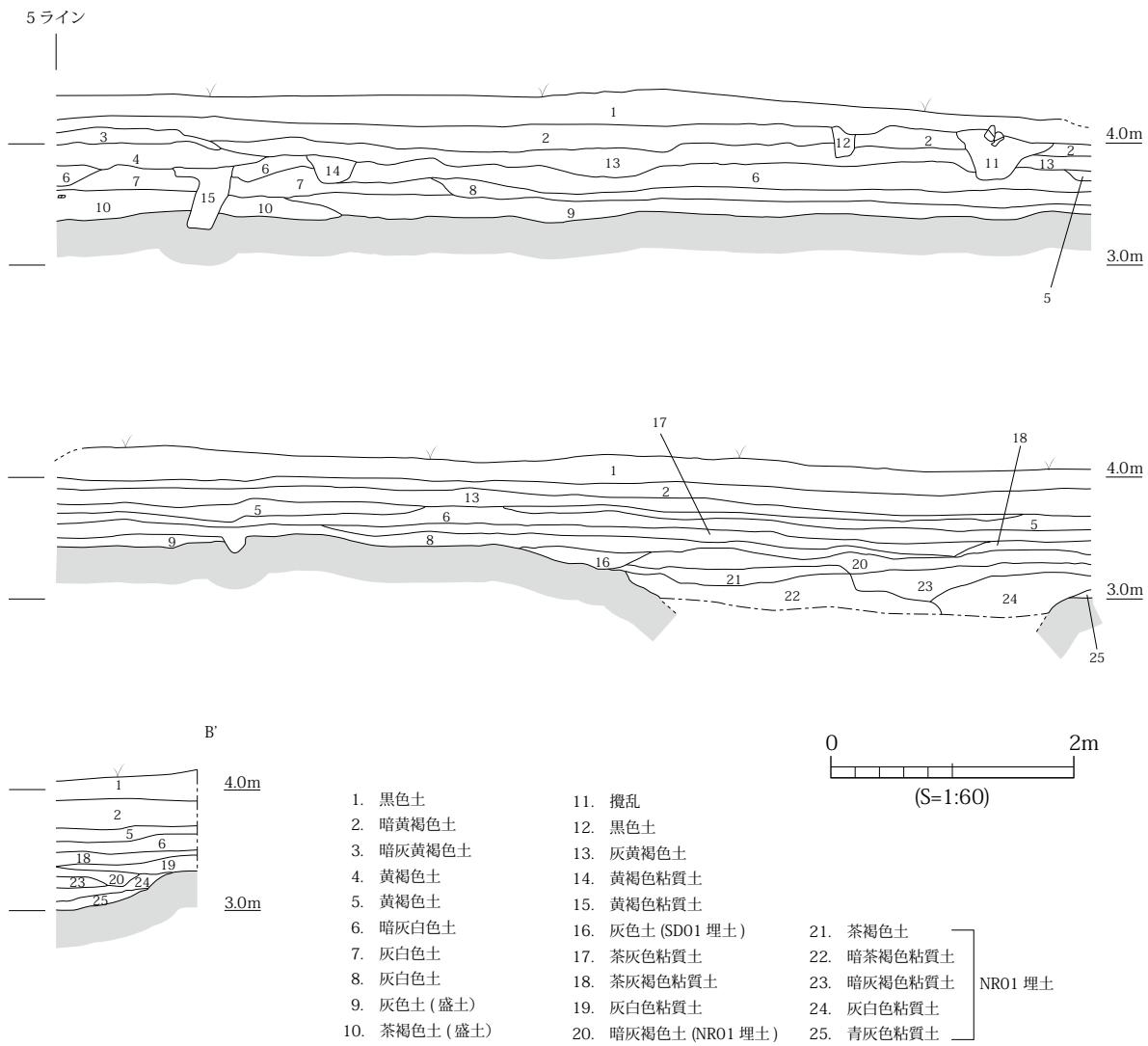
- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. パラス | 11. 茶褐色砂質土(造成土) |
| 2. 表土 | 12. 灰色土(鉄分含) |
| 3. 茶褐色土(造成土) | 13. 黄灰色砂質土 |
| 4. 灰色土 | 14. 灰色土(溝の堆積土) |
| 5. 灰色粘質土 | 15. 真砂土 |
| 6. 灰色砂質土 | 16. 撥乱 |
| 7. 灰白色粘質土 | 17. 撥乱 |
| 8. 黄褐色粘質土 | 18. 撥乱 |
| 9. 灰白色土 | 19. 水路跡 |
| 10. 青灰色砂質土 | 20. 青灰色砂質土 |

0 2m
(S=1:60)

第5図 3-1区北壁土層断面図



第6図 3-2区東壁土層断面図(1)



第7図 3-2区東壁上層断面図(2)

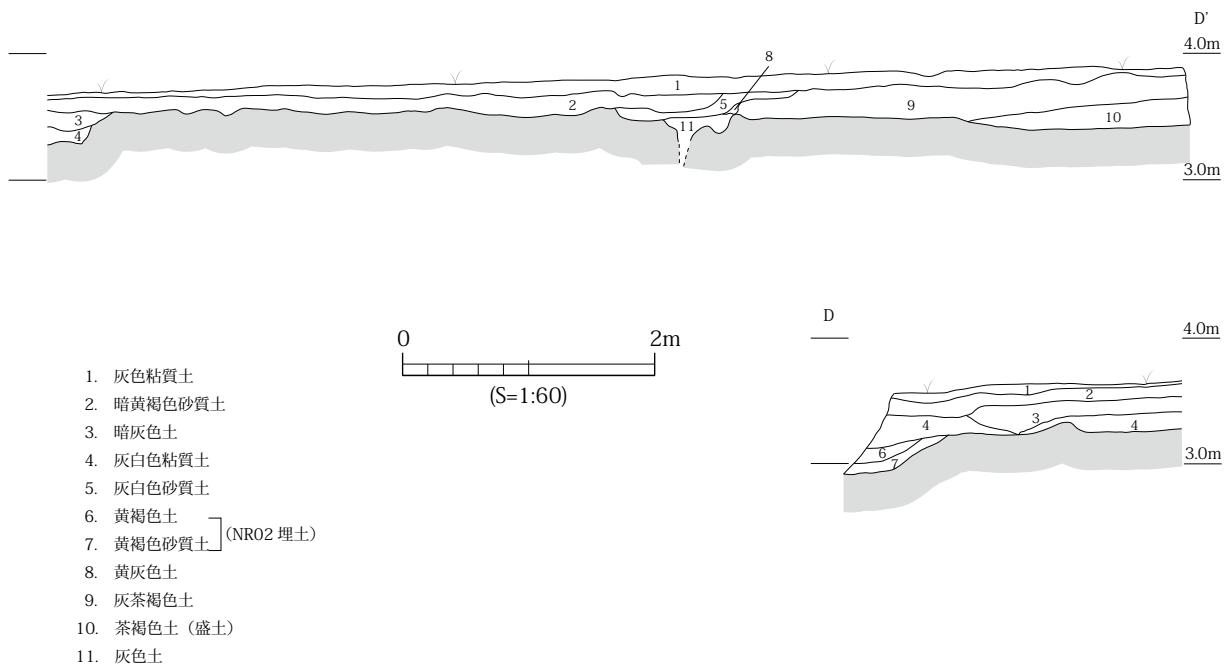
第2節 遺構の調査

1. 柱穴群 (第10図～第14図・第16図・第17図)

B4・B5・B6 グリッドで柱穴群を検出した。柱穴は50基あまりだが、建物は復元できなかった。柱穴は直径30～50cm、検出面からの深さ20～30cm前後である。さらに小型で浅いピットもあり、遺構の性格は明確でない。2区建物跡の柱穴は径・深さともに1m前後あるのに対し、3区は小規模である。埋土は大きく灰褐色土と淡灰色・灰色土に分かれる。遺構は切り合い、整地層を掘り下げて確認したものもあるため、すべて同時期ではない。遺物が出土していないため時期は不明である。ピット33・ピット46には柱根が残っていた(第14図)。

柱穴出土遺物 (第18図)

ピット33の柱根である。長さ85.5cm、最大径16.5cmの芯持材である。先端は粗くはつって平らに仕上げている。側面には1か所、えつり孔が彫り込まれている。えつり孔は幅5.0～6.5cm、深さ4.0cm前後の不整な長方形をしている。



第8図 3-2区5ライン土層断面図

2. 溝状遺構

自然流路に平行する水路と思われる溝跡 (SD01・04・05)、現在の水路に平行するもの (SD03)、水田耕作に関係する溝跡 (SD07 など)などを検出した。時期は SD01 が 16 世紀以降、SD03・04・05 は 17 世紀以降、SD07 は 18 世紀以降と思われる。

SD01 (第 16 図・第 23 図) 自然河道 NR01 の埋め戻しの後に開削されている。南西から北東に延びる。幅 90 ~ 110cm 前後、深さ 20cm である。石が多数含まれており、溝の埋没時に投棄されたと考えられる。

SD02 (第 12 図・第 15 図) B6 グリッドで検出した長楕円形の溝である。長さ 2.1m、深さ 5 ~ 10cm、幅 50cm 前後である。

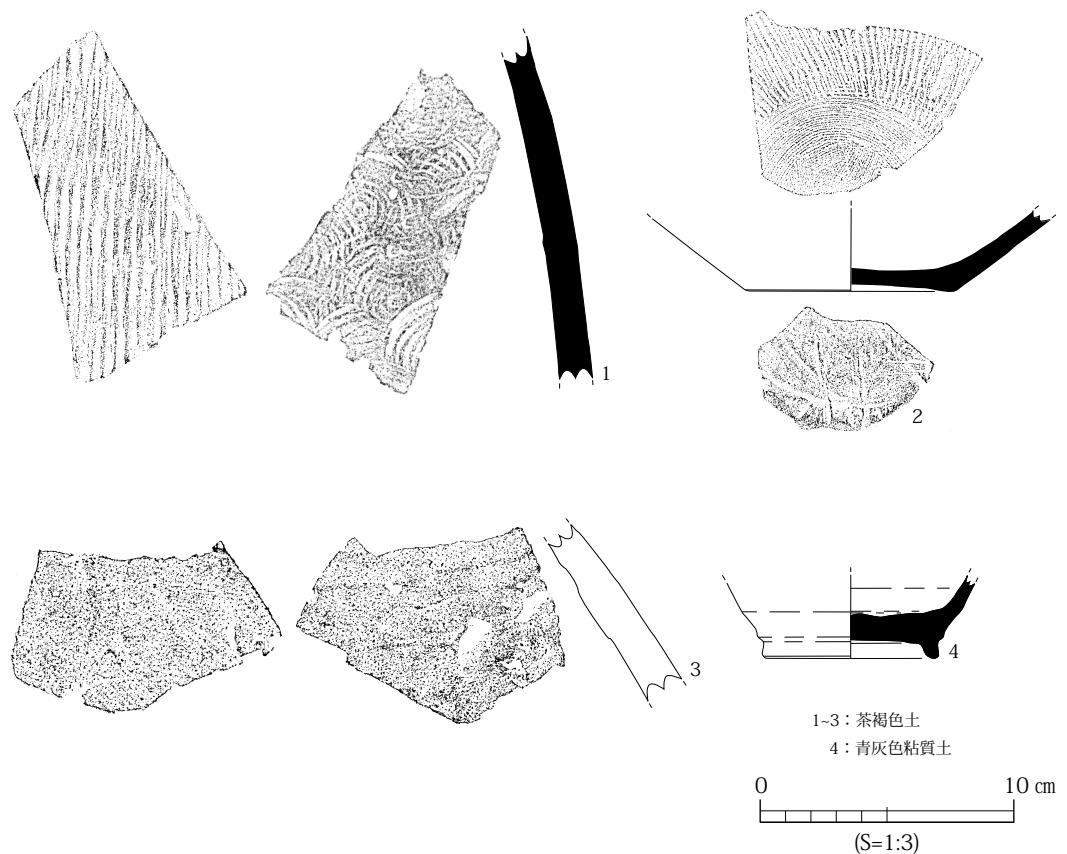
SD03 (第 10 図) NR02 埋没後に開削されている。東西方向に延び、幅 60cm 前後である。この溝跡は北側を流れる水路と平行する。南側には杭列や SK07 など近代以降の廃棄土坑が造られていた。

SD04・05 (第 4 図・第 10 図・第 12 図・第 24 図) NR02 埋没後に開削されている。南北方向に平行して延び、SD05 が新しい。SD04 を埋め立てて居住域を広げている。規模は幅 80 ~ 130cm 前後、底面の標高は 3.1m である。

SD06 (第 12 図) SD04・05 の埋没後に開削されている。南北方向に延びる溝で、幅 20 ~ 30cm、深さ 16cm。近代以降と思われる。

SD07 (第 16 図) A7・A8 グリッドで検出した。幅 45 ~ 50cm、深さ 10cm 前後である。埋土は灰色土である。西に平行して流れる溝がある。

SD08 (第 10 図) NR02 埋没後に掘削されている。東西方向に長い長楕円形をしている。長さ 1m、幅 22cm、深さ 30cm である。



第9図 3-2区茶褐色土・青灰色粘質土出土遺物実測図

溝状遺構出土遺物（第19図）

SD01からは産地不明の陶器が出土している（図版18-1 №.1）。SD03からは1・2が出土した。どちらも土師器鉢で1は口縁部、2は底部の破片である。1は内面に煤が付着している。2は剥落により外面が凸凹している。内面には粗いハケメを施す。SD07からは、青磁輪花碗の小片（図版18-1 №.2）が出土している。SD08からは3の肥前陶器が出土している。内外面に白化粧のハケメを施す。18世紀前半。

3. 土坑

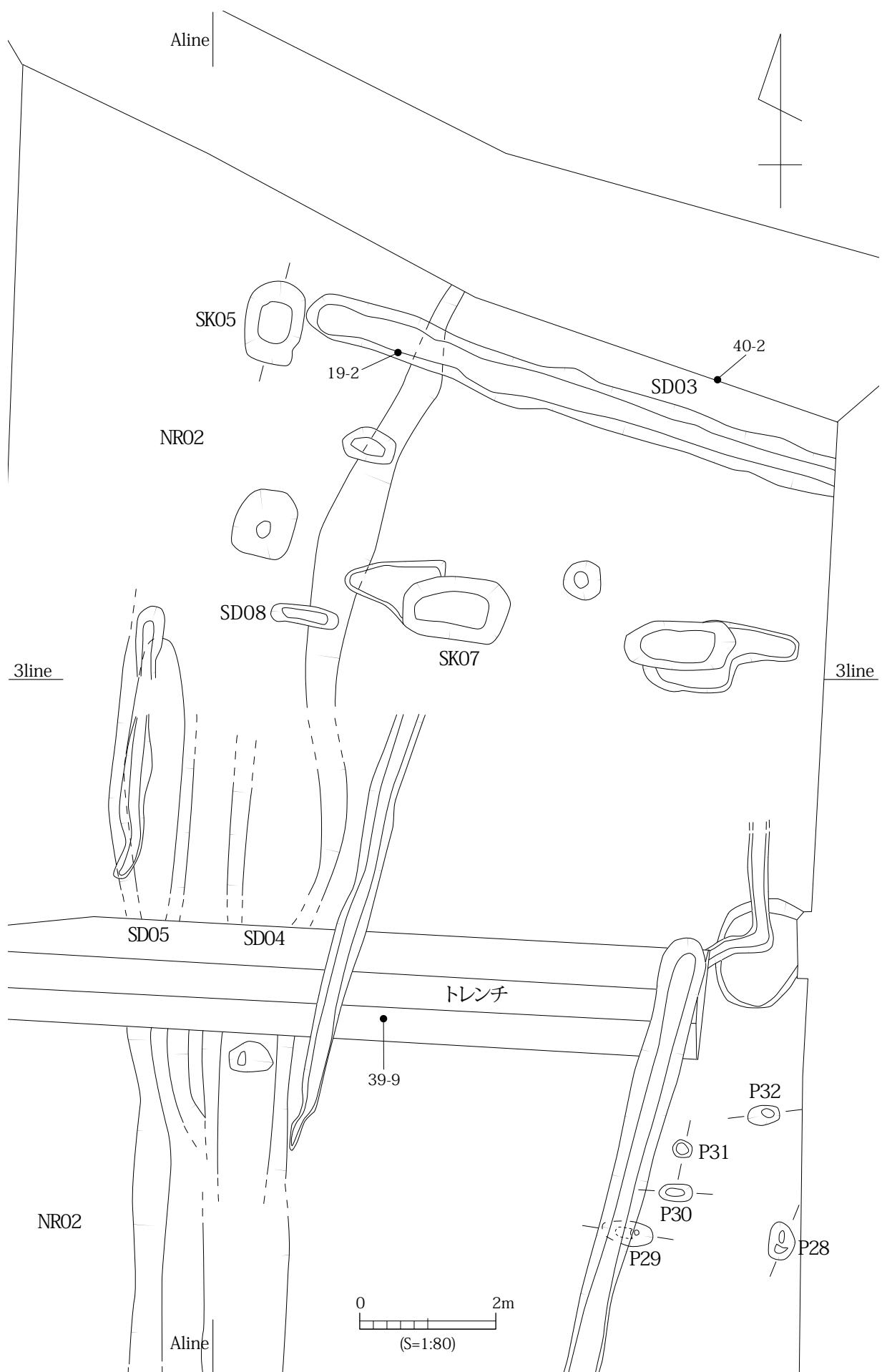
いずれも廃棄土壌と考えられる。SK02～05は直径1m以上の大型土壌である。SK01～05・07は埋土や出土遺物、遺構の切り合い関係から近代以降と考えられる。

SK01（第16図・第17図） B7グリッドで検出した。SD01の掘り方（北側）と重複しSD01より新しい。平面円形をし、63cm×66cm、深さ20cmである。埋土は3層に分かれている。

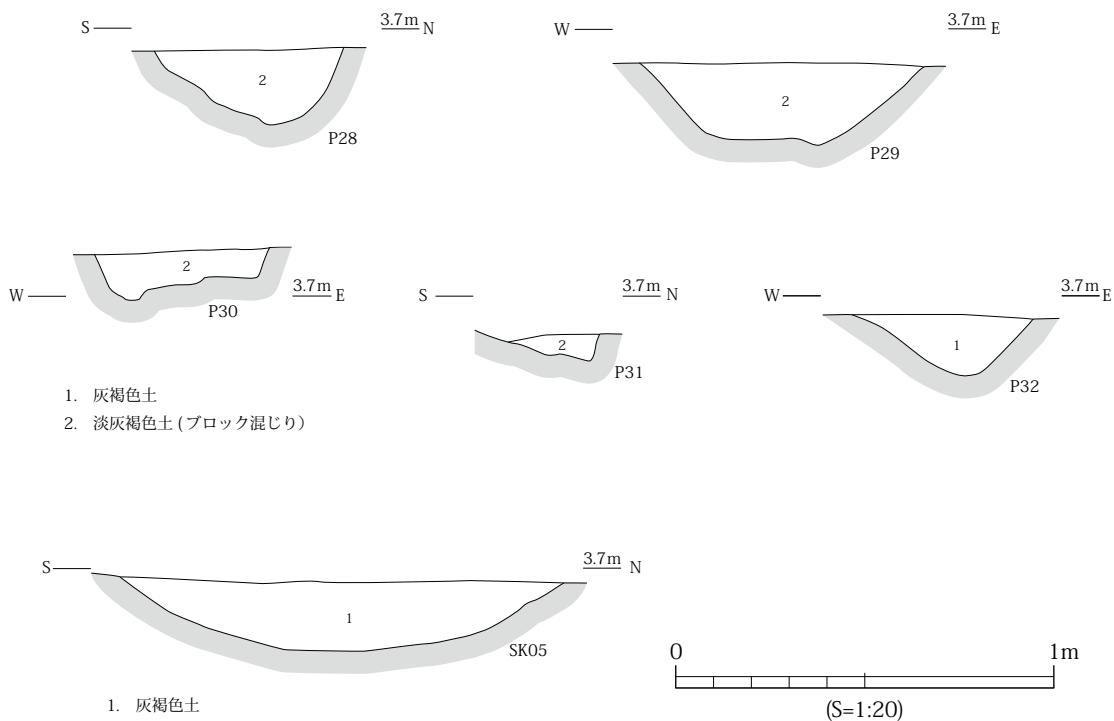
SK02（第16図・第17図） B6～B7グリッドで検出した。平面円形をし、規模は1m65cm×1m78cm、深さは31cmである。埋土は4層に分かれれる。第2層を中心に自然石が多数混ざっている。土器は土師器・青磁の小片が出土したのみである。

SK03（第12図・第15図） B5グリッドで検出した。平面円形をし、規模は1m20cm×1m13cm、深さ30～40cmである。

SK04（第12図・第15図） B5グリッドで検出した。平面円形の深い土坑である。規模は1m55cm×1m45cm、深さ24cmである。



第10図 3-2区遺構平面図(1)



第11図 3-2区遺構土層断面図(1)

SK05 (第10図・第11図) B3 グリッドで検出した。NR02 の埋没後に掘り込まれている。平面円形をし、規模は 1m15cm × 85cm、深さ 20cm である。埋土は灰褐色土の単一層である。

SK06 (第16図・第17図) B8 グリッドの調査区際で検出した。東西 56cm、南北 30cm 以上、深さ 45cm である。10 ~ 20cm 角の自然石に混ざって備前焼擂鉢の破片が出土している。

SK07 (第10図) B3 グリッドで検出した。規模は 1m55cm × 80cm、深さ 10cm である。近代以降の廃棄土坑である。下層からは洋釘の打ち込まれた角材が横倒しになって出土している。東 1.6m にも同時期の土坑がみられる。

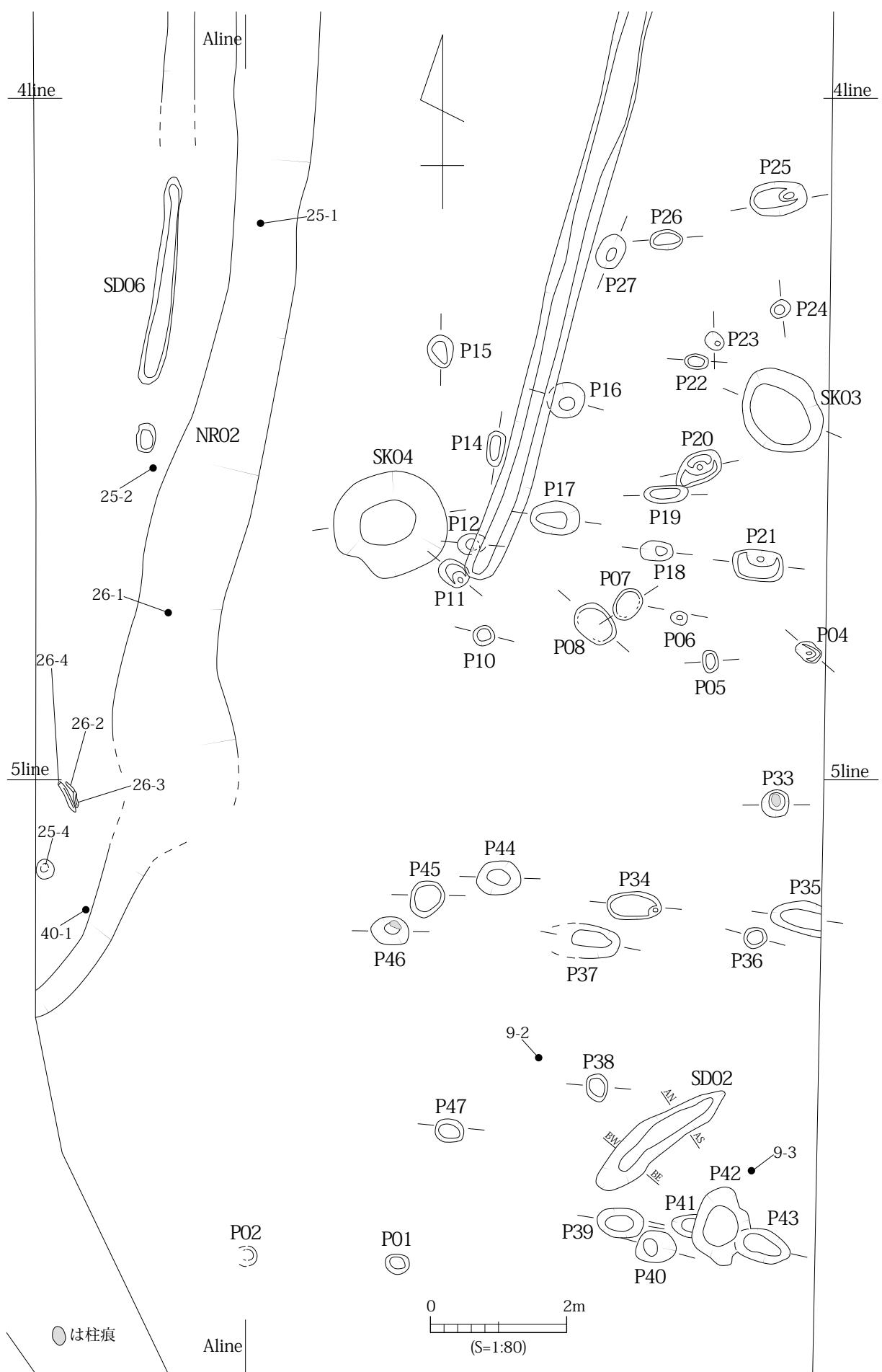
土坑出土遺物 (第20図)

中世の遺物を中心に、近世の遺物は代表的なものを掲載している。1 は SK01、2・3 は SK02、4 は SK04、5 は SK06、6 は SK07 からそれぞれ出土している。

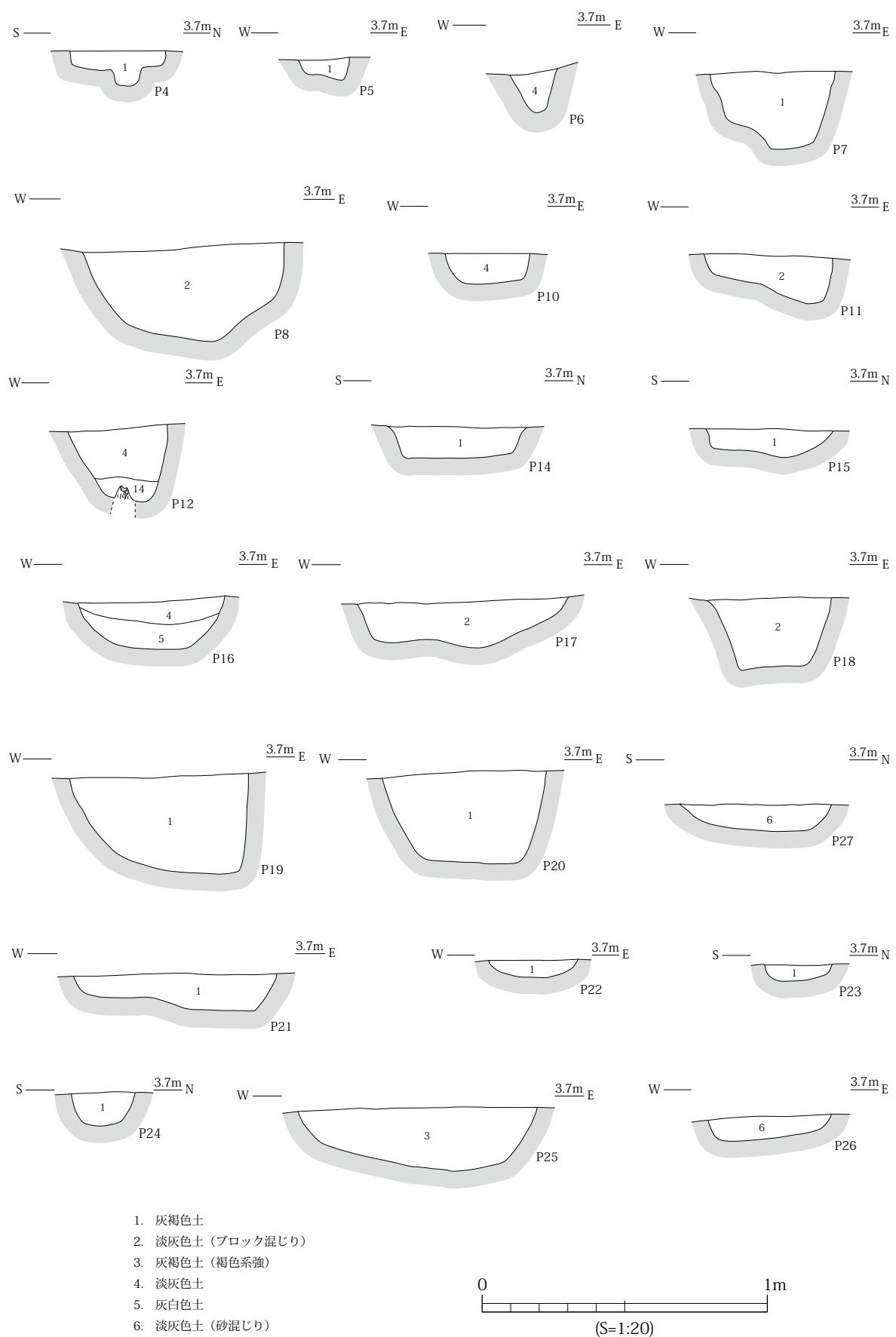
1 は青磁碗で龍泉窯系青磁碗 II-B 類。2 は土師器坏の口縁部。薄手で堅緻な作りである。3 は青磁碗。4 は唐津皿の口縁部で 17 世紀第2四半期。5 は備前焼の擂鉢で IV A-1 類に該当する。6 は肥前系磁器の染付で 18 世紀前半から中頃。このほか SK02 からは、青磁 (図版 18-2 №.3) と高麗青磁 (図版 18-2 №.4) の小片も出土している。№.4 は内面に象嵌があり、14 世紀代である。

4. 自然河道

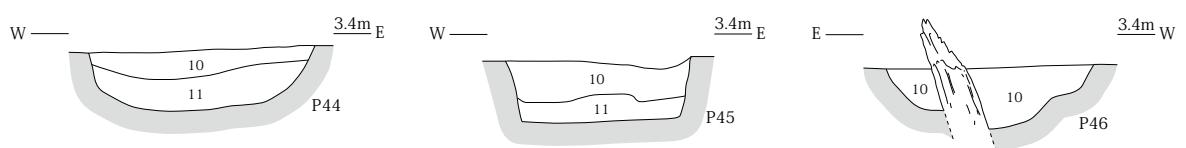
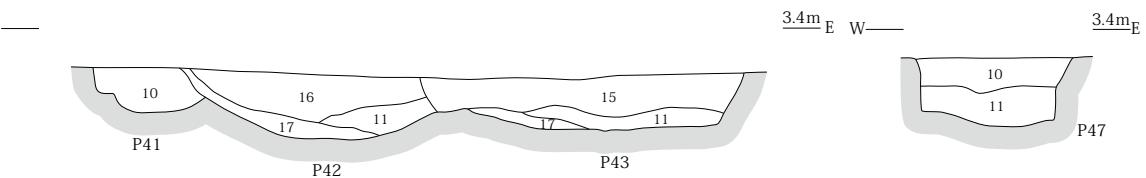
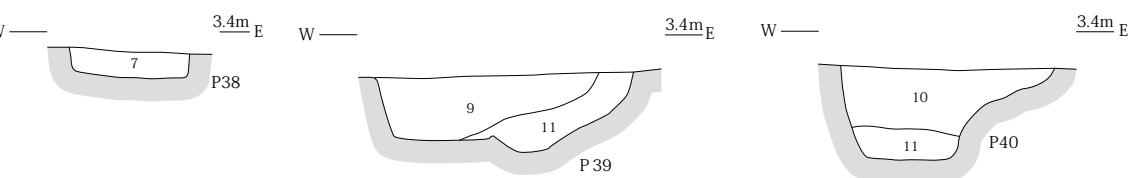
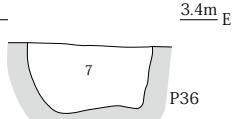
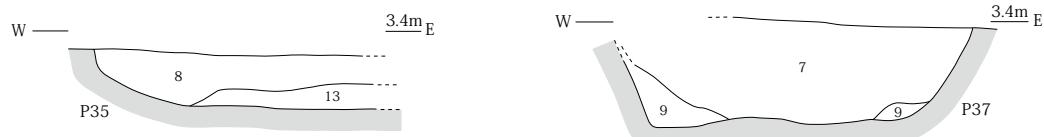
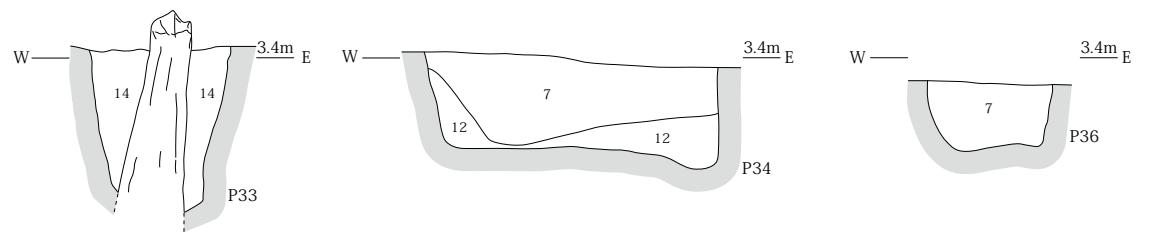
NR01 (第23図) 3-2 区南寄りを東西方向に延びる。北側は基盤層、南は青灰色粘質土を削り込んでいる。規模は幅 3 ~ 4 m 前後、深さ 40 ~ 60cm、底面の標高は 2.6 ~ 3.0m 前後である。埋土は 4 ~ 5 層に分かれる。中位の腐植土層をはさんで上層は人為的に埋め立てている。その上層から土師



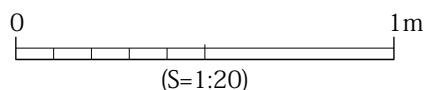
第12図 3-2図遺構平面図(2)



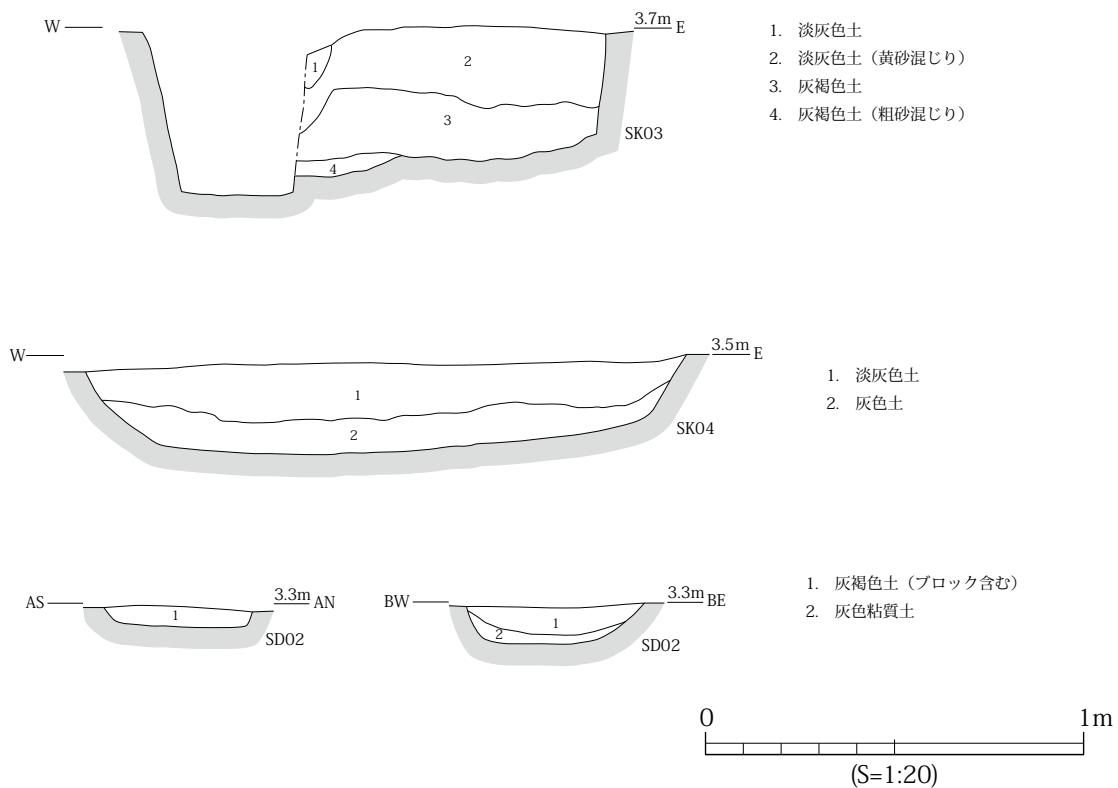
第13図 3-2区遺構土層断面図(2)



- 7. 灰色土（ブロック混じり）
- 8. 灰色土（砂混じり）
- 9. 灰色粘質土
- 10. 灰色土
- 11. 青灰色土
- 12. 灰褐色粘質土
- 13. 暗灰色粘質土
- 14. 青灰色粘質土
- 15. 灰色土と淡灰色土混じる
- 16. 灰色土と淡灰色土混じる（15より暗い）
- 17. 青灰色土（11より淡い）



第14図 3-2区遺構土層断面図(3)



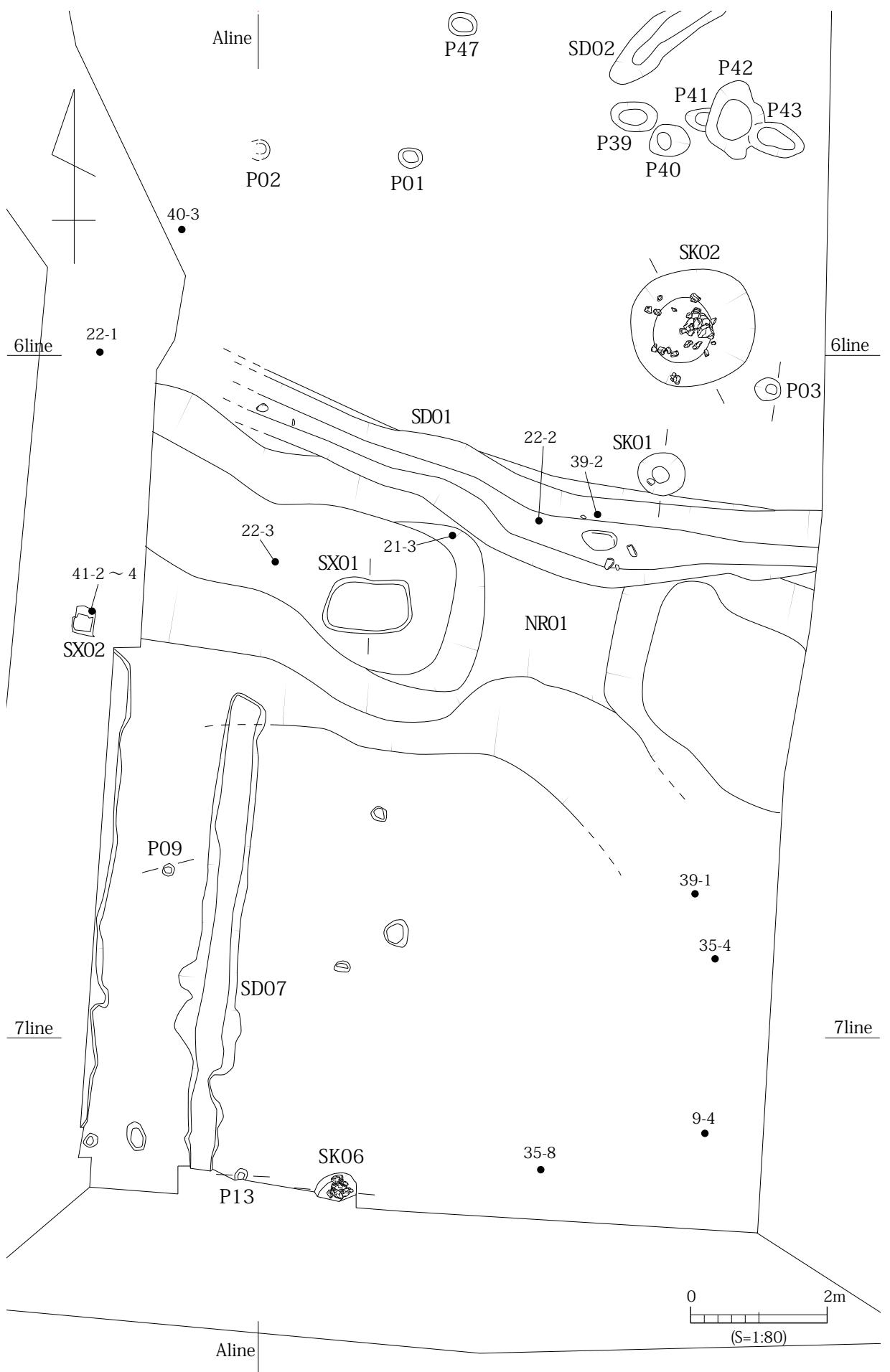
第 15 図 3-2 区遺構土層断面図 (4)

器・青磁の破片、杓子状木製品、漆器椀が出土している。下層に砂礫層が堆積していないことから河道の流れは強くなかったと推測される。遺物から 15 世紀代には埋没したものと思われる。

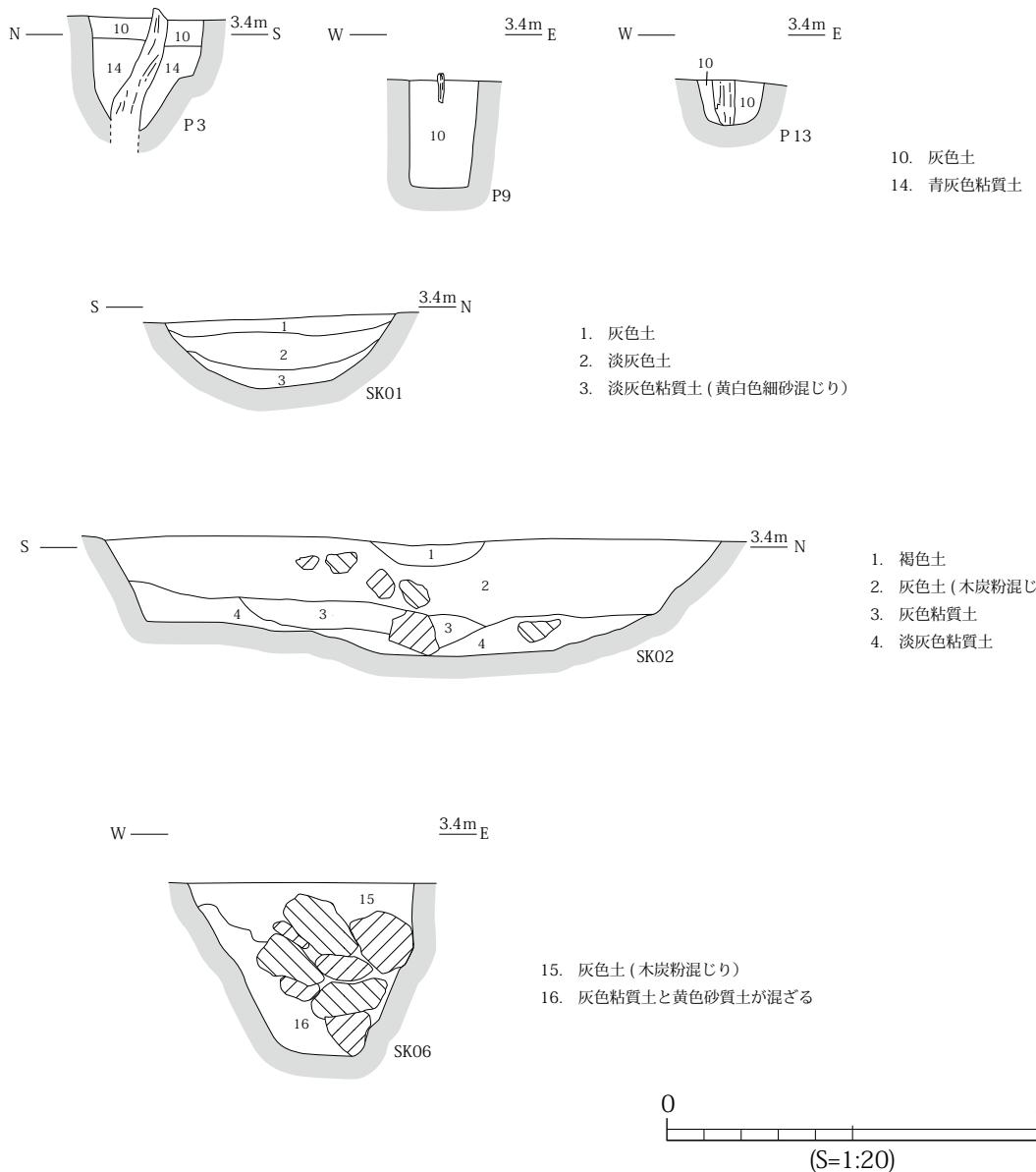
NR01 出土遺物（第 21・22 図）

第 21 図 1 は土師器の皿。2 は備前焼擂鉢で備前 IV 期に当たる。3・4 は青磁碗。龍泉窯系で 15 世紀代の所産である。第 22 図 1 は調査区側溝で出土した漆器椀である。出土位置と層位から NR01 に伴うものと推定した。樹種はトチノキである。黒色漆塗で、外面に赤色漆で絵付けが施されている。外面下位はハケメが明瞭で、高台には 5 条の深いロクロ目が残っている。また底部には 0.3 ~ 0.5cm の孔が 8か所あけられている。ほかにも 1か所、未貫通の L 字形の掘り込みがある。2 は杓子状木製品。樹種はスギである。先端が使用により摩耗している。先端の裏面から側面、柄の一部が黒く焦げている。3 は図の下側を割りとており、製品ではなく端材と考えられる。樹種はマツ属複維管束亞属である。このほか産地不明の陶器の破片（図版 19-1 No.5）も出土している。

NR02（第 3 図・第 8 図・第 10 図・第 12 図・第 24 図） 3-1 区の中央から 3-2 区の西端をかすめるように南北方向に走る。埋土は大きく上層の黄褐色土と下層の暗黄褐色粘質土～砂質土にわかれ。下層からは杭 3 点がまとまって出土した。上層からは、土師器皿、白磁、五輪塔水輪部、加工材が出土している。遺物から 16 世紀代に埋没したものと思われる。埋没後は面的に検出できなかったが、小規模な溝（SD08）で管理されたと思われる。



第 16 図 3-2 区遺構平面図 (3)



第17図 3-2区遺構土層断面図(5)

NR02出土遺物（第25図・第26図）

第25図1は土師器皿である。薄手の堅緻な作りである。2は柱状高台部。3は陶器甕の体部である。外面には自然釉がかかる。このほかに白磁が2点（図版20-1 №.6・№.7）、備前2点（図版20-1 №.8、図版19-1 №.9）が出土している。№.6は白磁皿E群の口縁部である。4は五輪塔の水輪部である。全体に風化摩滅している。梵字はない。最大径30.3cm、高さ18.5cmの小型品。最大径は下面から10.5cm上にある。上下面とも中央部を一辺10.5～12.0cmの方形で、深さ2.4～3.1cmでくぼめている。幅2.5cmの工具痕がのこる。第26図1は薄いスギの板材を短冊状に加工したものである。2～4は杭である。いずれも芯持ち材で先端を尖らせている。樹種は1がスギ、2がガマズミ属、3がカツラ、4がマツ属複維管束亜属である。2は最大径2.9cmの棒材の先端を尖らせている。3は径5.0cm前後の棒材の先端を尖らせる。一部に樹皮が残っている。

5. 墓

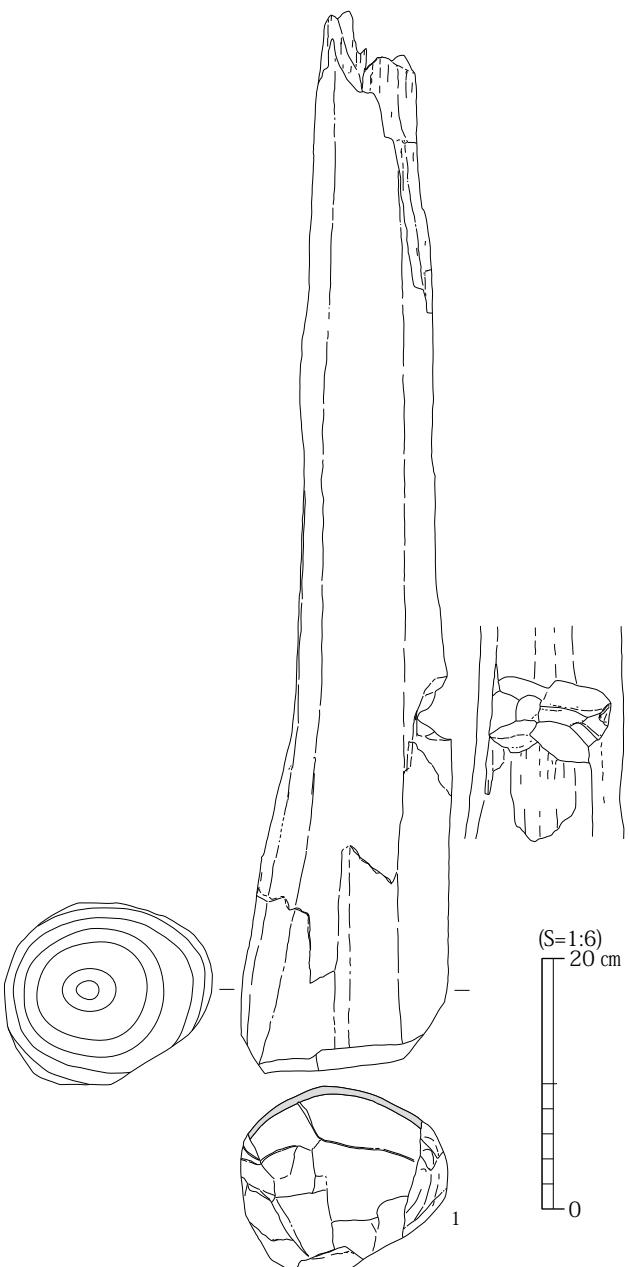
2基検出した。いずれも自然河道 NR01と重複し、河道の埋没後に造られている。

SX01 (第27図) B7グリッドに位置する。東西方向に主軸をとり、平面は小判形をする。規模は南北74cm、東西124cm、検出面からの深さ20cm前後である。木棺は蓋と底板が無く、墓壙底面に直径2cm、長さ45cm前後の棒(枝)を平行に6本並べ、それを側板と小口板で挟む構造である。人骨の散布状況から、頭を東、顔を南に向けた横臥屈葬に復元される。

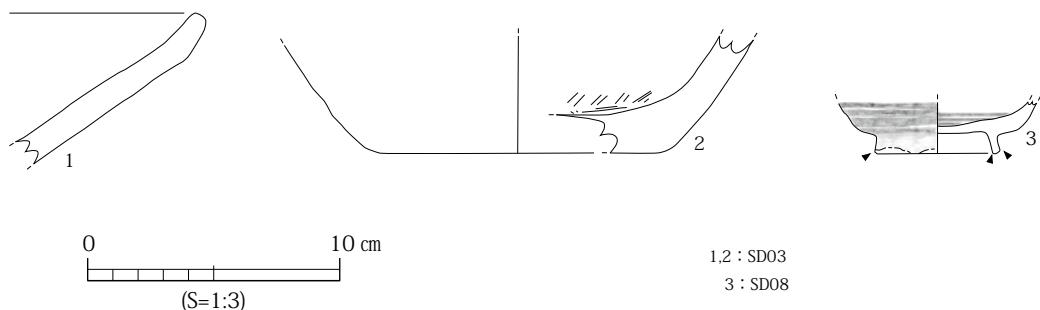
SX01出土遺物 (第29図) 2点とも埋土中の出土で小片である。1は土師器壺の口縁部、2は瓦質土器の鉢である。

SX02 (第28図) A7グリッドに位置する。調査区側溝の掘削中に検出したため、掘り方を確認していない。木棺は箱状をし、小口板は欠損している。規模は東西29cm、南北43cm以上、高さ11.5cmである。板の厚みは3~4mmである。内部には骨片が散布していた。

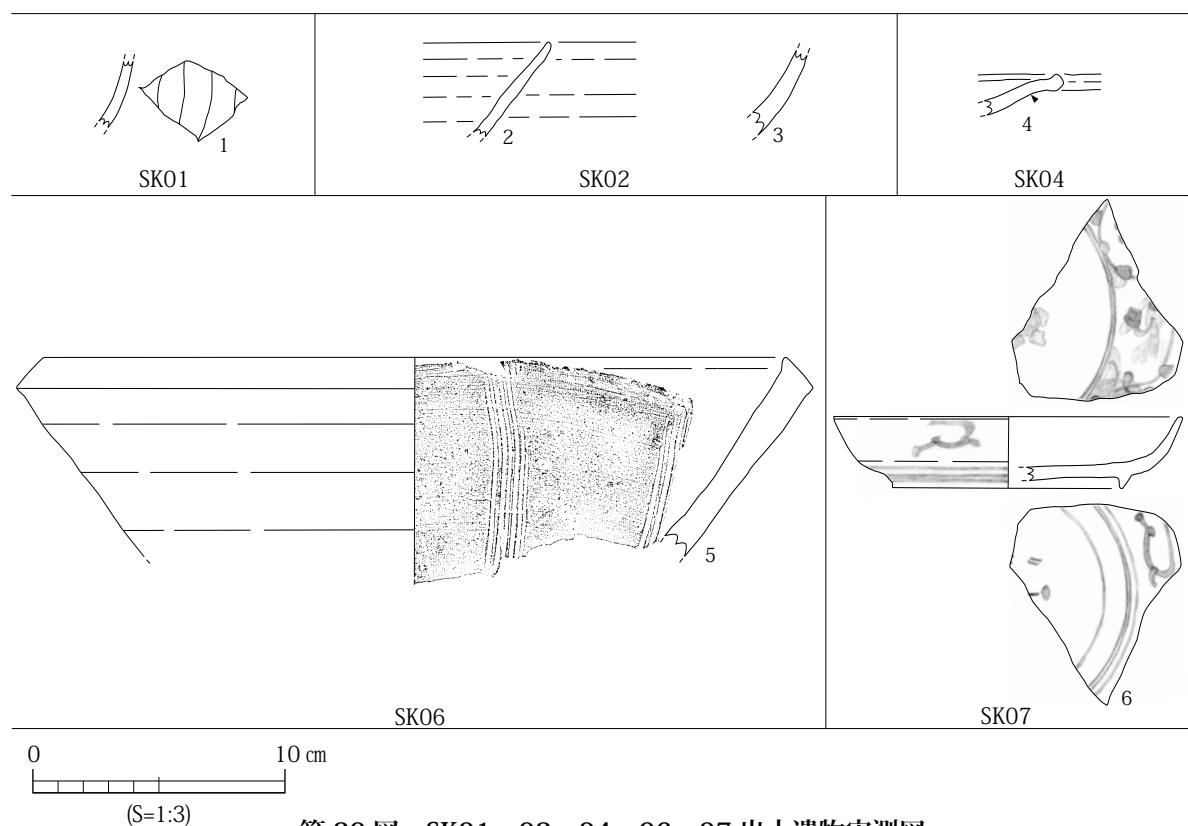
SX02出土遺物 (第30図) 木棺のなかから土師器の小片のほか、「寛永通寶」(1697年初鑄)2枚(1・2)、棺外からも錢種不明の銭貨1枚(3)が出土した。



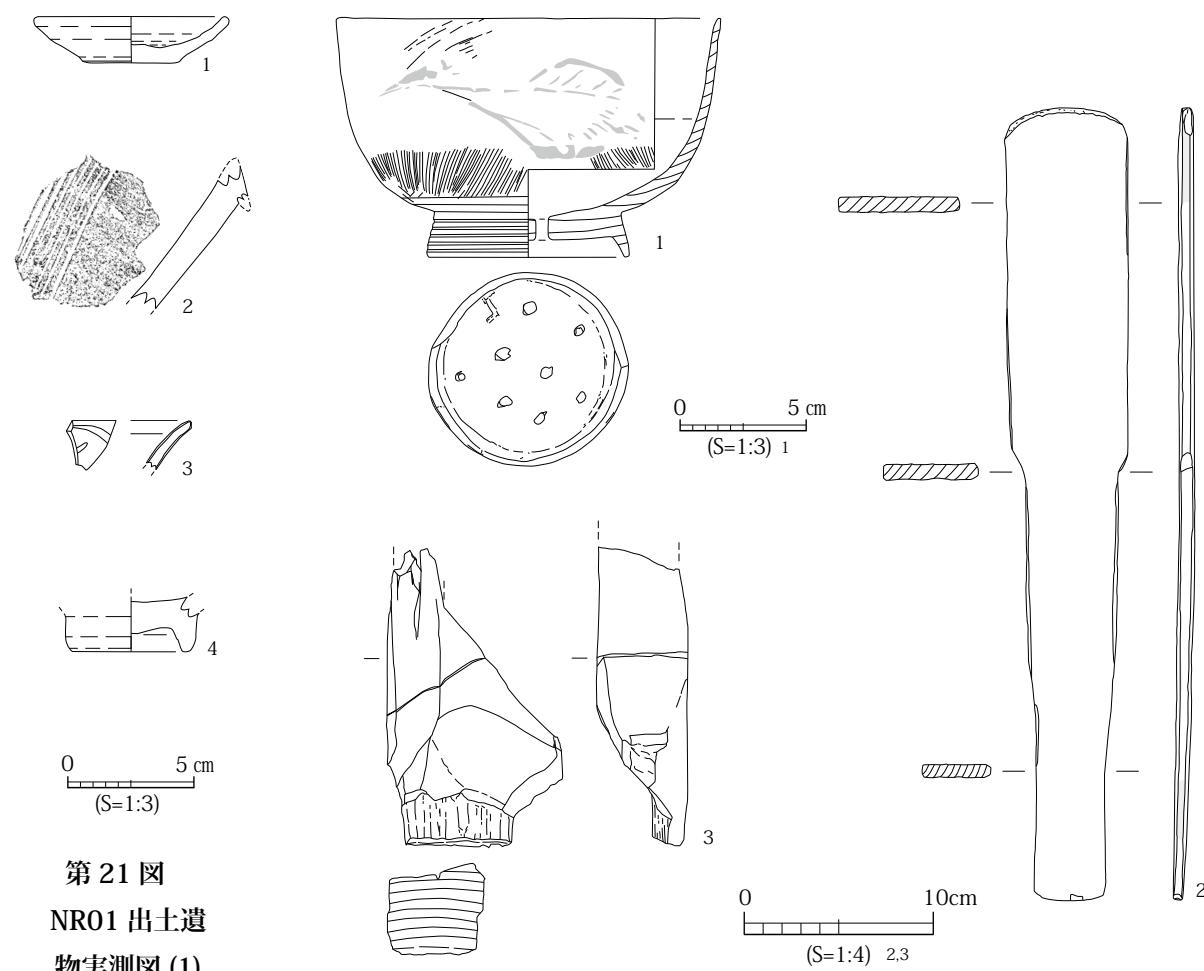
第18図 ピット出土遺物実測図



第19図 SD03・08出土遺物実測図

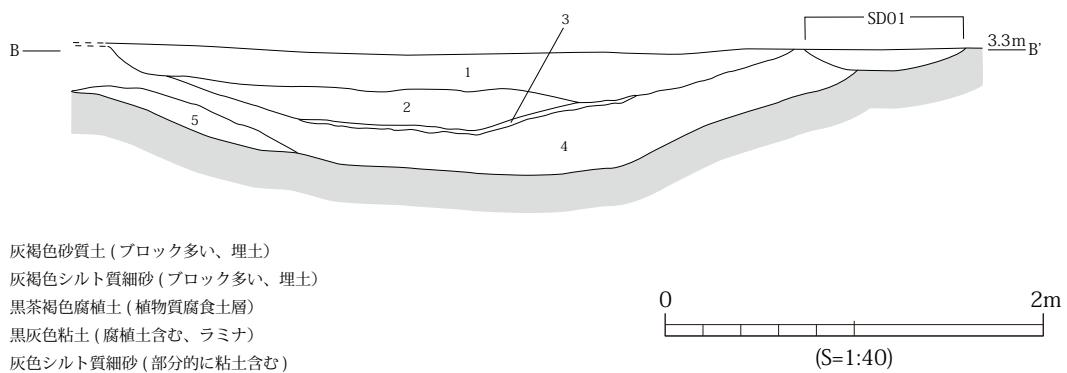
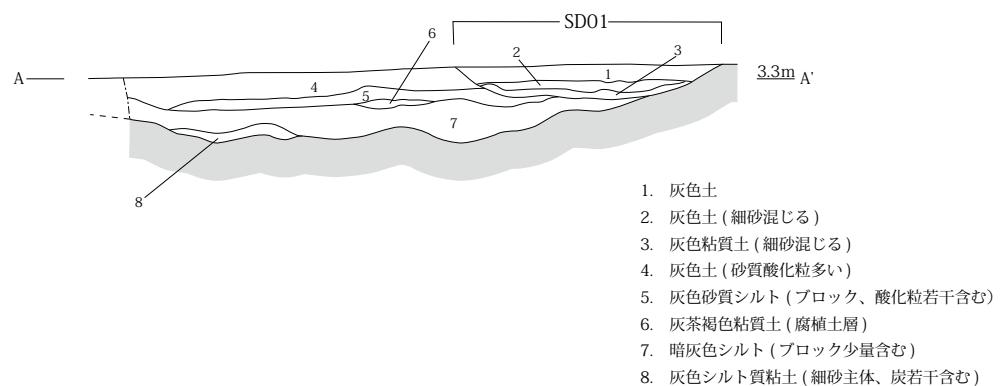
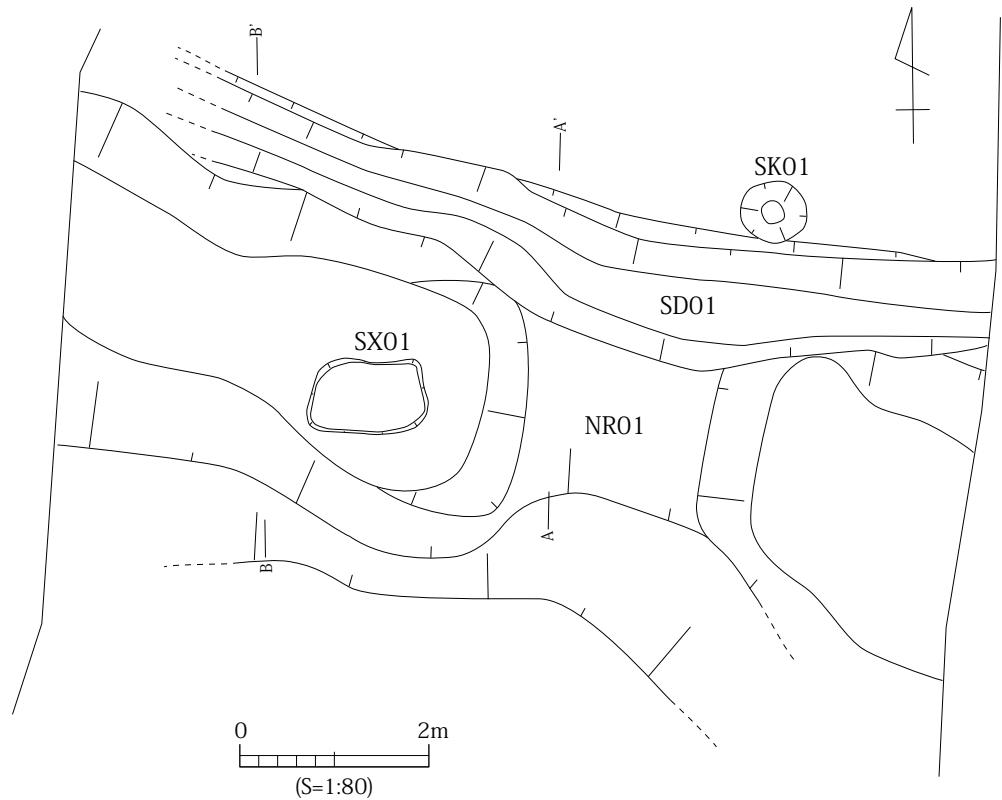


第 20 図 SK01・02・04・06・07 出土遺物実測図

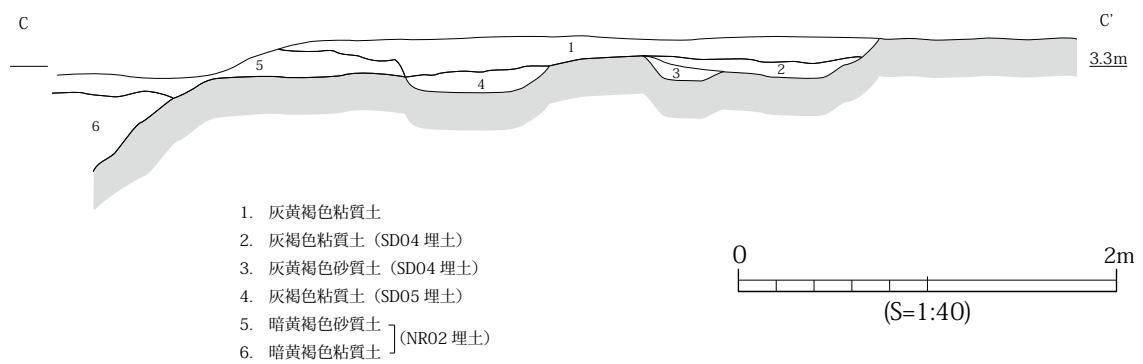


第 21 図
NR01 出土遺
物実測図 (1)

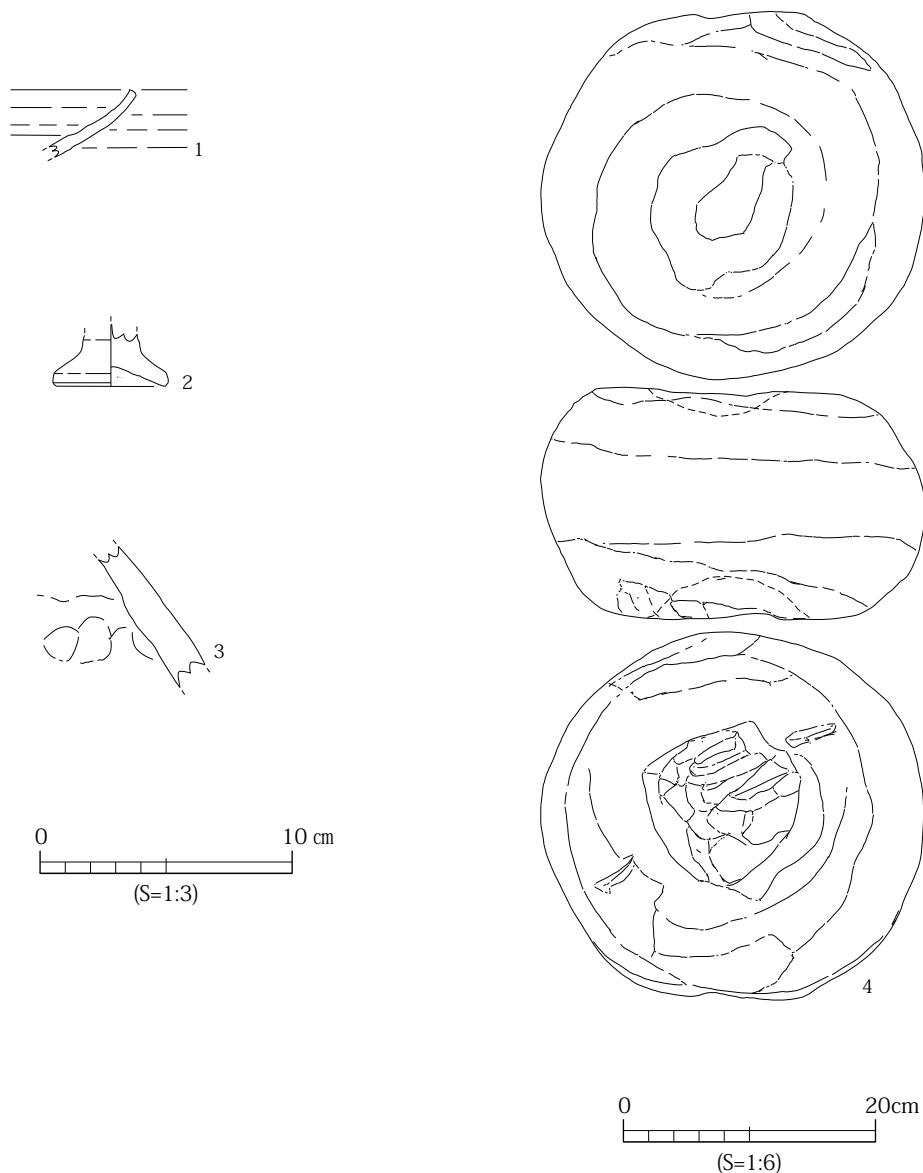
第 22 図 NR01 出土遺物実測図 (2)



第23図 SD01・NR01 実測図



第 24 図 NR02・SD04・SD05 土層断面図



第 25 図 NR02 出土遺物実測図 (1)

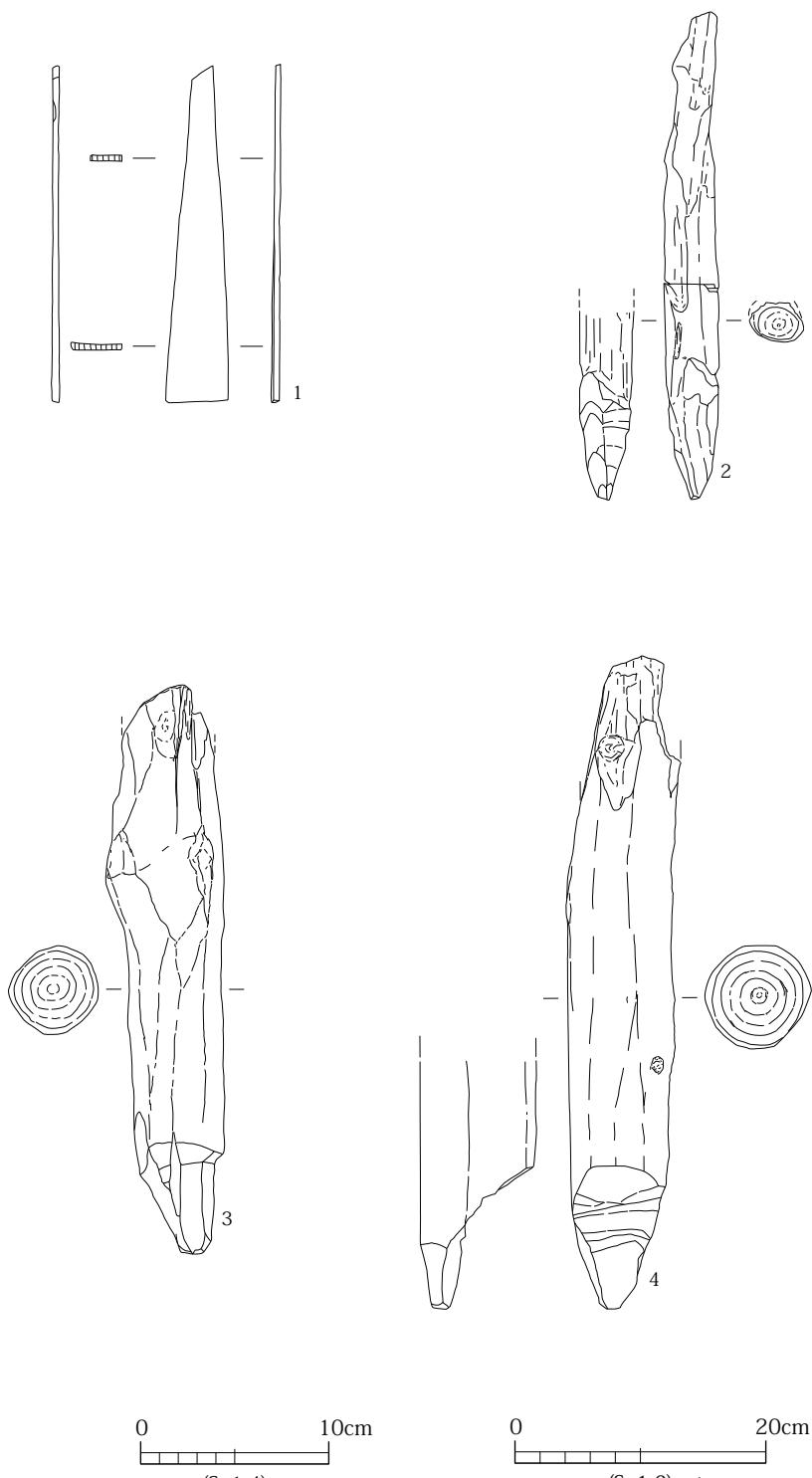
第3節 包含層の調査

(1) 3-1区出土遺物（第31図～第34図）

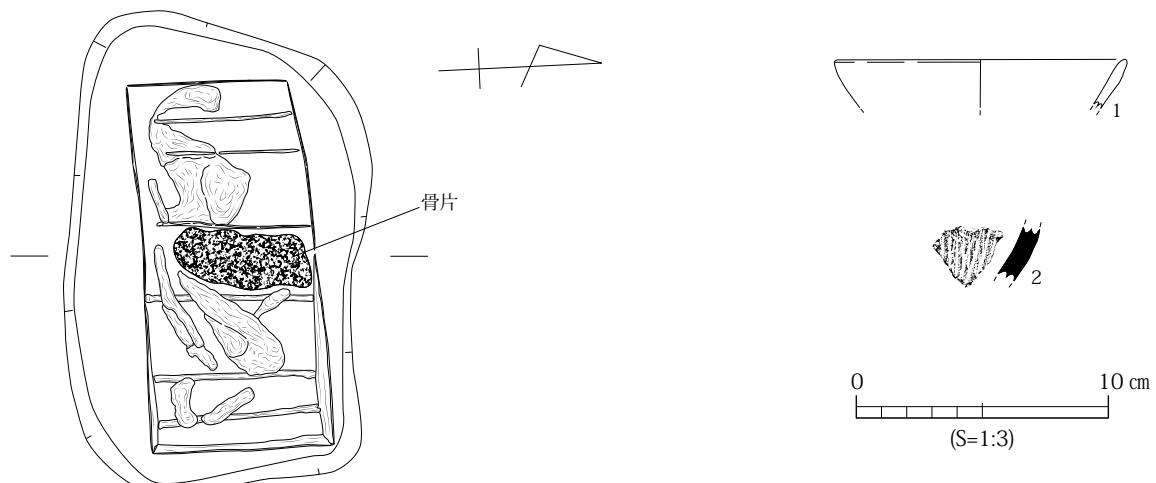
上層の造成土から下層まで遺物が混ざっている。多くは近世・近代の陶磁器類であり、それ以前にさかのぼるものは少ない。近世以降の遺物の多くは、南を流れる水路の浚渫により廃棄されたものと考えられる。

第31図1は須恵器甕の頸部である。2は土師器の皿である。体部は逆ハ字状に開く。全体に風化摩滅している。3は土師器の擂鉢である。内面に6条一単位の擂り目がある。内外面とも黒斑があり、内面は全体が使用により摩耗している。4は瓷器系陶器甕でN字状口縁をする。5・6は備前焼擂鉢である。5は口縁端部を欠損している。内面の擂り目は8条以上ある。6は備前IV期。このほかにも備前焼甕の破片は出土している（図版21-2 No.10）。7は白磁碗、8は青磁碗である。9は李朝陶器の可能性がある。このほかにも青磁と白磁の小片が出土している（図版21-2 No.11・No.12）。

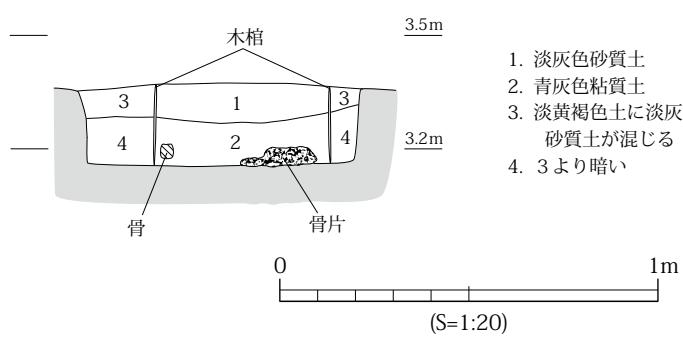
第32図は肥前系の陶磁器などである。時期は17世紀中頃から19世紀前半までみられる。1～5は肥前系陶器。1は流し掛けの碗、2は皿、3・4は壺甕、5は擂鉢。6～8は肥前系磁器の染付である。9は肥前系あるいは在地産の可能性もある。6は合子蓋、7は小丸碗、8は方形皿、9は八角鉢である。6は18世紀後葉、8は19世紀前半。10は陶胎染付で18世紀前半。11は須佐焼と思われる擂鉢である。12は萩系陶器で幕末頃と思われる。



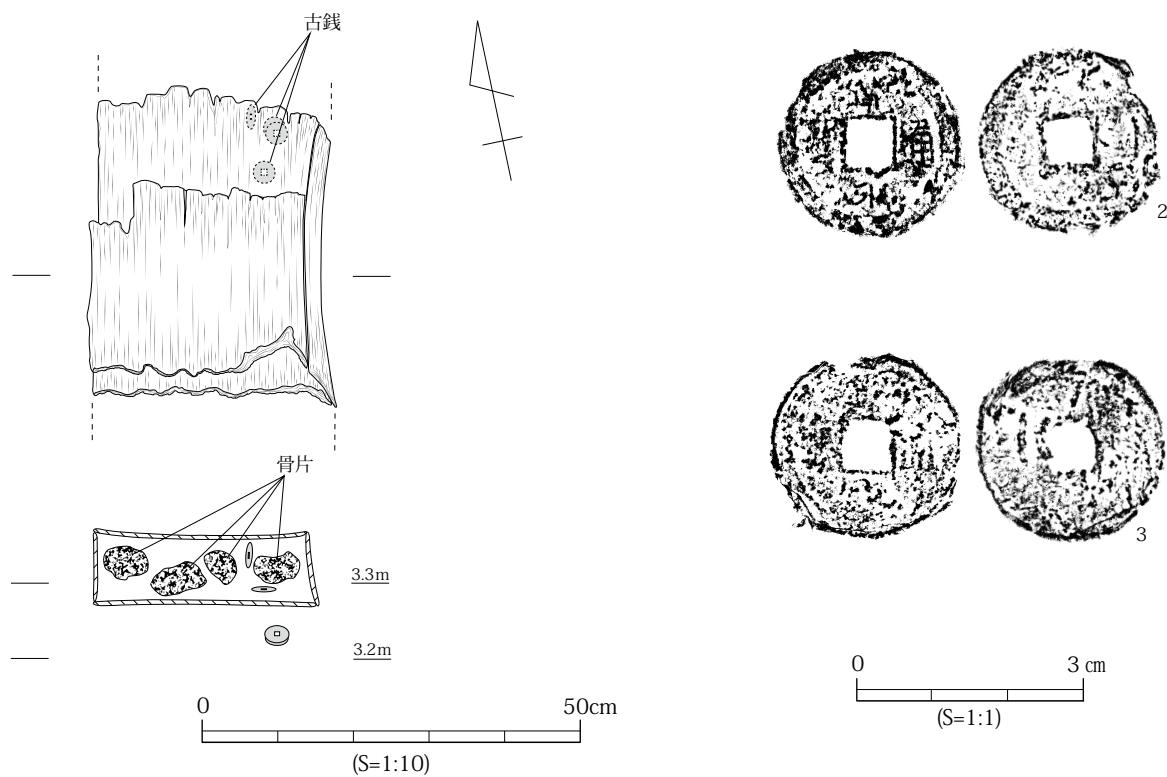
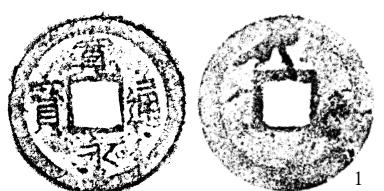
第26図 NR02出土遺物実測図(2)



第29図 SX01出土遺物実測図

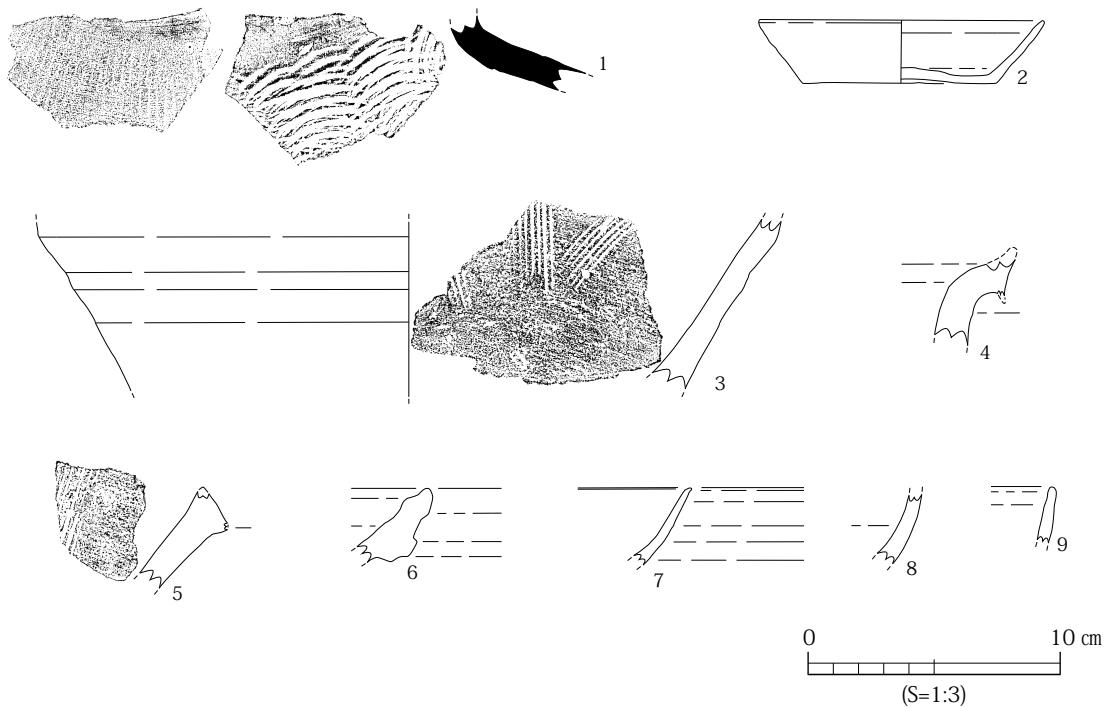


第27図 SX01実測図



第28図 SX02実測図

第30図 SX02出土遺物実測図



第31図 3-1区包含層出土遺物実測図(1)

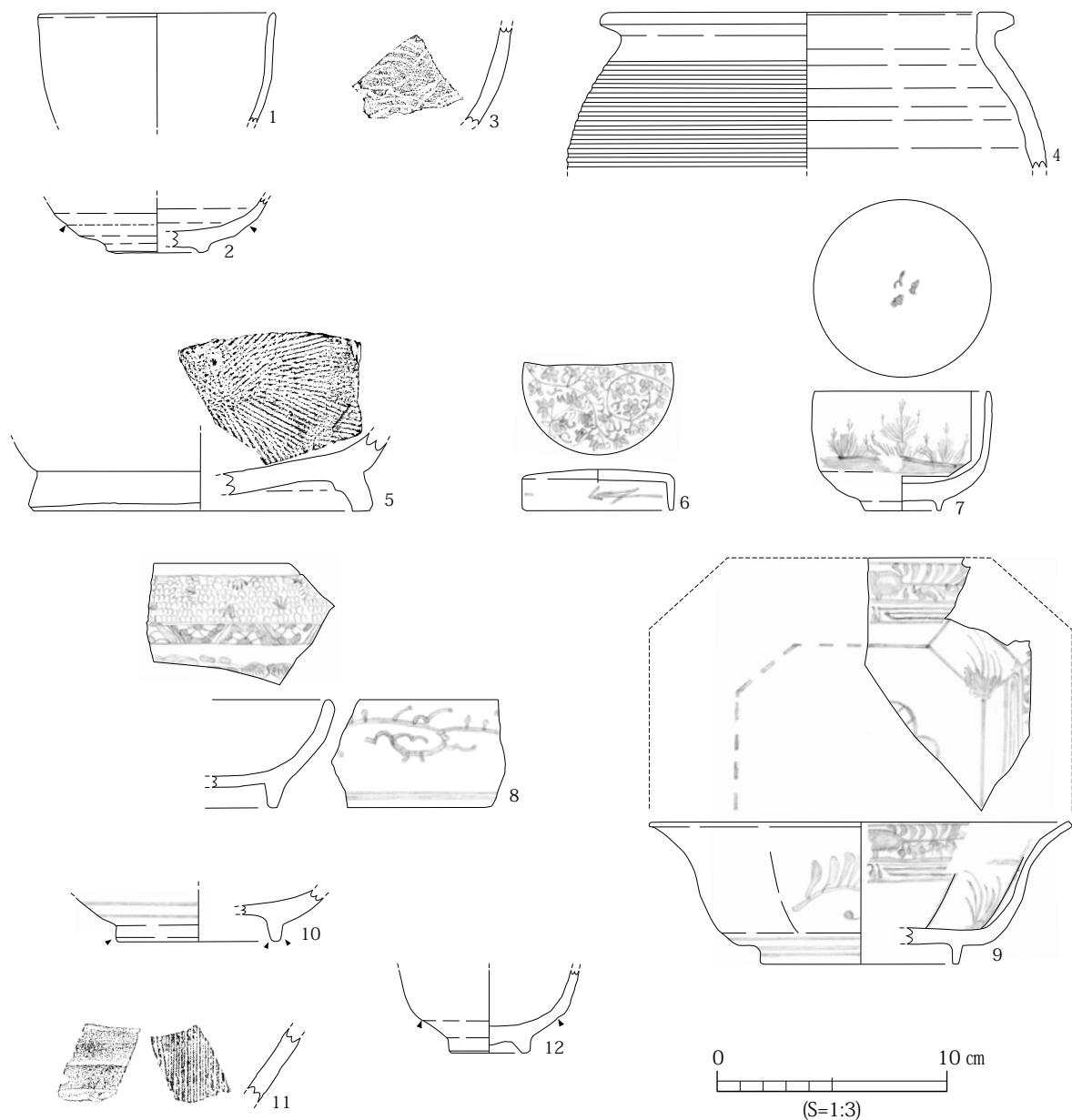
第33図は在地産の陶磁器などである。1は布志名焼の碗である。胴部に丸みをもつ「ぼてぼて茶碗」である。19世紀第1四半期。2は磁器で、久村焼の可能性がある。3は鉄釉の小壺。茶入れの可能性がある。4は備前焼ペこかんの模倣品である。内外面に鉄釉を施し、外面には櫛描沈線文をめぐらしている。5～8は石見焼である。5は擂鉢で来待釉を施す。口縁端部を折り返し、内面は口縁端部の櫛目をナデ消す。6～8は判読できないが、いずれも底部に墨書で文字が記されている。9は焙烙である。口縁部は外傾し、下端が突出する。外底部は接合部分で剥離する。

第34図は煙管である。1は雁首、2は吸い口で火皿の根元のみ残っている。19世紀代である。

(2) 3-2区出土遺物 (第35図～第41図)

第35図1は縄文晩期の浅鉢の可能性がある。外面に二条の沈線を施す。2～4は土師器。2・3は壺、4は高台付きの壺。4の高台は逆ハ字に開く。焼成時のゆがみがみられる。5～7は土師器の鉢。5・6は内外面を粗いハケ調整をする。7は焼きがよく、外面はナデ調整している。6と7は内面に3～4条以上の擂り目が深く入る。土師器の鉢はこのほかにも1点出土している(図版24-2 No.13)。8は土師器鍋。口縁部は逆L字に折れ、体部は丸みをもつ。外面は黒く焼け煤ける。9は瓦質土器の鉢である。口縁部は玉縁状で、内外面をヨコナデする。10は瓷器系陶器甕、口縁部がN字状に拡張している。13～14世紀初め。11は中世須恵器の壺口縁部で、端部に面をつくっている。12～14は備前焼の甕と思われる。ほかにも2点(図版24-2 No.14・No.15)出土している。15～17は備前擂鉢の胴部である。18・19は古瀬戸。18は碗皿類、19は卸皿の口縁部である。20は瀬戸美濃の天目碗である。このほか備前焼が2点(図版24-2 No.16・No.17)、中世陶器4点(図版24-2 No.18～21)が出土している。

第36図1・2は青磁碗。青磁はほかに5点出土している(図版25-1 No.22～No.25、図版21-2

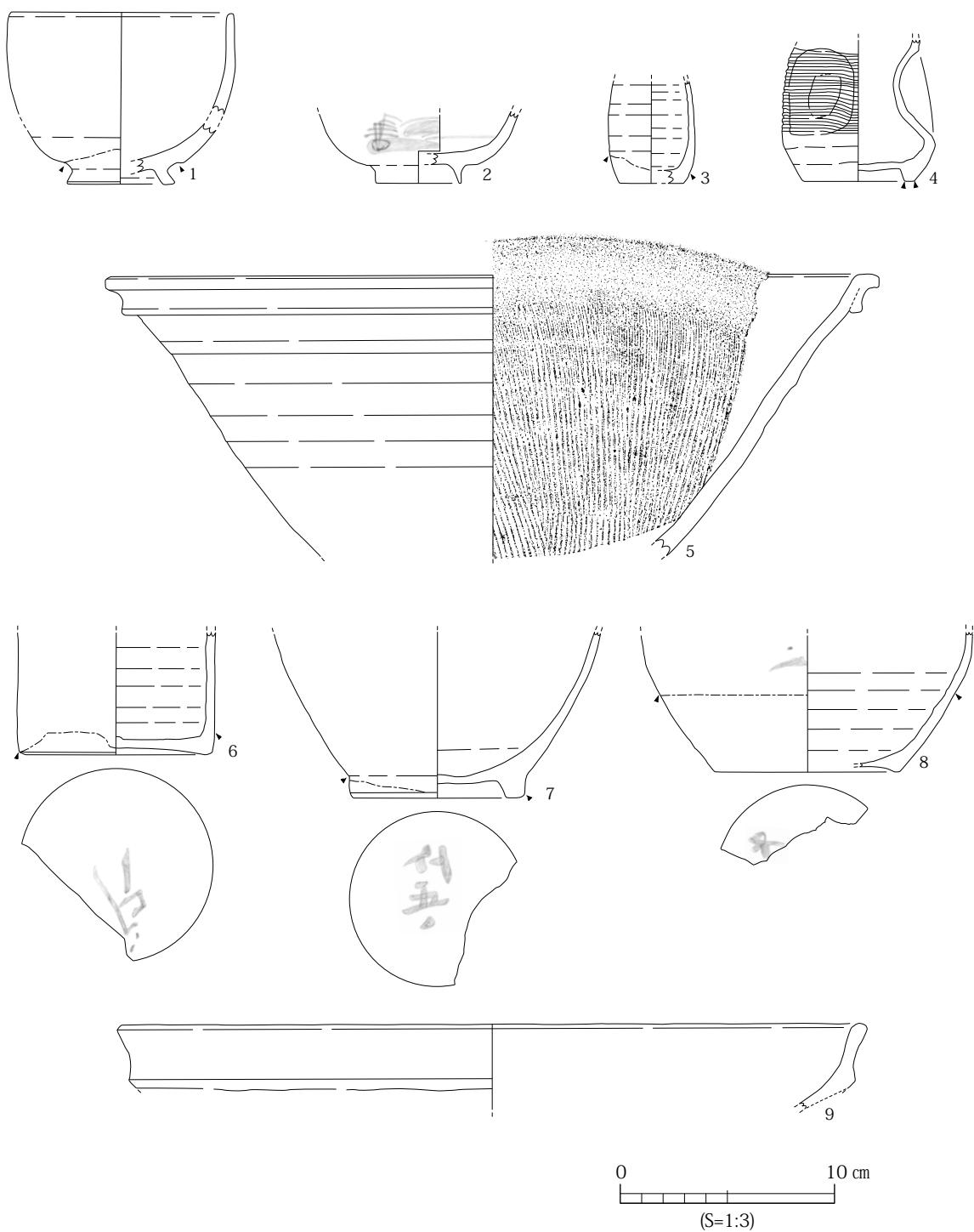


第32図 3-1区包含層出土遺物実測図(2)

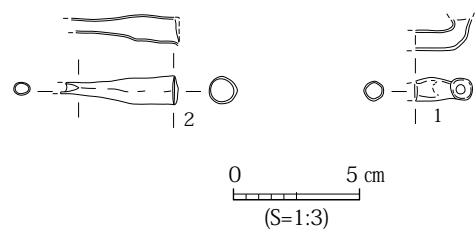
No. 26)。3・4は白磁皿、5は白磁の合子。6～11は中国青花。7は皿B1群、8は皿C群、11は皿E群である。12は李朝陶器の皿。内面には目跡が1か所のこる。13は灰青沙器。図版25-1のNo. 27と同一個体の可能性がある。14は中国陶器、15は産地不明の施釉陶器である。14の器形は袋物か。

第37図は肥前系陶器。1・2は碗。1は内外面に施釉。2は胎土が灰黄褐色で黒い。外面に白化粧による波状文を施している。1は17世紀中頃、2は18世紀前半。3は鉢か皿の底部。底部は糸切りで、体部には灰釉がかかる。16世紀末から17世紀初め。4は片口鉢。5と6は鉢で同一個体と思われる。内面に白化粧でハケメによる波状文を施している。17世紀第4四半期。7は甕。口縁部は内外に拡張する。外面を格子目文タタキし、ヨコナデする。肩部には貼花文を飾る。8は甕の胴部下半から底部にかけての破片である。底部の内面には放射状の当て具痕がみえる。

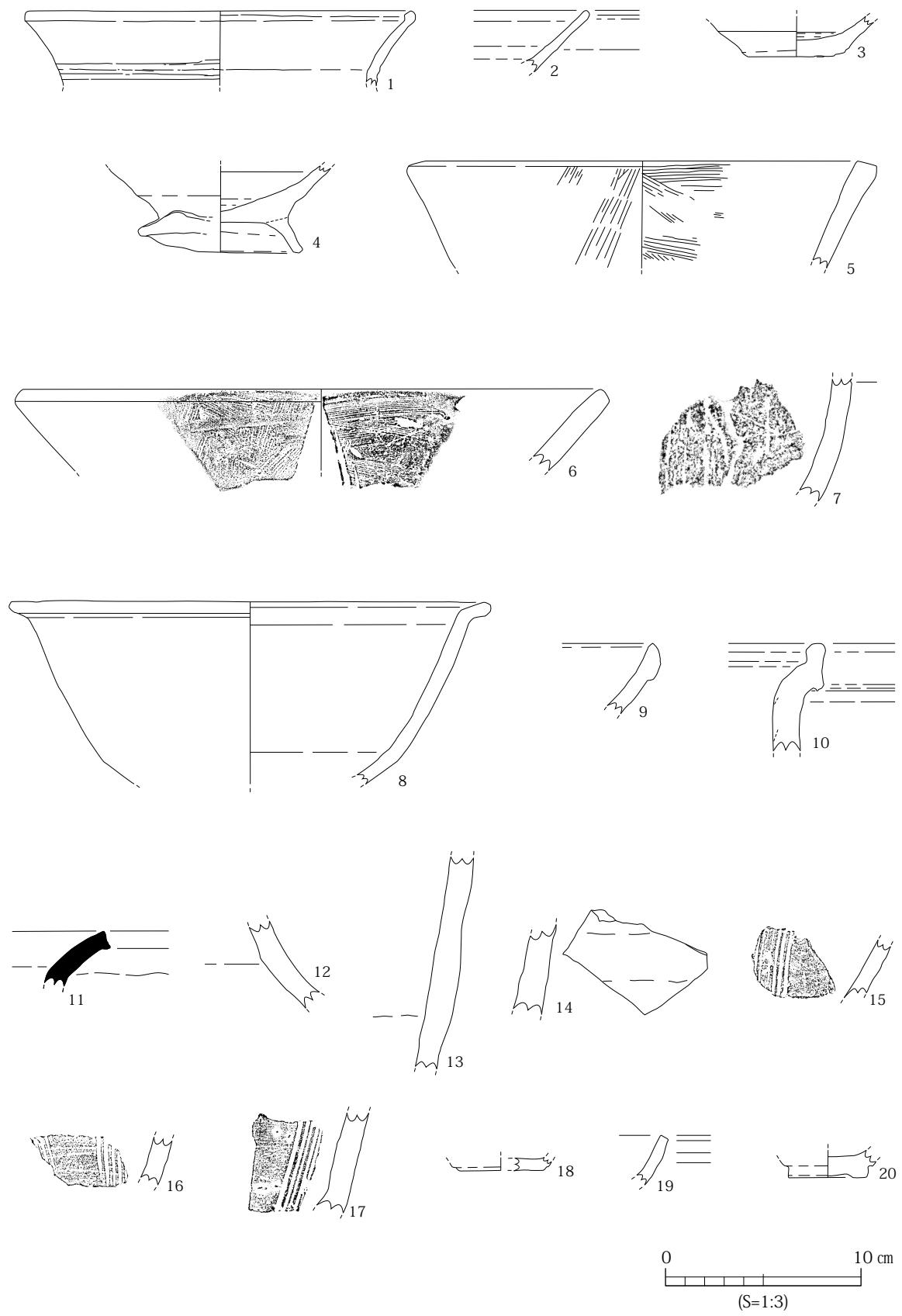
第38図1～6は肥前系磁器。1～3は碗。1は色絵、2・3は呉須で絵付けがされている。1は



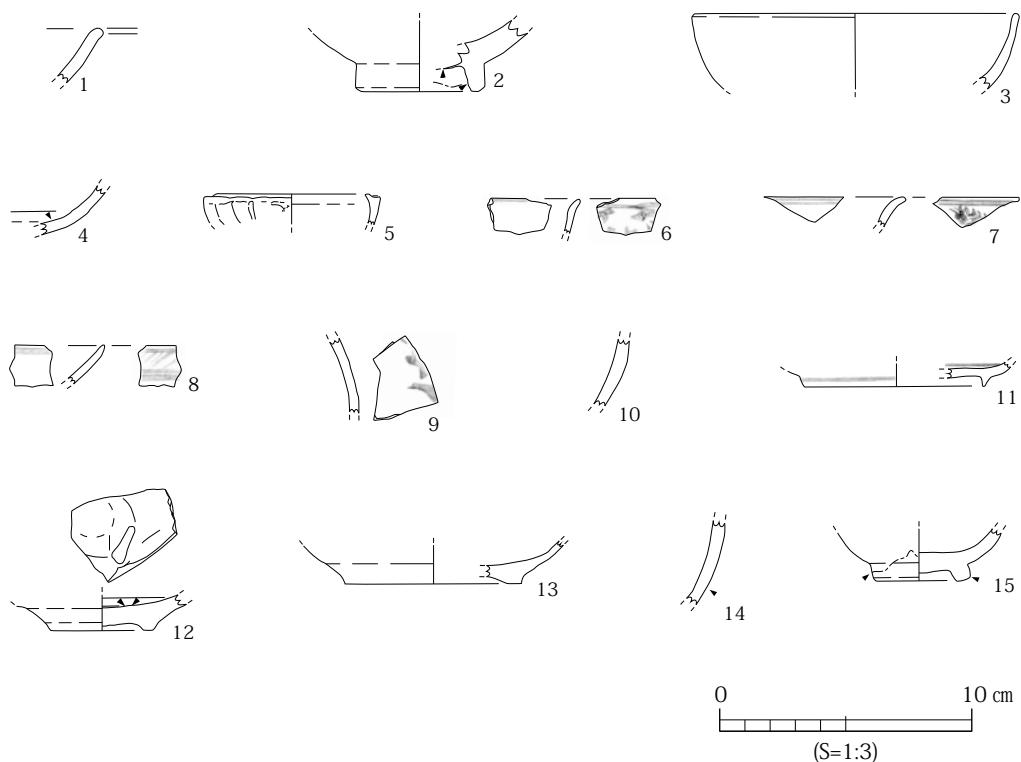
第33図 3-1区包含層出土遺物実測図(3)



第34図 3-1区包含層出土遺物実測図(4)



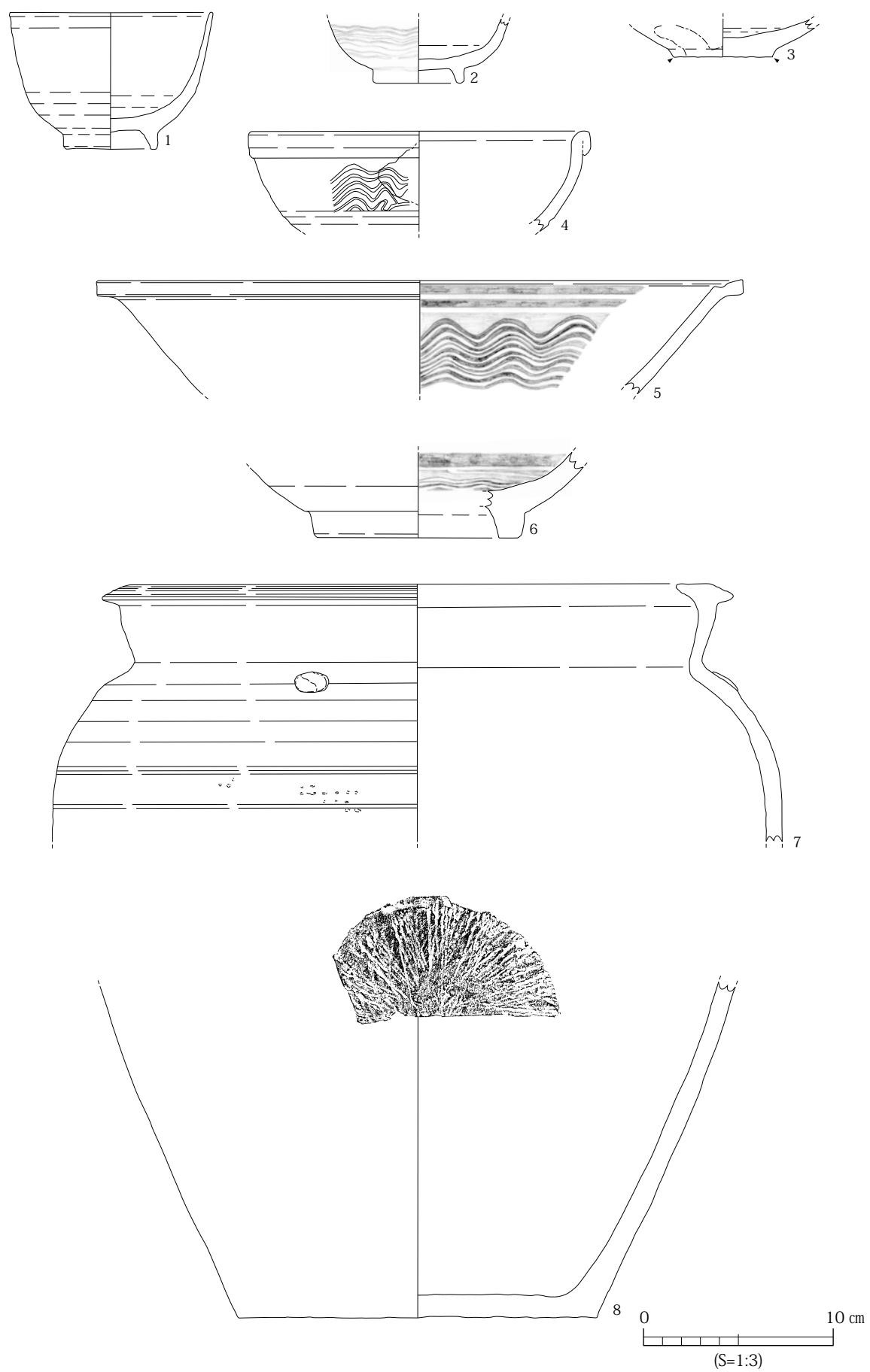
第35図 3-2区包含層出土遺物実測図(1)



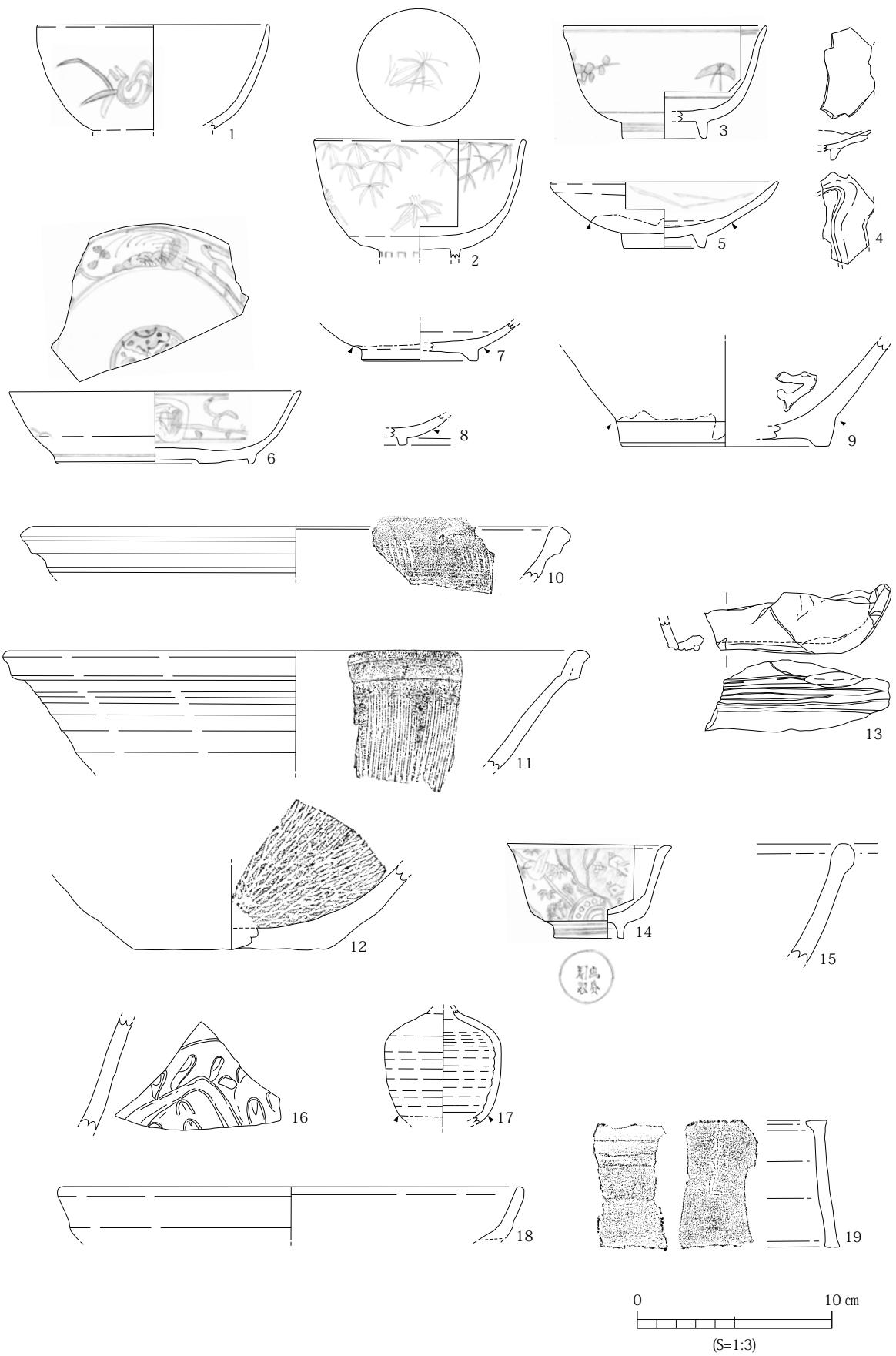
第36図 3-2区包含層出土遺物実測図(2)

18世紀前葉、2・3は19世紀前半。4は変形皿。5は波佐見焼の皿。逆ハ字にひらく体部に高台がつく。内面には絵付けをし、見込みを蛇の目釉はぎする。18世紀前半から中頃。6は染付の皿。19世紀前半。7は瀬戸美濃の丸形碗。18世紀。8・9は萩焼系の陶器である。9はこね鉢で内面に重ね焼きの跡がある。8は18世紀後半から19世紀、9は18世紀前半。10・11は須佐焼の擂鉢。10は口縁部を直立て折り返す。擂り目は口縁上端部まで引きっぱなし、擂り目の間隔は3.0cm空く。I-A類、第1期で17世紀後半。11は口縁部を折り返し、ヨコナデにより突帯状にする。擂り目は口縁下端部までひく。I-D類、第3期で18世紀後半。12は明石焼系の擂鉢。無高台で内面には放射状に擂り目を9～10条1単位で刻む。13は備前焼の香炉。正面に孔があく。正面と背面を別づくりし、底面でとじ合わせている。14は産地不明の磁器碗。底面に呉須で「幽□□製」と書かれている。外面には花鳥の絵付けが施されている。15～17は在地産の陶器。15は布志名焼の鉢。内外面に緑釉をかけ、口縁部には白色釉を流し掛けしている。18世紀後半。16は鉢の胴部。内外面に灰釉を施し、外面にはヘラ掘りによる文様を描く。瀬戸水甕の模倣品で、19世紀第1四半期頃と考えられる。17は小壺で茶入れの可能性がある。内外面には鉄釉がかけられている。近代か。18は土師器の焙烙。口縁部は外傾し、下端が突出する。外底部は接合部分で剥離する。19は五徳で、外面に縦書きで「イ十七」と刻まれる。

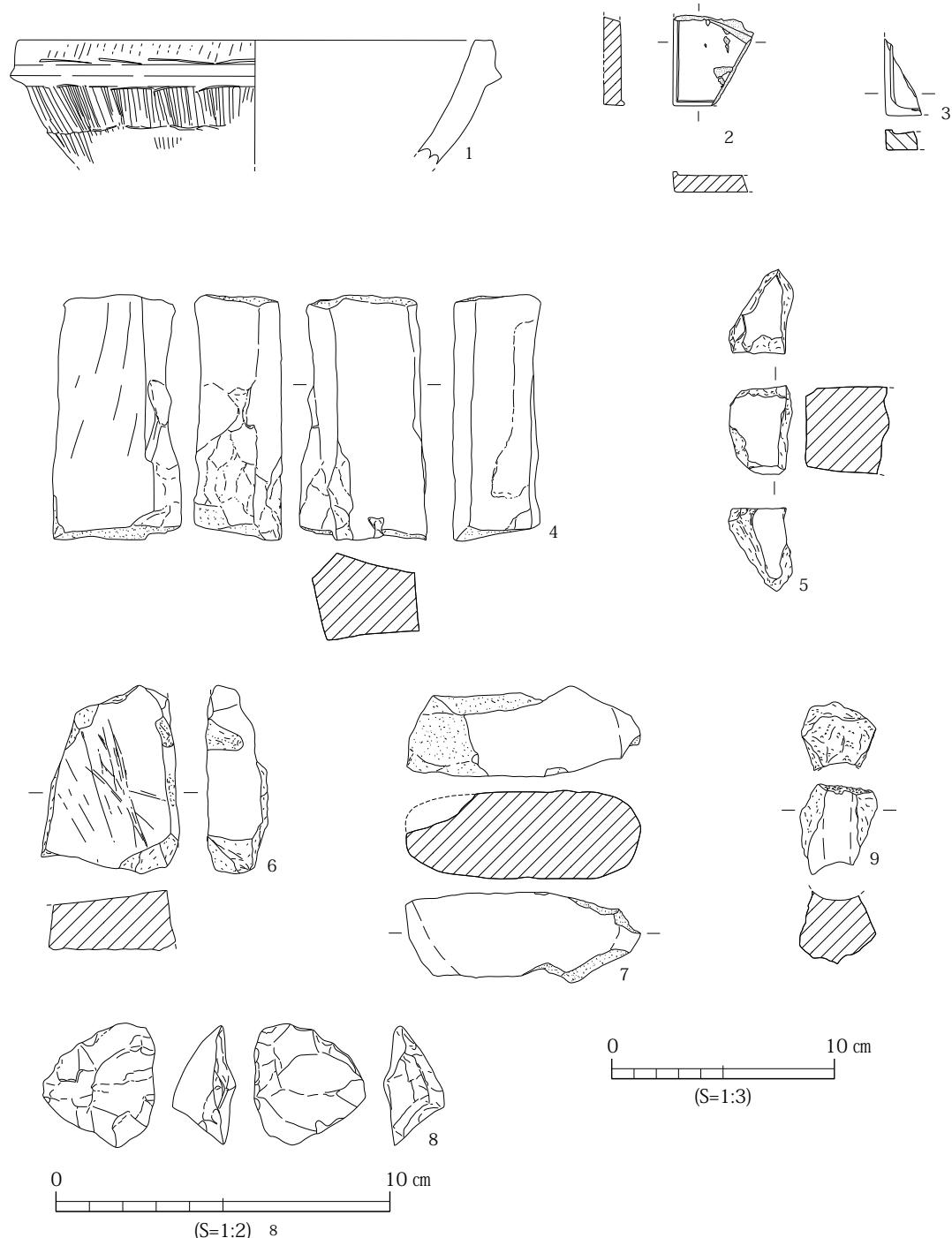
第39図1～7は石製品である。1は石鍋。滑石製。口縁部外面に鍔を刻む。鍔は断面三角形で頂部は尖る。鍔の下方には縦方向の加工痕がよく残る。外面に煤が付着する。内面は横方向に丁寧に研磨する。木戸分類III-d類に相当し15世紀と思われる。石鍋は1区でも小破片が出土しており、今回が2点目である。2・3は石硯。台形硯の一部と思われる。縁帶は幅0.3cmで側面は外傾し、底面は平坦である。石材は赤色頁岩が使用されている。4～6は砥石である。4は長方体状で、断面は



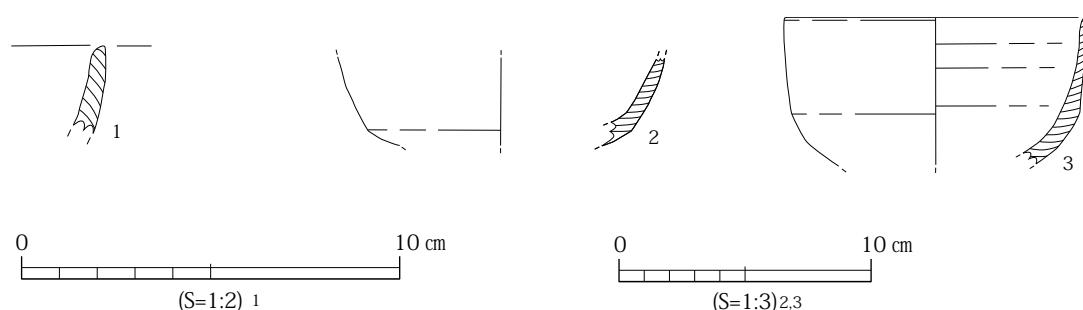
第37図 3-2区包含層出土遺物実測図(3)



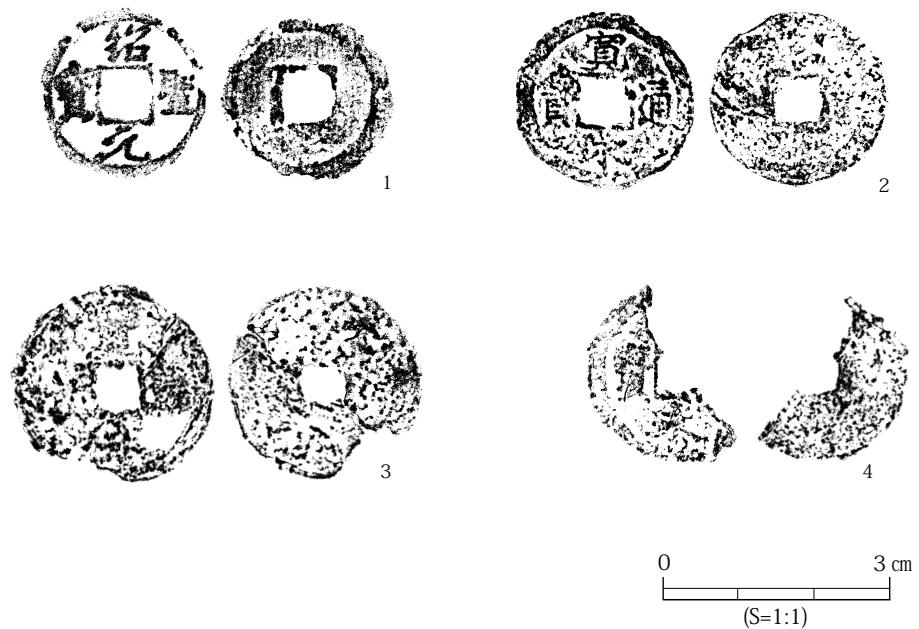
第38図 3-2区包含層出土遺物実測図(4)



第39図 3-2区包含層出土遺物実測図(5)



第40図 3-2区包含層出土遺物実測図(6)



第41図 3-2区包含層出土遺物実測図(7)

五角形をしている。4は一面、5・6は残っている全ての面が使用されている。7は玄武岩製の磨石。両面が使用されている。8はメノウ系石（玉髓）製。平面三角形をし、左辺が敲打により白くなっている。火打石と思われる。9は羽口である。小片のため径は復元できない。先端はガラス質化している。

第40図1～3は漆器椀である。2は調査区北端のB3グリッド、1・3は自然流路に近いA6グリッドから出土した。内外面とも黒色漆塗で、内面は黒色漆を下地とし、そのうえに赤色漆を塗布している。樹種は1がクスノキ科、2・3はブナ属である。

第41図1～4は銭貨である。1はB7グリッドから出土した「紹聖元寶」（北宋1094年初鑄）1枚である。2～4はA7グリッドから出土している。2は「寛永通寶」（1697年初鑄）、3は「寛永通寶」（1636年初鑄）、4は「□永□寶」（「寛永通寶」1636年初鑄か）である。これまでに本遺跡からは1区で9枚、2区で12枚、計21枚の銭貨が出土している。銭種が判明しているものはすべて渡来銭（模鋳銭の可能性もある）である。内訳は北宋銭が8枚と最多く、つぎに唐銭と明銭が2枚ずつである。

第4章 総括

高浜I遺跡は出雲平野の中央部、里方町・高岡町・平野町に広がっている。今回調査した3区は、この三つの町境にあたる地点である。

調査の結果、3区は自然河道に面した微高地の縁辺にあたることがわかった。ふたつの自然河道は、それぞれ東西・南北方向に流れ、調査区外の西で合流していたものと思われる。いずれも15～16世紀代には埋没している。出土遺物から集落は14世紀から展開し、17世紀に盛期を迎えたと推定される。当該期の明確な遺構は確認できることから、居住域の中心は調査区北東から東に展開していると考えられる。

本書は当遺跡の最終報告となる。3次にわたる調査成果をあらためて整理し、まとめとしたい。

第1節 遺跡の立地と様相（第42・43図）

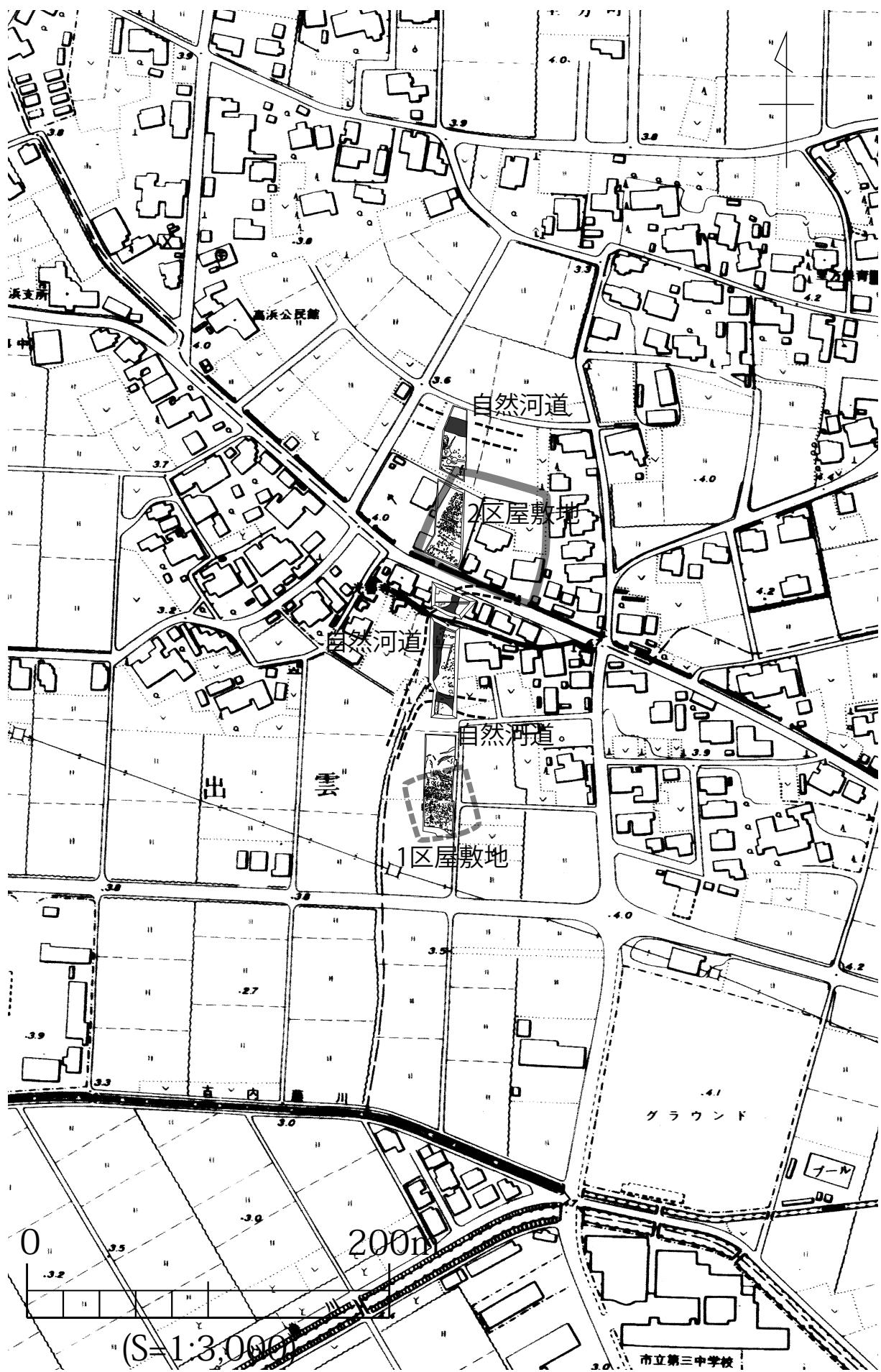
2区は標高3.5m、3区が3.8～3.5m、1区は3.5mで遺構面を検出している。2区と3区は北東から南西に伸びる微高地上から縁辺部にあたる。いっぽう1区は青灰色粘質土上に30cm程度の盛り土をおこなっており、屋敷地が作られるまえは湿地帯であったことがわかる。

1区からは15世紀から16世紀初頭の屋敷地を検出している。屋敷地は厚さ30cmの盛り土により造成され、南北には明確な区画溝・遮蔽施設のないことが注目される。建物跡は5棟が復元されている。そのうちSB01が最も大型の建物で、桁行6間（12.05m）以上、梁間2間（4.7m）ある。柱穴から土師質土器、備前播鉢、白磁IV類皿のほか将棋の駒が出土している。南3mに位置するSK53には多量の木製品が投棄されていた。永正三年（1506）の木簡、将棋盤、「罫二郎」の墨書がある三方、漆器椀、建具（格子）などである。

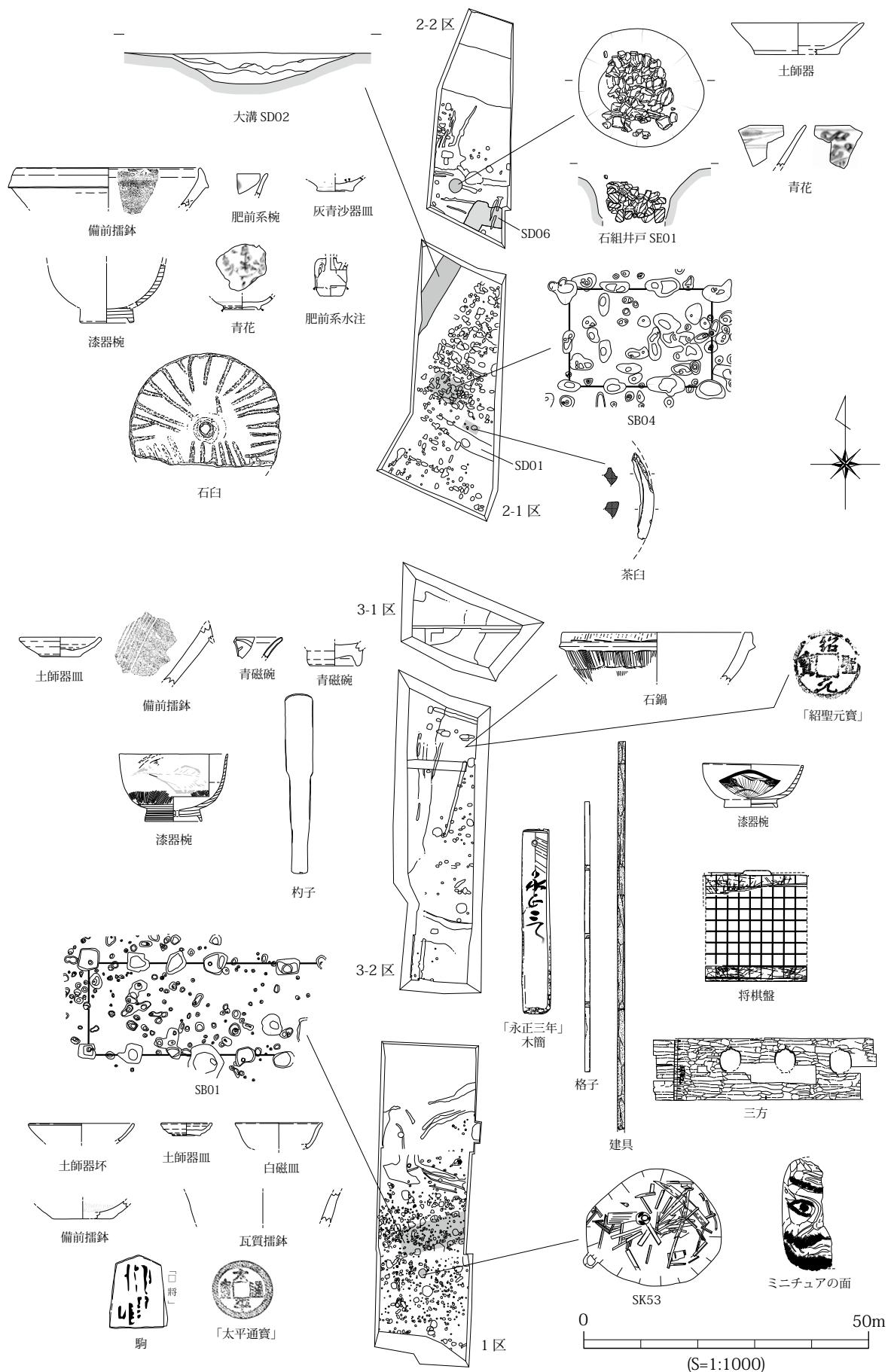
2区は1区と異なり微高地上に位置する。14世紀中頃から17世紀初頭まで存続した屋敷地を検出している。敷地の西端は南北方向に走る幅4m、深さ90cmの大溝（SD02）があり、その東に土壘がめぐっていたものと思われる。西大溝（SD02）の北端にはSD06が東から取りついている。SD06はSD02にくらべて浅いが、屋敷地の北辺を区画していたものと推定される。またSD02の南約34mを東西に平行して、敷地内を区画する溝SD01がある。建物は2-1区でSB04など6棟が復元されている。規模は2間×1間から1間×5間以上であるが、1区SB01のような大型建物はみられない。建物群の北、2-2区からは石組井戸や墓が検出されている。特殊な遺物としては茶臼が2-1区の柱穴（ピット78）から出土している（第6表）。

3区は前述のとおり1・2区と同時期の建物は見つかっていない。おそらく北東側に当該期の遺構が展開し、調査区内は西・南端を自然河道が流れる居住域の縁辺であった、と推定される。

以上のように、本遺跡は南端に15～16世紀代初頭を中心とする屋敷地（1区）、北端に14世紀後半から17世紀初頭まで存続した大溝と土壘に囲まれた屋敷地（2区）が展開している。注目されるのは1区の屋敷が微高地上ではなく、大規模な盛り土により敷地を造成している点である。いまひとつ注目されるのは、敷地の北・南辺に区画溝・遮蔽施設が検出されていないことである。1区は、三方やミニチュアの面などの特殊な遺物が出土している。報告では屋敷地の性格について、神社関連遺構とする見方も示しつつ、塩冶氏の系譜にある国人領主層や有力土豪の居館とした。



第42図 高浜I遺跡の中世屋敷跡復元図



第43図 高浜I遺跡遺構全体図

第2節 古墓の様相（第1表）

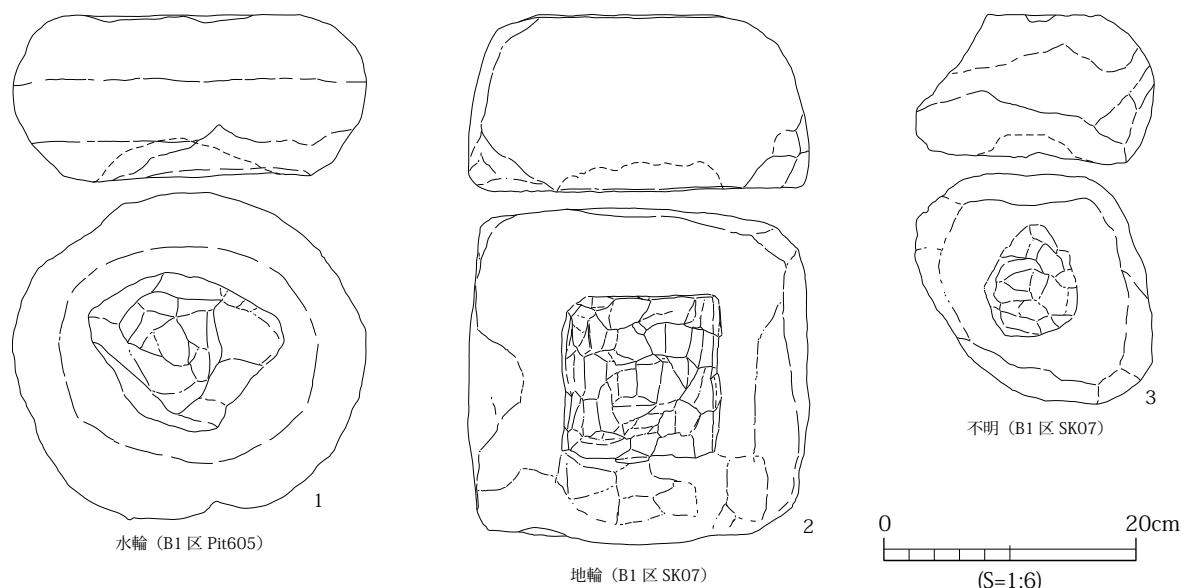
本遺跡からは、2-2区で5基、3-2区で2基の古墓を検出している。いずれも屋敷地（集落）の縁辺に位置する。2-2区では屋敷地外に土壙墓が密集し、敷地内に火葬墓が確認されている。

2区 SX03は土壙墓で、主軸は南北にとり、土師器皿1点を副葬している。SX08は北西 - 南東に主軸をとり、古銭5枚（銭種不明）が副葬されている。SX04・05は火葬場の可能性が指摘されている。いずれも15世紀後半から16世紀代に位置付けている。

3区 SX01は蓋と底板が無く、墓壙底面に直径2cm、長さ45cm前後の棒（枝）を平行に6本並べ、それを側板と小口板で挟む構造である。出雲平野で同様の構造をした古墓は、姫原西遺跡C区1号墓・3号墓、蔵小路西遺跡B2区墓1、白枝荒神遺跡1号墓がある。年代は15～16世紀に位置付けられている。SX01はNR01埋没後に造られており、他遺跡の例からも16世紀代と考えられる。3区 SX02は蓋・底板をもつ木棺墓である。非常に狭小な内部空間であり、子供などを埋葬した可能性がある。新寛永通宝を副葬しており、17世紀末以降と思われる。

また墳墓には共伴していないが、NR02から五輪塔の水輪部が出土している。凝灰岩製の小型品で、本遺跡からは初めての出土である。出雲平野の集落遺跡（屋敷地）では蔵小路西遺跡、白枝荒神遺跡、古志本郷遺跡などで石塔が出土している。蔵小路西遺跡ではB1区の柱穴（P605）および土壙（土坑17）から五輪塔の部材が出土している（第44図）。本遺跡と同様に凝灰岩製の小型品である。土壙からは備前IV期の擂鉢と共に、屋敷地の存続時期からも15世紀後半と考えられる。また白枝荒神遺跡I区1号井戸からも凝灰岩製の空風輪部が投棄されており、16世紀代と考えられている。古志本郷遺跡A区SX01、SE05、C区SE10で五輪塔の部材が出土している。同遺跡HII区SK108・SE07・SE14でも井戸に投棄された状態で出土している。

出土した石塔の部材は20～30cmの大の中型品で、梵字を刻まないものが多い。時期はおおむね15世紀後半から16世紀代の所産と考えられる。石塔の産地は特定できないが、平野南部の丘陵に位置する権現山石切場では五輪塔などの製作が行われている。既往の研究によれば、当該期は石塔の造立数が増加していたとされており、出雲平野においても同様の様相を示すことがわかる。



第44図 蔵小路西遺跡出土五輪塔実測図

第3節 出雲平野における遺跡の分布と土地利用 —古代・中世を中心に—

3次にわたる発掘調査で、高浜I遺跡では自然河道が3本確認されている。第2章でも記したように、出雲平野は斐伊川と神戸川の沖積作用によって形成された平野である。沖積平野であるがために、微高地の周りには後背湿地や自然河道が無数に存在していたと思われる。出雲平野^{注1}においてこれまでの発掘調査により確認した自然河道は、高浜I遺跡も含め23遺跡でその数は35本である^{注2}。そのうち10本が弥生時代または古墳時代初頭には埋没している。古墳時代に8本、古代に1本、中世に6本が埋没し、近世まで続いたのは10本である。自然河道の埋没後は湿地帯となり、中世～近世に安定した場所には遺構が築かれるようになる。

そのうち、築山遺跡と角田遺跡のそれぞれ西端の自然河道は微高地を廻るように、現在の県道277号線、西に半円形を描く旧道、市道南本町線上へつながっていたと思われる。姫原西遺跡と小山遺跡第2地点の自然河道は現在の県道276号線上でつながり、矢野遺跡の西側を北西へと流れる。里方本郷遺跡の自然河道は、東に位置する山持遺跡の自然河道とつながると思われる。高岡遺跡第2地点の自然河道と300m西南に位置する高岡II遺跡の自然河道はつながる可能性があり、旧斐伊川の本流になりえるような大きさである。

第45図は、『出雲国風土記』（以後略して『風土記』と記す）時代の地形を明治28年の地図とともに推定復元したものである。明治28年の地図に「島根県古代文化センター編『解説出雲国風土記』2014」の推定水域を利用し、遺跡の分布からも認められる微高地、及び発掘調査により確認された自然河道、水域・沼沢地の範囲を復元している。

旧神戸川は、三田谷I遺跡から平野に達した付近で北上する支流が想定できるが詳細が不明なため復元していない。旧斐伊川の流れは、平野中央部から北部にかけて自然河道が何本も検出されているが詳細が不明なため復元していない。ただし、現在のような東への流れもあったものと思われる。

第46～51図は、縄文時代から中世後半の遺跡分布図である。第45図を利用している。遺跡の詳細は、第1表を参照していただきたい。

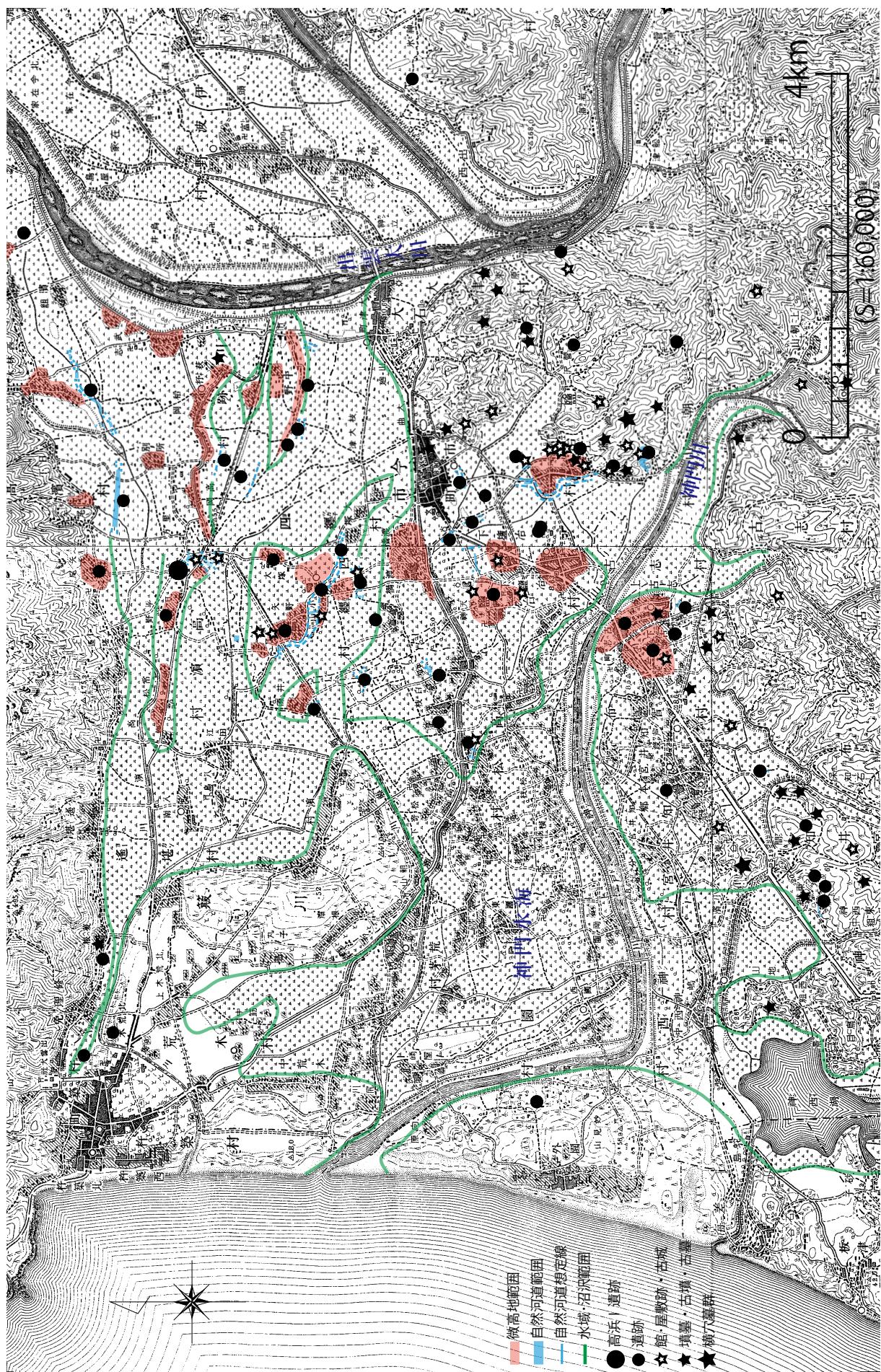
以下、出雲平野の遺跡の分布と土地利用などの状況について、高浜I遺跡（平野北部地域）と関連する古代と中世を中心として述べることとする。

【古代以前】第46～48図

縄文時代の出雲平野は定住するには未だ不安定な状況であったようで、集落遺跡は皆無である。あるいは三瓶山の噴火などによる大規模な洪水砂により埋没しているかもしれない。弥生時代は、早くに形成された微高地上に、自然河道や人工的に掘削して築かれた大溝で集落を囲繞することが知られている。

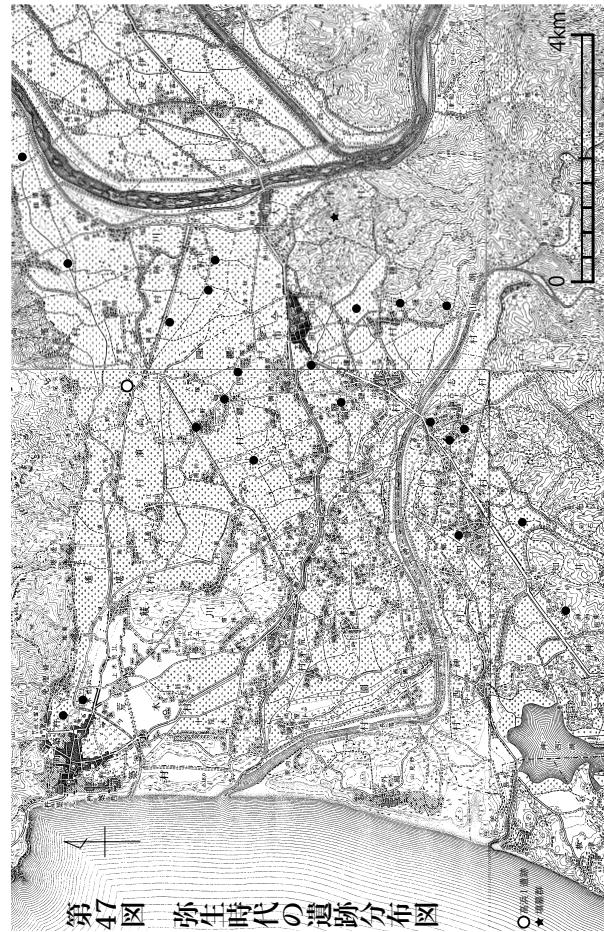
古墳時代に入るとまもなく集落を囲繞していた大溝などに土器を大量に廃棄し、弥生時代からの集落は縮小し廃棄されていく。そして古墳時代の集落は、平野中央部からほとんどが消え、平野南の丘陵上の遺跡が存続する。古墳の様相は、集落の展開と同様な動きをみせている。後期になると平野中央部に集落が戻り始める。大型古墳が築かれ、それに序列をなすような古墳も築かれるようになり、平野部にも古墳が築かれる。

高浜I遺跡が位置する平野北部地域では、弥生前期の遺跡として北山裾からやや平野に位置する里方本郷遺跡がある。里方本郷遺跡と山持遺跡の集落は北方の谷田谷川、伊努谷川のそれぞれ扇状地

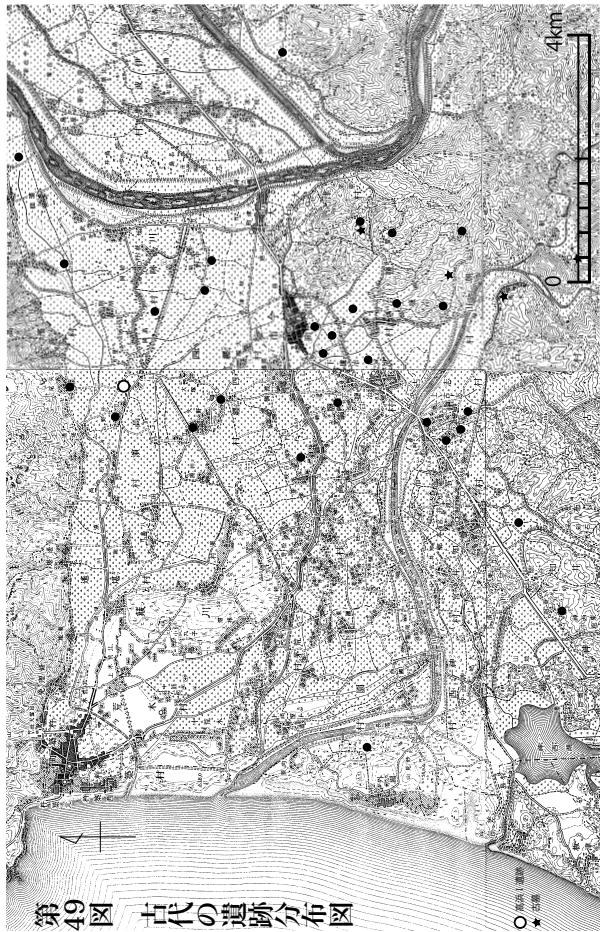


第45図 出雲平野の遺跡分布図（明治28年地図）

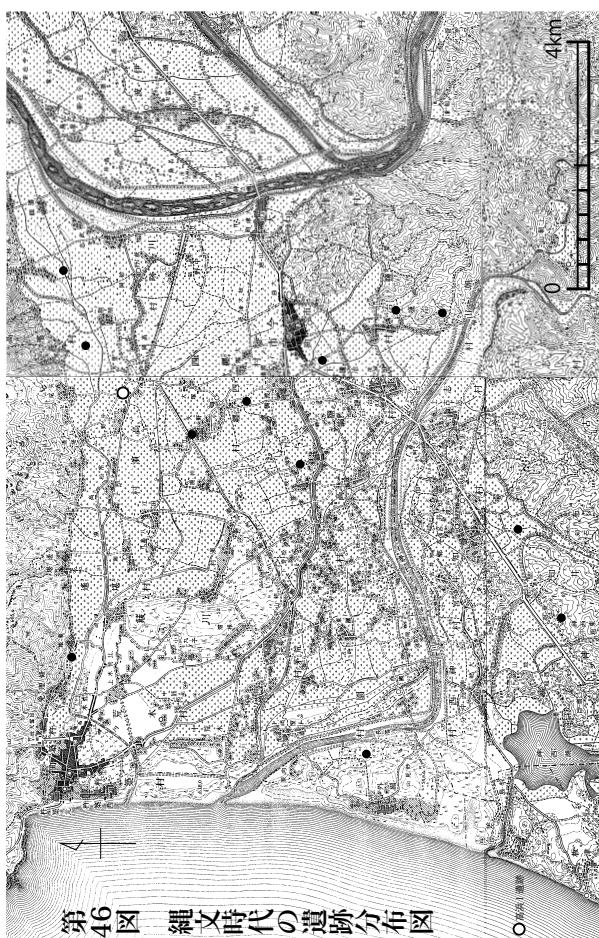
※遺跡は第1図と同じ



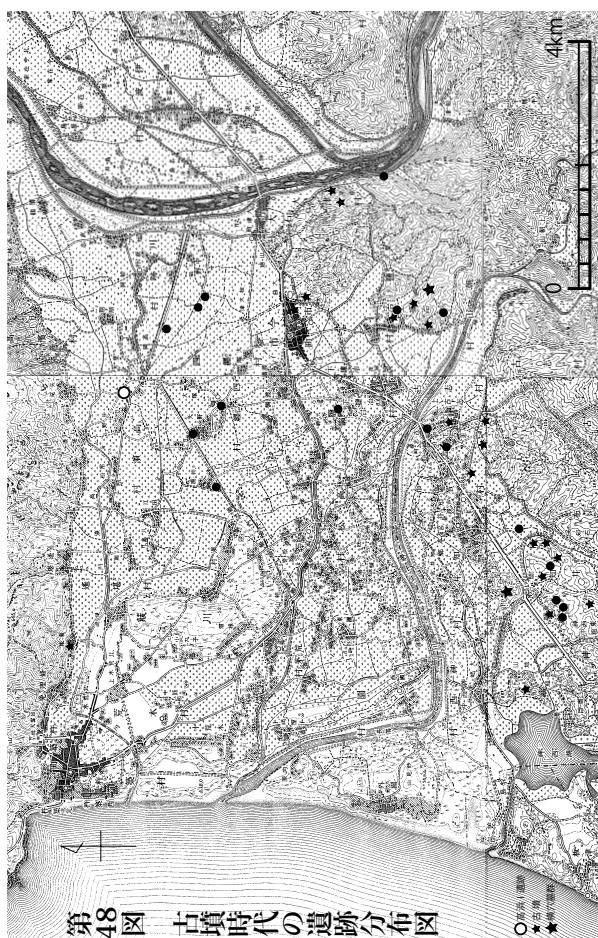
第47図 弓生時代の遺跡分布図



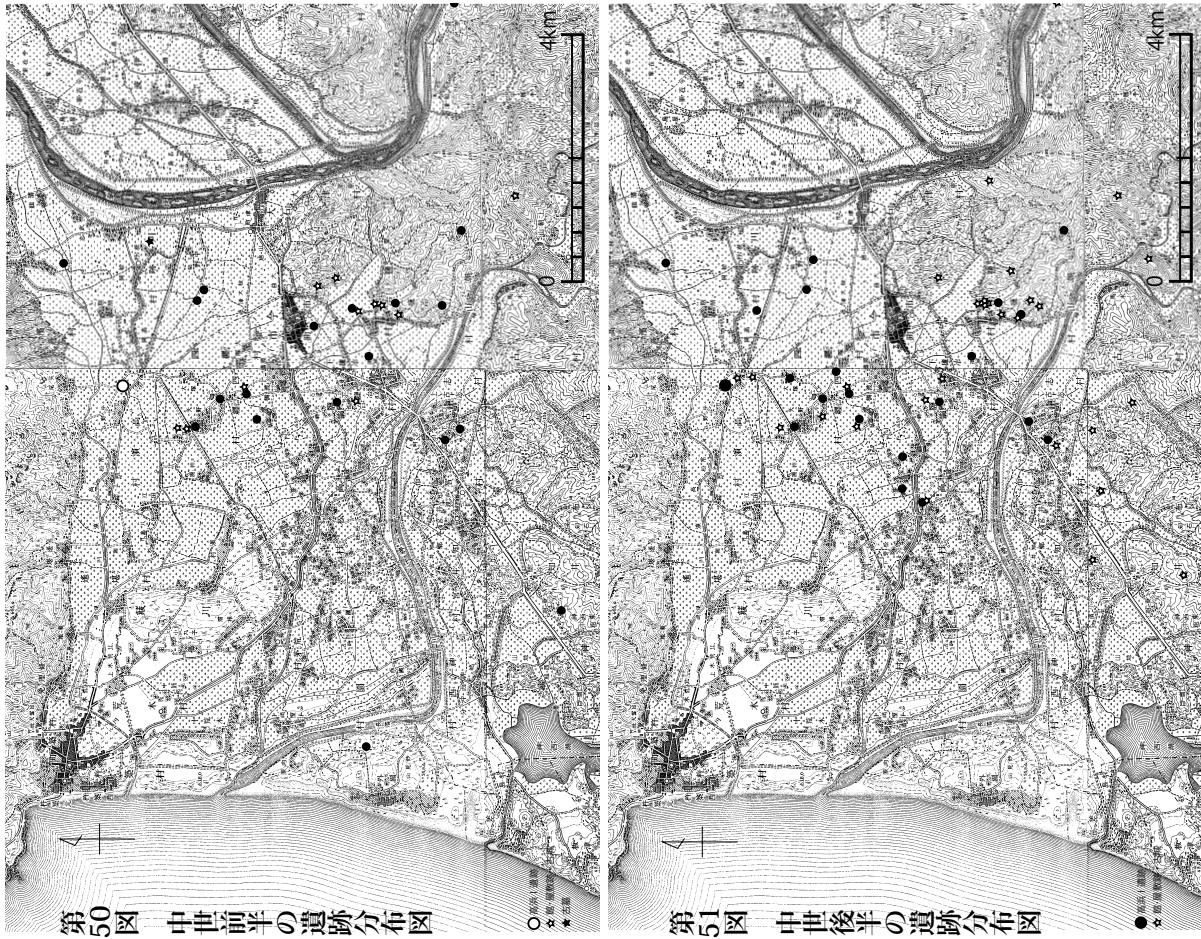
第49図 古代の遺跡分布図



第46図 繩文時代の遺跡分布図



第48図 古墳時代の遺跡分布図



上にあったものと想定される。更に南に位置する高岡遺跡第2地点・高岡II遺跡の集落は北方に位置する高岡遺跡・稻岡遺跡あるいは南方に位置する中野遺跡群の北にある微高地上にあったと想定される。

【古代】第49図

奈良時代に築かれた遺跡は古墳時代から継続しているものがほとんどである^{注3}。

出雲平野西部に遺跡が築かれていらない範囲は、『風土記』で「神門水海」と記された入海の範囲と重なる^{注4}。日本海と現在の神戸川（『風土記』では「神門川」）を挟んだ南北に延びる砂浜は薺の松山と呼ばれた砂洲である。当時は現在の神戸川の河口付近が「神門水海」の水門であり、「神門川」の河口は旧古志橋西側辺りでその付近から「神門水海」へ広がるようになると思われる^{注5}。現在の斐伊川は『風土記』では「出雲大川」として現在の川跡地区の辺りで西流していたと考えられる。「神門水海」は周囲35里74歩（約18.8km）として示されているので、当時は出雲平野の西半分（高松地区から浜山西側の大社荒木地区）を占めていたのであろう。浜山南縁から白枝町の間を通して浜山東側の潟湖とつながり、そこに東から流れてきた「出雲大川」が注いだものと思われる。平野部には二大河川に沿うように何本もの自然河道が流れ^{注6}、微高地上や北山・南部の丘陵上や山裾に遺跡を築いている。

平野北部地域は、神門郡「八野郷」北部、出雲郡「伊努郷」に比定される。この地域には、何本

もの川が流れていたことが高浜Ⅰ遺跡をはじめとして高岡遺跡第2地点・高岡Ⅱ遺跡・里方本郷遺跡・山持遺跡などの調査によって明らかである。試掘調査において、高浜Ⅰ遺跡と下澤遺跡の間には遺構空白地帯が確認されており、自然河道があったと思われる。第45図を見ると、その東に位置する里方本郷遺跡・山持遺跡の自然河道とつながる可能性がある。また高浜Ⅰ遺跡と大塚遺跡の間にも遺構空白地帯が確認されている。その東に位置する高岡遺跡第2地点・高岡Ⅱ遺跡の自然河道とつながる可能性があり、ここにひとつの大きな流れがあっても不思議ではない。出雲郡と神門郡の境となるはずの「出雲大川」の本流は定かではないが、この流路は本流のひとつの可能性は高い。

高浜Ⅱ遺跡は「出雲大川」の本支流の低微高地上に当たり、標高2.3～2.7mで遺構を検出している。同じく北山の山裾に位置する下澤遺跡は客垣谷川の扇状地先端に位置し、水田跡が検出されている。水田は谷からの土石流による埋没を受けて、2回作り直している。そのような環境の下でも水田耕作を行ったのは、集落として安定した北側の扇状地上を利用したかったと考えられる。山持遺跡では盛土工事を行なった道路状遺構、畝状遺構・水田耕作跡を検出している。居住区域は北方の伊努谷川の扇状地上であることが想定できる。古代まで自然河道であった高岡遺跡第2地点では、当該期には湿地になり水田耕作地として利用され始める。

【中世】第50・51図

中世は、「神門水海」が沖積作用により徐々に縮小し、その周辺は湿地帯となる。湿地帯は地盤が安定して平野部が徐々に広がっていき、新たな遺跡が展開してくる。新たな湿地帯は沼沢地として広がり、水田耕作地も広がっていったものと思われる。「神門水海」が縮小するにつれて水海域が狭くなり、中世の山陰道は神西湖の北側を通っていたと考えられている^{注7}。

平野中央部地域は、中世になって新たに展開する遺跡が多く、沖積作用により新たな微高地ができたものと思われる。新たに築かれた遺跡としては、微高地上に位置する渡橋沖遺跡、「神門水海」の汀線に最も近く微高地及び後背湿地にまたがる部分に展開する余小路遺跡、余小路遺跡の約200m北東の微高地上に位置する白枝本郷遺跡である。古代から継続する遺跡としては矢野遺跡がある。矢野遺跡では13～14世紀の屋敷地が築かれ、中世後半には居住域を微高地西側の自然河道が埋没した付近へ移動している。古代から続き中世後半に拡大する遺跡として壱丁田遺跡がある。蔵小路西遺跡は12世紀後半～15世紀前半に堀をめぐらす館跡が築かれる。姫原西遺跡では古墳時代初頭に埋没する自然河道の右岸に15世紀後半～16世紀後半の古墓が纏まって墓域を形成する。中野美保遺跡・中野清水遺跡では、中世後半には遺跡全体が水田耕作地となる。

高浜Ⅰ遺跡は、旧斐伊川の本支流が流れている場所に築かれる。旧斐伊川の東側と浜山東側の潟湖のほぼ中間の位置である。高浜Ⅰ遺跡が所在する平野北部は、浜山東側の潟湖が「神門水海」と共に縮小していき、旧斐伊川が西流する場所では湿地帯が増えやや安定した場所が出来上がっていったと思われる。しかし北西に位置する高浜Ⅱ遺跡では当該期には遺跡を廃絶している。北山裾の下に位置する下澤遺跡は水田が放棄され湿原に、里方本郷遺跡は自然河道が埋まり沼地となり土地利用はされていない。山持遺跡では当該期には水田耕作地として利用されている。更に南に位置する高岡遺跡第2地点では古代から引き続き水田耕作地として利用されている。高浜Ⅰ遺跡中央東側の2区では、14世紀中頃～17世紀初頭までの堀をめぐらす屋敷跡が見つかっている。屋敷跡の南側（3区）には自然河道が流れ、その南側（1区）には15世紀～16世紀に大規模な造成（盛土）を行なって敷地を確保し遺構を築いている。

以上のように、平野北部地域や平野中央部地域に新たに展開する館跡・屋敷跡・集落は、以前は湿地帯ではなかったかと思われるような場所に遺跡を築いている。原慶三は「近年の研究成果によると、西国武士や莊園領主の支配の拠点と、新たに東国から入部した地頭の館では立地条件が大きく異なっている。すなわち、前者の支配拠点が早くから開発が進んだ川の支流沿いの谷の出口部分に所在することが多いのに対し、後者は川の本流沿いの低湿地の近くに所在して、低湿地開発の拠点となつたとするのである。地頭は、東国で身につけた低湿地の開発経験と技術をもとに、それまで開発が遅れていた平野部を自ら支配領域とした。」^{注8}とする。これを出雲平野に当てはめると、前者は神戸川左岸や右岸（平野南部）の屋敷跡、後者は平野中央部や北部の屋敷跡に当たると考えられる。

【近世】

中世からは継続して営まれる遺跡が多いようである。斐伊川の主流も寛永12（1635）年頃に土木工事によって東に流れを変え、上流からの鉄穴流しにより天井川となっていく。「神門水海」の名残りは神西湖となり、神戸川も現在の位置に定まり、浜山の東側の潟湖も縮小して菱根池となっていたものが寛永年間（1624～1643年）に干拓されて水田地帯となる。そしてほぼ現在（明治28年図景観）の地形となったようである。また灌漑水路の掘削・整備などが行なわれ、出雲平野は穀倉地帯へと発展していく。今市・大津を中心に旧山陰道沿いの微高地上にも町屋が形成され、人馬が行き交っていた様子が想像される。近世に村単位の居住域が集約され、出雲平野の景観が出来上がったものと思われる。

注1 平成17（2005）年市町村合併前のほぼ旧出雲市域

注2 「第1表 遺跡一覧表」より、米田の管見内

注3 米田美江子「遺跡分布から見た出雲平野の形成史 表1」『島根考古学会誌 第23集』2006 島根考古学会

注4 「第1図 高浜I遺跡の位置と周辺の遺跡」または「第45図 出雲平野の遺跡分布図」

注5 第45図から、天神赤川を汀線と考えたラインどり、視覚的には神門郡家から西へ4里50歩（約2.3m）付近から水海と見られていたようである

注6 発掘調査の結果、自然河道は「出雲大川」の流れに沿うように、平野南部から中央部にかけては南北方向、平野北部は東西方向の流れがみられる

注7 岡宏三「中世の神戸川南岸地域の特色」『出雲国風土記の研究IV 神門水海南辺の研究（論考編）』2013 島根県古代文化センター

注8 原慶三「第二編塩冶の歴史 第三章 第一節平安末～鎌倉期の塩冶」『出雲塩冶誌』2009 出雲塩冶誌編集委員会

第4節 出雲平野の中世の館跡及び屋敷地

出雲平野では、中世の館跡及び屋敷地と思われるような遺跡が、高浜I遺跡を含め9遺跡が知られている。築山遺跡のように複数検出された遺跡もある。しかし屋敷地全体を調査した例はない。館跡及び屋敷地としたものは、堀（最大幅が3.0m以上）・土塁が廻るもの、堀状の大溝（最大幅が3.0m未満）が廻るもので、方形区画を想定すると一辺が30m以上のものである。淨音寺境内館跡・三木氏館跡が現在もその痕跡を残している。また居館・屋敷地内のほとんどに鍛冶関連遺物が出土してお

り、居住域内で小鍛冶が行なわれていたものと考えられる。以下、屋敷地跡を検出した遺跡を南部から概観していく。

下古志遺跡では、16～17世紀に遺跡南西部^{注1}で堀状の大溝（幅2.0～1.5m、L字状に検出）で囲まれた屋敷地跡が築かれる。建物跡が1棟のみ検出されているが、敷地内の状況は不明である。屋敷地跡の南西部や東側でも区画溝が検出されており、集落の小単位ではないかと思われる。

築山遺跡は平野南の丘陵下方（北）に位置し全体が居住域となっている。その中で方形区画が第52図のように、5箇所（屋敷A～E）見つかっている。高浜I遺跡と同じように屋敷地が近接していることから、その様相を以下詳しく述べる。

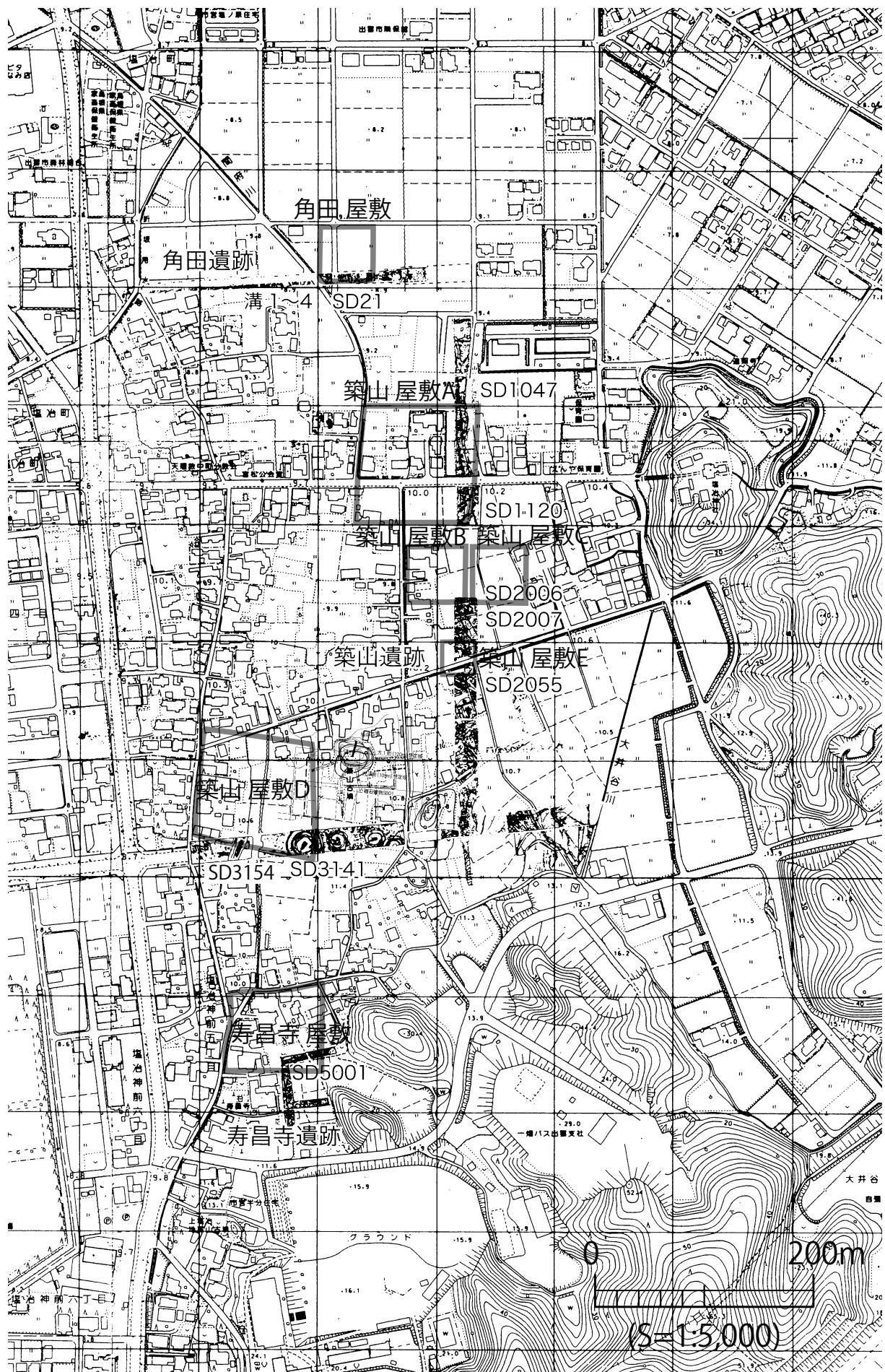
屋敷Aは塩治神社が正徳3（1713）年に現在地に移転する前の敷地である。現在の塩治神社からは150m西に位置し、微高地の東縁辺部に当たる。発掘調査により北辺と南東辺が検出され、一町四方であることが確認された。幅3.5～1.0mの堀に囲まれている。南辺が幅1.0mと狭く、この付近に門があったものと考えられる。報告書では15～16世紀の堀と判断しているが、屋敷地内で13～14世紀頃のL字状の溝で舟形木製品を使った祭祀が行なわれている。海上交通を押さえていた塩治氏との関連がみられ、その頃には屋敷Aに旧塩治神社が所在していたと思われる。北東部では畝状遺構が検出されており敷地内で自家用耕作を行なっていたようである。小鍛冶も行なわれており鍛冶関連遺物が出土する。また北側の堀の外には土壙墓が集中している。

屋敷Aの南約70mには東西に隣接した状況で屋敷地を囲む堀（屋敷B・C）が見つかっている。両屋敷の南辺は屋敷Aの南辺から約70mある。屋敷Aの南辺には門が開くことから、両屋敷との間には空閑地があったと思われ、この二つの屋敷地は半町四方と推定される。その場合、屋敷Aとは20mの距離が開くことになる。西側の屋敷B（堀幅4.0～3.0m、L字状で検出）は13～14世紀、東側の屋敷C（堀幅3.5～1.0m、L字状で検出）は14～15世紀に営まれていたと考えられている。調査範囲が狭く屋敷地内の状況は不明である。

遺跡の南西部には塩治判官館跡推定地内で検出された13～14世紀の屋敷D（堀幅3.0～2.5m）が、上塩治築山古墳の西側をかすめるように造られていたものと想定される。13～14世紀の東西溝SD3154と南北溝SD3141が2条検出されている。報告書^{注2}では、東西溝SD3154は調査区南壁の手前でなくなり、南に屈曲すると想定されている。しかし、北側の上端線を東に延長すると、築山4号墳を壊している東西方向の掘方上端線とつながる。一連の遺構であり、SD3154は東に延びていた可能性がある。ふたつの溝は時期と規模が一致し、調査区内でほかに同様の遺構もみられない。このことから、東西溝SD3154と南北溝SD3141は屋敷地の南・東辺を区画した堀と想定される。SD3141の南端から北に約74m離れた上塩治築山古墳7T^{注3}で、時期が一致する南北溝SD03が検出されている。一連の南北方向の堀の可能性があり、屋敷地の規模は南北に約一町と推定される。一町四方を想定した場合には、SD3141から西に約100m付近を南北に通る小道が屋敷地境の痕跡であるかもしれない。なお屋敷地内からはSD3154に平行する柵列、建物跡1棟を検出している。

屋敷Eは、屋敷B・Cの35m南に位置する。屋敷A～Dと比較すると小規模な30m四方の15世紀頃の敷地である。敷地を廻る溝はコの字状に検出され、幅は1.0mと狭い。このような小区画は、別の屋敷地か、屋敷A～Cに付属するものかは不明である。

寿昌寺遺跡は築山遺跡の屋敷Dの南方に位置し、14～15世紀の屋敷地を囲む堀（幅3.0～2.0m）が検出されている。検出された南辺と東辺の堀に対応する北側と西側それぞれ約80mのところには



第52図 築山遺跡・角田遺跡・寿昌寺遺跡の中世屋敷跡復元図
注6

小道が通っている。屋敷地境の可能性があり、約 80m 四方の屋敷地跡と推定できる。なお西側の小道は北に位置する築山遺跡屋敷 D の屋敷境とした小道とつながっている。調査範囲の敷地内は近世の耕作関連遺構に壊されており、井戸しか検出されていない。

築山遺跡屋敷 A の北に位置する角田遺跡では 12～13 世紀の幅 2.0～1.5m の堀状の大溝（L 字状で検出）で囲まれた半町四方の屋敷地跡が見つかっている。調査範囲内では井戸のほかに土壙墓と思われる遺構が 2 基検出されているのみである。この屋敷地は微高地の縁辺部に位置しており、東側は約 60m 先で大井谷へと地形が下がっていく。

天神遺跡では、遺跡南部に中世前半期の屋敷を囲うような堀状の大溝（幅 2.3～2.0m）が検出され、北西部でも中世後半の堀状の大溝（幅 2.0～1.8m）が L 字状に検出されている。前者は調査範囲が狭く大溝以外の状況は不明であるが、後者は調査した範囲内では、建物跡は検出されず溜池や井戸と共に土壙墓と考えられる遺構が纏まっている。

高西遺跡の所在する微高地上に淨音寺境内館跡がある。この館は、塩治高貞の弟時綱の系統である後塩治氏の居館（14 世紀以降）ではないかと考えられている。土壙の一部が残り堀の痕跡が見られる。

余小路遺跡では、16 世紀後半から 17 世紀にかけての堀（幅 3.0～2.0m）をめぐらす 40m 四方の屋敷地跡があり、建物跡などが検出されている。敷地内には約 50cm 幅の小溝が、堀の近くを並走して造られている。近世に入ると屋敷地の内外に墓域が造られる。屋敷地の外側と思われる北東域の方に、屋敷地跡と同時期の柱穴の堀方が大きい建物跡が数軒建て替えを繰り返しながら展開する。

蔵小路西遺跡は 12 世紀後半～15 世紀前半の堀（幅 4.0m）をめぐらす一町四方の館跡で、この地を基盤としていた朝山氏のものと考えられている。堀の周囲は遺構の空閑地となっており土壙が築かれていたものと思われる。全国的には 13 世紀、早くても 12 世紀終わり頃に方形館が出現し、14 世紀以降に堀・土壙をもつ居館が整うとされている^{注4}。本遺跡でも堀を掘削したのは 13 世紀以降と考えられる。西側の堀内には橋をかけたような痕跡があり、出入口があったと考えられている。建物群は西堀側と東堀側南寄りの 2 グループに分かれ、井戸や水溜めも多く掘られている。東堀南寄り建物群の北側は広場のようで遺構が無い。15 世紀後半には西側の建物群に木棺墓・土壙墓を築き、墓域に変えている。また屋敷地の外には旧河道による湿地が広がり、水田耕作が行なわれていたものと思われる。

小山遺跡第 1 地点のトレーニング調査地は、蔵小路西遺跡館跡の北西約 10m に位置する。館跡とほぼ同時期の土坑・柱穴などが検出されており、館に関わる小集落が存在したと思われる。また小山遺跡第 2 地点には、佐々木塩治氏から分かれた三木氏の屋敷跡と伝えられる三木氏館跡が所在する。

矢野遺跡では、遺跡北東部に幅 2.0～1.5m の堀状の大溝で囲まれた 13～14 世紀の 30m 四方の屋敷地（屋敷 A）が築かれる。東側には外溝が楕円形に延びて堀状の大溝との間に空白地帯を作つており耕作地であったと思われる。堀状の大溝から外溝が派生するコーナーには水溜めが造られ堀状の大溝と外溝がつながっている。敷地内には井戸・水溜め、多数のピットが検出されている。屋敷 B は、屋敷 A の 130m 南方に築かれている。築山遺跡屋敷 E と同じく小規模な敷地を廻る溝で、幅は 1.0m と狭く、L 字状に検出された 12～13 世紀の敷地である。東西に走る道状遺構に平行して築かれている。



写真1 高浜I遺跡2区遠景（上空：南から）



写真2 高浜I遺跡2区近景（上空：南から）

以上のように、発掘調査された中世から近世初頭の屋敷地（屋敷地を区画する溝を伴うもの）は9遺跡15箇所であった。あらためて、これらと高浜I遺跡の1区・2区屋敷地を比較してみたい。

1区・2区の屋敷地配置

1区の区画が明確でないため、築山遺跡（屋敷A～E）のような計画的配置が明らかでない。ただ建物の軸は一致しておらず計画性はないと考えられる。

2区の屋敷地

大溝と土塁をもつ平地の居館には蔵小路西遺跡と淨音寺境内遺跡、三木氏館跡がある。蔵小路西遺跡は朝山氏、淨音寺境内遺跡は塩冶氏一族の居館と推定され、一町四方の規模に復元されている。館の内部は蔵小路西遺跡では居住（公的）部分と倉庫などが区分されており、三木氏館跡も土塁によつて同じように区画されたと考えられている^{注5}。2区屋敷地もSD01により北と南が区画されており、施設配置が区分されていた可能性がある。3つの館跡と2区の屋敷地は同規模の大溝と土塁を有する点は共通する。屋敷地の規模は3区で遺構が確認されなかったことから一町四方とは考えにくい。県道矢尾今市線に北面するあたりとし、半町四方程度と推定される（第42図）。

1区の屋敷地

出雲平野の屋敷地で大規模な盛り土造成をおこなったものは確認されなかった。1区の屋敷地の特異性が追認されたといえる。館の主は塩冶氏の系譜にある国人領主層や有力土豪とみている。低湿地を大規模開発し拠点とした歴史的背景については、再検討する必要があるだろう。また屋敷地の北辺（および南辺）を区画する施設がない点も注目される。この屋敷地の性格を反映した可能性も考えられ、あわせて検討する必要があるだろう。

注1 掲載地点の詳細（調査地区名等）は、「第1表 古代～近世前半の遺跡一覧表」にゆだねる。以下も同じである

注2 出雲市教育委員会「築山遺跡IV」『県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』出雲市の文化財報告6 2009

注3 出雲市教育委員会『上塩治築山古墳』2004

注4 島根県教育委員会「蔵小路西遺跡」『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2』1999 でも 橋口定志・廣瀬和雄・峰岸純夫「中世居館」『季刊自然と文化』1990 を参考に指摘している

注5 山根正明「埋蔵文化財の語る中世の塩治」『出雲塩治誌』出雲塩治誌編集委員会 2009

注6 注2の「附図3」を改変

第5節 おわりに

以上、高浜I遺跡1～3区の屋敷地および墳墓の様相について、出雲平野の調査事例をふまえて検討を加えた。出土遺物については十分な検討を加えることはできなかつたが、遺跡の立地基盤の形成と土地利用、屋敷地の成立と変遷について見通しを示せたものと思う。

1990年代以降、島根県と出雲市により行われた斐伊川放水路・出雲バイパス・東林木バイパスなど大規模開発事業に伴う調査で、出雲平野の調査事例は飛躍的に蓄積された。この四半世紀以上にわたる調査成果を総合化し、出雲平野の集落の動態や景観の復元にあらためて取り組む必要がある。

第1表 古代～近世前半 遺跡一覧表

(遺跡No.は第1図と同じ)

遺跡No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古代 (8~10C.)	中世前半 (11~13C.)	中世後半 (14~16C.)	遺跡の概要		内訳					
							河道 河川	①自然 ②屋敷 ③鍛冶 ④開運 ⑤古墓 古墳 石塔						
1 高浜I遺跡	里方町 平野町 高岡町		3.3~4.0				・2区:14世紀中頃～17世紀初頭の屋敷地。屋敷地を围む堀は北西部が浅くなつており出入口とする。北側堀の約40m南の辯は屋敷地の区画巷と思われる。 ・1区:15世紀～16世紀初頭の屋敷地。盛土の上に造られてゐる。木製品の廃棄土坑があり、三方・斜面盤が出土。建物跡からは騎馬出土 ・3区は湿地だが、水田耕作地または墓域となる	3本 ○ ○	○	1点 1基	①遺跡東部(一般県道矢尾今市線)では、2区の北側、3区の西端、3区と1区の間の自然河道が、中世期も存在 ②2区の14世紀頃～17世紀初頭の屋敷地を残存する。堀の東側は堤構の空閑地であり、そこには土塁が築かれていた。 ③2区北側の自然河道上から埴輪の羽口1点出土、1区から鉄滓1点出土 ④2区の屋敷地北側外には、中世の土礫墓5基が墓域を形成。屋敷地内には火葬土坑あり。3区では、自然河道が埋没した上に16世紀頃の木棺墓、基と17世紀末以降の木棺墓、基が近くにあり ⑤3区の自然河道から五輪塔(冰輪1)出土			
2 九景川遺跡	東神西町		3.5~23.0				・自然河道の北側に居住域を形成。建物跡の軸は正方位と古代山陰道に並行するものあり ・滑狹御舟か? ・倉庫群と思われる縦柱建物あり。上方の加工段から鉄錐形土器出土	1本	1基	①遺跡北西部(1区)に古代の自然河道 ④建物跡の付近に土壙墓が1基単独				
3 玉泉寺裏遺跡	東神西町		3.6~5.4				・自然河道の南側に居住域を形成。柵列で屋敷地を区画 ・貝塚から漁労具	○	1基	③貝塚から鉢群が複数出土 ④建物跡の付近に土壙墓が1基単独				
4 御崎谷遺跡	東神西町		5.0~9.0				・炭焼き土坑(小形の炭窯)							
5 浅柄遺跡	知井宮町 芦渡町		3.8~4.7				・古墳時代の大規模集落が縮小 ・建物跡の軸は古代山陰道に並行 ・倉庫と思われる縦柱建物を含む建物跡、井戸などを検出	1本		①遺跡東部(1区)に近世以降の自然河道 ⑤五輪塔の一部(部位不明)が、小型の建物より約75m北にある土坑内から多数の礫と共に出土	2点			
6 浅柄II遺跡 (浅柄II古墳)	知井宮町		56.0~63.5				・中世から近世初頭の小型の建物あり ・前期古墳の周辺に土坑あり		1基	④土坑に須恵器蓋埋置				
7 浅柄III遺跡	知井宮町		7.7~12.5				・7世紀に集落があり、中世にかけて縮小して再び居住域							
8 下古志遺跡	下古志町 古志町		7.8~9.2				・遺跡西部(A・B・D区)の敷箇所に遺構が集中する ・溝はほぼ正方位を示す							
9 田畠遺跡	古志町 下古志町		8.2~9.5				・遺跡西部(A・B・C区)に水田耕作跡。遺構の疎らな地域は耕作地になつたと思われる ・遺跡の東部(1区)と西部(5・6区)に遺構が集中する。標高の高い中央部は後世に削平されたと思われる ・東西の低地との境(1・5区)に二大溝を鏪く ・溝を伴う建物跡、井戸あり	○	2基 3基	②遺跡西南西部(C区)に16～17世紀の屋敷地を围む堀状の大溝(幅2.0～1.5m)をL字状で検出、屋敷地内には建物跡1棟検出。 それより南西部(2区)、東部(1区～G区)ごとに区画溝あり ③鍛冶開車溝構造あり ④土壙墓2基は単独(E区、1区-2)、木棺墓1基は屋敷地内(1区-3) ②16～17世紀の屋敷地、その西隣に屋敷地を围む幅2.0mの堀状の大溝あり ④土壙墓2基は単独(E区、1区-2)、木棺墓1基は屋敷地内(1区-3)	2基			

遺跡 No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古代 (8~10C.)	中世前半 (11~13C.)	中世後半 (14~16C.)	遺跡の概要		内 訳			
							①自然 河道	②屋敷 区画	④ 古墓	⑤ 石塔		
10	古志本郷遺跡	古志町 下古志町	6.5~9.1				・遺跡北部(F~H区)は神門郡家。郡庁建物跡は、1期は旧山陰道に並行、2期は正方位。周囲に大型の区画溝を伴う長舎の建物跡、倉庫あり ・遺跡南部(J~K区)の神戸川沿いにも遺構集中箇所があり。柵列を伴う建物跡、倉庫、井戸あり ・遺跡中央部(B~C区)の大溝に挟まれた場所では建物1棟、倉庫1棟、井戸2基、土塙墓2基を検出	○	4基	③遺跡北部(F~H区)に鍛冶窯跡があり ④遺跡中央部(C区)と南部(J~K区)に土塙墓が2基ずつ		
11	古志遺跡	古志町	8.9~9.5				・遺跡中央部(A~E区)に中世期の居住域あり。居住域は3箇所に分かれ ・遺跡南部(J~K区)は中世にも区画溝および多くの井戸が作られる。遺跡中央部(I区)に中世から近世の土塙墓群があり。18世紀には神戸川沿い(J~K区)に水路が掘削される ・近世には、中世までの居住域は水田耕作地または土塚墓地となる。近世の居住域は旧山陰道周辺(H~I区)と「正法寺」の東側(A区)、神戸川沿い(J区)	○	76基	②遺跡南東部(G区)に近世の屋敷を用いた塙状の大溝(幅20m)あり ④間に出入り口の陸橋あり ④・遺跡北端部(F区)に中世後半から近世にかけて墓域形成、中世・土塙墓17基、火葬墓3基、中・遺跡中部(D区)で中世後半に古墓が数基作られ、近世には「正法寺」の寺域となる。中世・土塙墓3基、近世・土塙墓8基、火葬墓7基 ・遺跡が集中・近世・土塙墓8基 ・推定「正法寺」が約80m北東(C区)に古墓が集中、集中地帯から2.30m離れた所に数基あり、中世・土塙墓4基、中近世・土塙墓1基、近世・桶状木棺墓4基・土塙墓8基 ・単独のもの: H区-近世: 土塙墓1基、HII区-中世: 土塙墓1基、K区-中世: 土塙墓1基、HII区-中世: 土塙墓2基、近世: 土塙墓1基、K区-中世: 土塙墓2基 ⑤13世紀井戸・五輪塔跡用(水輪1・地輪3)、15世紀後半組遺構: 五輪塔跡用(水輪1)、15世紀後半井戸: 五輪塔・宝篋印塔軸用(火輪1・相輪部1)、中世井戸: 五輪塔軸用(空風輪1・火輪1、水輪1、地輪4(1点に梵字と銘文))、16~17世紀初頭石敷遺構: 五輪塔軸用(火輪1・地輪5)、18世紀井戸: 五輪塔軸用(空風輪1・火輪1・水輪3)		
12	小浜山横穴墓群 (神門横穴墓群第10支群)	神西沖町	12.6				・神門郡府(古志本郷遺跡北部(G区))から約900m南に位置する。郡家の厨か役人の居住域か、大型の建物跡、縦柱建物跡があり、軸が郡厅1期(旧山陰道に並行)とほぼ同じ建物群あり。竈を含む生活具が多く出土。古瓦が出	1本	1基	①調査区の東端に近世の自然河道 ④G~4号横穴墓を壊して造った土塙墓		
13	三田谷 I 遺跡	上塩治町	10.5以下~14.8				・神門郡官衛関連遺跡 ・神現山東裾部(Vol.2)には、段丘と谷部を区画した流路あり。丘陵には匂い構を伴う総住建築を中心とした建物跡、倉庫群、谷には水辺の祭祀場 ・神現山南谷部(Vol.3)には、水脈を利用して井戸が集中する。その南丘陵(Vol.1~A区)には、区画溝を伴う建物跡、倉庫、井戸あり	1本	○	①三田谷の雄里山稜を走る自然河道(～古代) ③神現山東裾部(Vol.2)の流路から塙用の羽口、铁津出土。自然河道から鍛冶関連遺物出土 ④土塙墓は神現山東裾部(Vol.2)の区画流路内部で建物跡からは若干離れていた空白地に單独		
14	三田谷 II 遺跡	上塩治町	23.5~27.8				・中世前半: 神現山南丘陵(Vol.1~A区)に祭祀土坑集中箇所、井戸あり。神現山西山裾部(Vol.2)に木製のしがらみ状施設、土留め施設が築かれ。神現山西側に半分丘陵の間、自然河道が沼地状となっているところに堰堤施設が築かれる	○	2基	①自然河道は中世期には沼地状となる ⑤自然河道(～11世紀頃)は五輪塔・宝篋印塔・塙用(空風輪2・火輪2・水輪6・相輪部1・笠部1)、中世の井戸: 五輪塔・塙用(火輪1)、16世紀頃の溝状遺構内の石組・五輪塔軸用(火輪1)		
15	堆現山石切場跡	上塩治町	27.0~35.5				・堆現山城発城後に營まれる。製品加工も行なう(西側に谷を挟んで立地する丘陵上の上塩治横穴墓群出土の五輪塔と法量が一致する)		6基	④古代と中世の土塙墓は単独か2基がやや近くにある ⑤未成品(空風輪5・火輪2・水輪1)		
							・墓域 ・第33支群3~7号横穴墓付近に石塔多數検出(中世末~近世初期頭)	8基	96点	④第33支群南側にある12世紀頃の火葬墓は単独、第40支群6~7号横穴墓付近にある7基の土塙墓は近世集団墓 ⑤第33支群付近の石塔は崩落したもの(空風輪7~火輪20・水輪25・地輪14・相輪部2・基壇1)；谷を挟んだ東側に位置する堆現山石切場と法量が一致		

遺跡No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古代 (8~10C.)	中世前半 (11~13C.)	中世後半 (14~16C.)	遺跡の概要		内 訳				
							河道	①自然 ②屋敷 ③鍛冶 区画	④ ⑤ 古墓 石塔	③構を伴う建物跡に鍛冶炉を検出。輔の羽口・鍛造剝片・鍛冶滓 出土 ④基とも土壙墓。	④古代の土壙墓は単独		
16	上沢Ⅲ遺跡	上塩治町	17.0~22.0				・古代～中世初頭は鍛冶工房遺跡 ・近世は臺城	○	基				
17	長廻遺跡	大津町	30.0~70.0				・近世の大岩祭祀 ・古代寺院(般若寺か)の下方に位置する遺跡 ・大瀧2条。上流から古代寺院関連の遺物が流入						
18	大井谷Ⅱ遺跡	上塩治町	100.2~110.0				・般若寺関連遺跡 ・古代からの大瀧2条と13世紀に削られた大瀧はいずれも15世紀頃に埋没または埋め戻される。その後、般若寺への参道と思われる階段状遺構、建物跡、石敷き遺構等が築かれる	○	4点+ α	③鍛冶関連遺物出土 ⑤15世紀頃の礫敷遺構・五輪塔再利用(火輪2・水輪1)、山寄りに約7×5m範囲の礫集積(中世)・五輪塔の一端出土			
19	寿昌寺遺跡	上塩治町	10.4~11.7				・古代には建物跡1棟と柵列、土坑のみ。中世前半は中屋山の山裾に土坑が集中。後半になると、14~15世紀の屋敷地を築く	○	○	②14~15世紀の想定80m四方の屋敷地を開拓した複数の大溝(幅3.0~2.0m)。屋敷地内の調查箇所は狭いが井戸・集石を検出 ③屋敷地外に鍛冶炉2箇所(南側から)・多数の鍛造剝片出土			
							・耕作地、墓域		11点	⑤遺跡の東隣に位置する中屋山裾に土留めとして再利用(五輪塔・空風輪・火輪2・水輪2・地輪2・宝篋印塔・相輪部2・屋根部1)。本来は山の中腹に建てられていたもの			
										①遺跡西南部(3C-3E区)の西端で自然河道(～弥生前期)を検出、北に位置する角田遺跡西端で検出した自然河道とともにと思われる ④9世紀前半の土壙墓1基(3B区)。須恵器蓋坏の骨蔵器埋置土坑1基と土壙墓6基(2・5B区)			
										①遺跡西南部(3D-3E区)西端の自然河道は湿地 ②方形区画:屋敷(A(GB)~4D区):1.5~16世紀の一町四方の旧塩治神社(塊の幅3.5~1.0m)、北と南堀を検出。屋敷B(5A区):1.3~14世紀の想定半町四方の屋敷地(塊の幅4.0~3.0m)、1字状で検出。屋敷C(3A区):1.4~15世紀の想定半町四方の屋敷地(塊の幅3.0~2.5m)、1字状で検出。屋敷D(4-T:3B区):1.3~14世紀の想定半町四方の屋敷地(塊の幅3.5~1.0m)、1字状で検出。屋敷E:15世紀頃の30m四方の区画幅3.0~2.5m)、1字状で検出。 ③旧塩治神社推定地(13~14世紀の想定半町四方の屋敷地(塊の幅3.0~2.5m)、1字状で検出。 ④旧塩治神社(屋敷A)北堀の外側(H区)に基の土壙墓が集中する。遺跡南寄り(2区): ⑤井戸:五輪塔軸用(総計13点)・うち火輪2・水輪1・地輪2(1点)に梵字)、普:五輪塔発乗(空風輪1)、南東隅柵区(II区)包含層(火輪1・水輪1)			
										④遺跡西南部(3B区)に単独で土壙墓 ⑤構造遺構:水輪1・地輪1			
20	築山遺跡	上塩治町	8.7以下~ 11.1				・遺跡全体に集落が展開 ・方形区画を5箇所検出(屋敷A~E) ・屋敷A(4B~4D区)は、塩治神社の南側の堀は幅1.0mと狭くなつており門があつたと推定される。舟形木製品を度つた祭祀、輸入陶磁器類多く出土。敷地内北東部には耕作地あり ・屋敷Bと屋敷Cは、屋敷Aの南に位置し東西に隣接する ・屋敷B-Cと屋敷Eの間(5A区)に作られた井戸から牛頭天王の呪符木衝出土 ・屋敷D(3B-3C区)は、塩治判官館跡推定地に当る ・遺跡南東部(1区)から、塩治氏家故入りの漆器碗出土(15世紀のもの)で残存は18世紀頃とされている)	○	○	8基	16点	①遺跡西端と中央部の自然河道は湿地となる ②12~13世紀の半町四方の屋敷地(堀の幅2.0~1.5m)。 ③屋敷地の西寄りは遺跡中央部の湿地 ④土壙墓が遺跡東端付近に単独	
							・耕作地 ・地形変換点に構を築く		1基	④遺跡西南部(3B区)に単独で土壙墓 ⑤構造遺構:水輪1・地輪1			
21	角田遺跡	上塩治町 塩治町	8.0~9.0				・古瓦が出土しており付近に寺院跡が存在か ・遺跡東部端に地形変換点(東へ下がる)の溝がある ・2本の自然河道に挟まれた範囲に東西方向の大溝が築かれ、それに並行する建物跡、柵列などがあり、井戸を伴う。大溝の外、北側には井戸が集中する。	○	○	①遺跡西端と中央部の自然河道は湿地となる ②12~13世紀の半町四方の屋敷地(堀の幅2.0~1.5m)。 ③屋敷地を広げ堀から鍛冶関連遺物が出土 ④木棺墓1基と桶棺墓1基のみ			

遺跡 No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古代 (8~10C.)	中世前半 (11~13C.)	中世後半 (14~16C.)	遺跡の概要					内 訳	
							河道 区画	①自然 ②屋敷 ③鍛冶 ④開 ⑤古墓 石塔					
22	神門寺境内廃寺	塩治町	7.6~8.9				・神門朝山郷新造院の比定地 ・現地に古代の礎石塔か金堂かは不明)が残る ・現地はほぼ周辺の地割りに沿つた二町四方、軸はN-55° ~ 60° -E軸と想定 ・調査地点の5箇所で瓦溜りを検出						
23	神門寺付近遺跡	塩治町	5.8~7.6				・神門寺 ・敷地は周辺の地割りに沿つてN-55° ~ 60° -E軸と想定 ・敷地北端(5区)で13世紀頃の土壙墓1基、北側の土墨下(T10)に中世須恵器大壺の骨蔵器を納めた石組墓1基、石組墓を納めた土手坑1基 ・敷地北端(T10)に石塔群が焼棄(空風輪2・火輪1・水輪1・相輪部2・屋根部1・基礎部1) 敷地北東車轍('11'2-10区)で15世紀頃の幅5.5mの溝に五輪塔焼棄(火輪2・水輪1・地輪2)	3基	9点				
24	富西遺跡	塩治町	5.9				・現在の正方位になる ・遺跡南東縁北端('11'12-1区)は中世以降の耕作地						
25	天神遺跡	天神町 塩治町 塩治有原 町	5.2~8.0				・遺跡内に淨音寺境内館跡があり ・神門郡官衙関連遺跡 ・遺跡南部(2次T2)に建物跡、倉庫などが集中する。遺跡南部(3次西隣)で墨書き土器「旱天」が表採	1本	1基				
26	藤ヶ森南遺跡	今市南本町	5.7~6.2				・遺跡の北部(8・9次)、中央部(4次)、南部(3次・6次-T1・T3・T5)で遺構が検出される。分布地城が属る	○	○	○	○		
27	藤ヶ森遺跡	今市町	5.4以下~ 6.2				・遺跡北西部(8次)に屋敷地、遺跡北東部(D区・12次)に道路状遺構と耕作遺構検出	○	○	○	1基	1点	
28	善行寺遺跡	塩治町	3.6以下~ 5.5				・後背湿地に立地 ・水田耕作跡						
29	海上遺跡	塩治町	3.5~4.3				・古代の溝、10~12世紀の井戸		2本				
30	余小路遺跡	松寄下町	3.2~4.0				・自然河道理没後に水田耕作 ・自然河道理没後の湿地帯	1本					
31	白枝本郷遺跡	白枝町	2.8~3.5				・中世後半から近世の堀及び区画溝に囲まれた建物跡が2箇所(I・II区)で検出 ・中世末~近世にかけては調査区内に4箇所(II区・東区)の墓域を造る	1本	○	○	19基	2点	
							・墓道が造られ、それに沿つて両側に墓域、井戸も伴う。その東側に建物跡、井戸などが配置される。17世紀頃の区画構の南端では経遺物がまとまって出土 ・遺構集地中の東端に小規模な火葬場あり		○	9基			

遺跡No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古代 (8~10C.)	中世前半 (11~13C.)	中世後半 (14~16C.)	遺跡の概要		内訳	
							①自然 河道	②屋敷 区画	③鍛冶 区画	④古墓 石塔
32	吉丁田遺跡	白枝町	3.0~4.4	---	---	---	・遺跡南部(D区)で建物跡、土器群、水路が分散する。自然河道上の湿地帯(2次)に石組造構あり、暗渠か、	1本	○	①弥生中期後葉に機能していた自然河道(2次)で、古代には埋没して湿地帯。 ③自然河道から鍛冶関連遺物少數出土。 ④遺跡北西部(3次)に15世紀頃の木棺墓2基と土壙墓1基がやや離れて造られる。
33	白枝荒神遺跡	白枝町 渡橋町 天神町	2.2~3.1	---	---	---	・遺跡南部(D区)に墓域 ・『神門北方萬指出帳(1754)によると付近に淨土宗「長圓寺」が存在	3基		④調査区内で木棺墓1基、土壙墓2基、近世後半の骨壺5個体出土。 ⑤遺跡中央部(1区)の近世の水路付近で木棺墓1基と土壙墓1基
34	井原遺跡	白枝町 松寄下町	2.0~2.9	---	---	---	・古墳時代初頭に集落は癪絶。近世に耕作地	3本		①遺跡東部(Ⅰ・Ⅱ区)(2本、北部('01-3・4区)に1本)の自然河道は古墳時代初期(初頭)には埋没し湿地帯
35	渡橋沖遺跡	渡橋町	3.5~3.8	---	---	---	・13~14世紀の集落 ・縦柱四面庇(縁)付建物跡を中心とした建物跡 ・集中。水溜め、井戸も掘られる ・近世には建物根石の残棄坑あり	1本	3基	①遺跡の東端(1区)で自然河道が古墳時代前期にはやや安定するが、それ以降は湿地帯。 ②遺跡中央部(1区)の近世の水路付近で木棺墓1基と土壙墓1基が造られ、他に土壙墓1基が単独
36	轟小路西遺跡	渡橋町 小山町	3.0~4.8	---	---	---	・12世紀後半～15世紀前半の館跡を中心とした集落遺跡 - 朝山氏の居館 ・遺跡東端(A-B1-B2区)に位置する屋敷地内には建物跡、井戸、古墓が発見される。屋敷地外には遺構の空閑地が広がり、自然河道の埋没後、湿地を活用した水田耕作地であったと考えられる	3本	○	①遺跡の東端(A区)、中央部(D-E1区)、西端(F1-F2区)で自然河道、古墳時代初頭には埋没し、2本は中世期には湿地帯。西端は中世期にも浅い河道として残り、その東側には流れている。 ②箱の堀は、幅約4mで東西に検出しき一町を測る。堀の周囲には土塁が築かれていた(堀は13世紀以降に掘られたと考えられる)。 ③西側の堀内には簡易櫓構が検出 ④屋敷地内から鍛冶関連遺物出土 ⑤15世紀後半の木棺墓1基と土壙墓2基、中世後半の木棺墓1基 ⑥15世紀頃の井戸:五輪塔投棄(地輪1・不明)、中世の建物柱穴内:五輪塔軸用(水輪)
37	姫原西遺跡	姫原町	3.5~5.0	---	---	---	・自然河道右岸に、14~15世紀頃の建物跡。約20m自然河道側に古墓及び埋葬関連土坑が集中する	3本	○	①遺跡中央を貫く自然河道、小山遺跡第2地点北の河道どつがる。古墳時代初頭には埋没するが古代には大溝として残り、中世期には湿地帯 ④15世紀後半の木棺墓1基、16世紀前半の木棺墓1基、16世紀後半の木棺墓1基が集中する。その範囲に埋葬関連土坑あり
38	上長浜貝塚	西園町	7.0~9.0	---	---	---	・漁業集落 ・貝塚形成。焼土遺構(小鍛冶に関わる遺構か)。大量の土鍬出土	1本	3基	③塙の羽口、鍛造剝片出土
39	中野西遺跡	中野町	3.5~3.9	---	---	---	・神門水海の縮小に伴い漁業集落として機能しなくなる ・貝塚形成。大量の土鍬出土 ・旧斐伊川の後背低地。遺構はほとんど無く包含層から遺物が多く出土 ・北側の微高地からの流れ込みか、あるいは低湿地であるため遺構が流されてしまいか、			
40	中野美保遺跡	中野町	3.6~4.5	---	---	---	・旧斐伊川の東西に延びる微高地の南縁辺部 ・古代～中世前半は集落。遺跡の西側(V区)に8世紀頃の建物跡がある。遺跡の東側(VIII区)に10～11世紀の建物跡を逆コ字型に配置する ・中世後半～近世は水田耕作地(洪水による1～2回の復旧跡あり)	1本		①遺跡の南側(I～IV区)を東西方向に流れる自然河道は古墳時代中期に埋没し湿地帯となる

遺跡 No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古代 (8~10C.)	中世前半 (11~13C.)	中世後半 (14~16C.)	遺跡の概要					内訳		
							①自然 河道	②屋敷 区画	③鍛冶 窯	④古墓	⑤石塔			
41	中野清水遺跡 (大津町北遺跡を含む)	中野町 大津町	4.5~7.5		■	■	・旧妻伊川の東西に延びる微高地の南縁辺部 ・東寄りの調査地(5~7区)で、8~9世紀をを中心とした集落などが、集落の中心は北側の微高地土上と思われる ・墨書き土器「塙治」「伎」「東」(六)、風字碗・軒用硯、銅製分銅が出土 ・官衙開墾施設か、	1本	○	4基			①遺跡の車側(7区)で南方向に流れる自然河道の西肩を検出。 古墳時代前期には埋没し、古代に安定する ③鍛冶窯・車輪遺物出土 ④遺跡の東側(1区)に9~10世紀頃の土壙塹2基が近くに、区画溝(6区)を挟んで古代の木棺墓と火葬骨塚が築かれる	
42	矢野遺跡	矢野町	2.1~3.5		■	■	・矢野郷閑連遺跡か(方形区画が中心的) ・遺跡北西部(第2地点:6区・9区-A・B区)に遺構が集中する。方形区画1(6区):8~9世紀の敷地、周縁溝幅1.5~2.0m、南北に陸橋あり、東側内に建物跡・井戸が7世紀から築かれ始める。 この場所は微高地の東縁辺部には排水機能をもつ六轟を掘削。この場所は微高地の東縁辺部には排水機能をもつ六轟を掘削。この場所は微高地の東縁辺部には排水機能をもつ六轟を掘削。 部(人里・神社付近から標高約1m低く、方形区画2(9区-A区):方形区画1の南60mに位置する8世紀頃のほぼ30m四方の敷地、周縁溝幅2.0~1.5m、敷地内には建物跡・井戸あり、方形区画3(9区-A区):方形区画2の東隣に位置する半町四方の敷地、周縁溝幅1.5~1.0m、敷地内には柱穴が大型の庇付建物跡があり、方形区画4(9区-A・B区):方形区画3の西隣に位置する7~8世紀の60~70m四方の敷地、周縁溝幅2.0~1.0m(方形区画2と北側の轟を共有)、敷地内には柱穴が大型の庇付建物跡があり、内法6m四方の方形周溝状の区画轟があり、方形区画5(9区-B区):方形区画4の南側に位置する敷地、周縁溝幅2.5~2.0mを1字状に突出、方形区画5の西60mにも建物跡・井戸などの集中する場所あり ・遺跡中央部の東半分(第2地点:9区-A・B区)で、転用硯、墨土器「内家」「八内」「社」「大山」「伊」「大」「三」「酒」「事」、刻書き土器「永」が出土 ・西側の自然河道近く(第2地点:9区-C区)でも規範な建物跡、井戸が造られる	2本						①第6地点は自然河道(古代～中世)。第2・3地点の西側(9区-D区)に自然河道・小山第2地点北の自然河道とつながる(～古代、12世紀には埋没)
43	大塚遺跡	大塚町	3.0~3.5		■	■	・遺跡北東部(6区・9区-B・C区)に屋敷地(屋敷A・B)あり。遺跡中央部北寄り(9区-B・C区)では中世後半の居住域あり ・屋敷B(9区-B・C区)の北側に中世前半の主道東西軸をとる道状遺構あり、西の先には人野神社が鎮座する	○	○	3基			①遺跡西側(9区-D区)の自然河道は湿地帯となる。人・牛の足跡あり ②屋敷A(6区)は古代の方形区画1とほぼ平行して13~14世紀の大轟(30m四方)の屋敷地。堀状の大轟は幅2.0~1.5m、東側へ外轟が横円形に延びる。内外轟間には遺構空開地となつてび種類の轟がある。 コーナーには水溜めがある。屋敷B(9区-B区)は12~13世紀の屋敷地。堀状の轟(幅1.0m弱)をL字状に突出。屋敷Aから南へ130m離れた位置で道状遺構に平行する ④遺跡中央北寄り(9区-B区)の居住域に15世紀頃と中世後半の木棺墓2基がほぼ南北に20m離れて造られた。そこから西へ80mのところ(9区-C区)に15~16世紀の木棺墓が単独(居住域から離れる)で離れた位置で道状遺構に平行する ⑤近世前半の石組井戸・五輪塔転用(火輪1・水輪2・地輪3)	

遺跡No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古代 (8~10C.)	中世前半 (11~13C.)	中世後半 (14~16C.)	遺跡の概要					内訳			
							河道	①自然 ②屋敷 ③鍛冶 ④開 区画	⑤ 古墓 石塔						
44	小山遺跡第1地点						・楕円形の微高地(約300×200m)上の集落 ・調査された遺跡の南縁辺部では、上坊及び柱穴を検出、東南約10mには蕨小路西遺跡の範囲が存在する	○				③鍛冶関連遺物出土			
	小山遺跡第2地点						・細長い微高地(約600×150m)上の集落、調査された遺跡東部は区画溝を伴う近世の屋敷地	1本	1基		①自然河道は、矢野遺跡と姫原西遺跡の河道につながる。古墳時代には埋められ、湿地帯及び水田耕作地として利用				
	小山遺跡第3地点	小山町	3.4~5.2				・遺跡内に三木氏館あり ・丸いハート形の微高地(約400×300~150m)上の古代の区画溝を伴う集落 ・遺跡中央部(4次)には大型柱穴の建物跡や終柱の倉庫・区画溝などが複数検出 ・遺跡中央北寄り(3次)を南北に並する溝は、道の側溝か。側溝が発達されれた跡には、それに直行する2条セグメントの溝が4箇所(2箇所は擾乱により1条しか確認していない)検出 ・北側(3・4次)と南側(1次・2次)から墨書き器「池内」「井口」「人口」、ヘラ型土器「井」が出土 ・中世前半は水脈に沿って掘削された井戸のみ		2基	○	④遺跡中央東側(5次-VI区)で古代の土壙墓1基が単独、遺跡中央(4次)の同時期の井戸跡付近で、15世紀頃の土壙墓1基が単独不規則北東縁辺部(6次)で近世の井戸から五輪塔出土(詳細不明)				
45	吉浜II遺跡	平野町 里方町	2.3~2.5				・調査範囲内に古代の遺構と近世の墓域			1基	④近世の桶棺墓				
46	里方八石原遺跡 (前口遺跡を含む)	里方町	2.7~3.0				・吉浜II遺跡と一連の遺跡でその東北縁辺部に当たる ・8世紀頃の遺物が包含層から多く出土(吉浜II遺跡から流れているもの)								
47	下澤遺跡	矢尾町	0.9~2.2 以上				・客垣谷川の扇状地 ・7~8世紀の客垣谷からの土石流のために作り直した3面の水田跡(傾斜地に作られており棚田状)を検出 ・北側の扇状地上に集落は築かれていったと思われる								
48	里方本郷遺跡 第2地点	矢尾町 日下町	2.2 (近世)				・古代～中世には湿地帯 ・遺跡西側で近世の粘土採掘坑			1本	①遺跡全体が古墳時代まで自然河道。山持遺跡の自然河道とつながる				
49	高岡遺跡 第2地点	高岡町	3.15~3.4				・水田跡 ・北に位置する稻岡遺跡の集落の利用地か								
	高岡II遺跡	高岡町	2.8以下~ 3.3				・湿地								
	山持遺跡 (山持川川岸遺跡 を含む)	西林木町 里方町 日下町	1.5~4.3				・伊努谷川の扇状地(南北方向に弓形に延びる) ・遺跡中部(III区)及び西端(IV区)の調査地では散状遺構など が検出され、烟作を行なっていたと考えられる。西寄りの地区(IV, V, VI区)では水田耕作跡が検出されている。扇状地南西端部(VI区) では道路状遺構を杭・技・礎などを用いて盛土工事を行い敷設 ・扇状地南西端部(VI区)では墨書き器「益」「田」「西家」「屋」「圓」「華」「西」+「大木大」、木簡「神戸領田部口間」「伊努郷若狭部口」、墨書き・文字の入った板金が出土 ・中世～近世にかけて湿地帯または水田耕作地として利用 ・遺跡中央(III区)では、14世紀頃の湿地帯から卒塔婆状木製品 が出土	1本			①調査区中央東寄り(II区)とその100m西の地区(III区)で中世後半、調査区中央西寄り(VI区)で近世には、(ほぼ)南北方向の自然河道が流れれる				
	累計									23	10	18	26	16	遺跡
										35本	基 +α	226	199	自然河道は、うち2本は同じと思われ、2本と2本はつながり、3本はつながるので、数は29本	

第2表 出土土器観察表

Fig	遺物番号	写真図版	調査区枝番	出土地点	層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	調整・備考
9	1	17	2	B5	茶褐色土	須恵器	甕				灰色	外:N5/ 内:N6/	1mmの砂粒を含む	良好 外:平行タタキ 内:同心円当て具痕
9	2	17	2	B6	茶褐色土	中世須恵器	鉢			8.2	灰色	外:7.5Y6/1 内:N6/～N5/	1mm以下の砂粒を含む	良好 外:ナデ 内:放射状に体部は粗いハケメ、底面は細かいハケメ
9	3	17	2	B6	茶褐色土	陶器(瓷器系)	甕				外:灰色 内:灰黄褐色～褐色 灰色	外:7.5Y5/1 内:10YR4/2～10YR4/1	2mmの砂粒を多く含む。 3mmの砂粒を含む(黄灰色 2.5Y6/1)	良好 備前焼の可能性あり
9	4	17	2	B8	青灰色粘質土	須恵器	壺				外:灰色 内:灰白色～灰色	外:N6/ 内:N7/～N6/	密	良好 外:回転糸切り 回転ナデ 内:回転ナデ
19	1	18	2	SD03		土師器	鉢				外:にぶい黄橙色 内:褐色	外:10YR7/3 内:7.5YR4/1	1～2mmの砂粒を含む	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ
19	2	18	2	SD03		土師器	鉢				外:浅黄橙色 内:浅黄橙色～にぶい黄橙色	外:7.5YR8/4 内:7.5YR8/3～10YR6/3	2～4mmの砂粒を含む	良好 外:風化摩滅 内:粗いハケメ
19	3	18	2	SD08		陶器(肥前系)	碗				にぶい黄橙色～淡黄色	10YR6/3～2.5Y8/3	0.5mm以下の砂粒を含む(にぶい黄橙色10YR7/3)	良好 外:白化粧 ハケメ 内:白化粧 ハケメ
20	1	18	2	SK01		青磁(龍泉窯系)	碗				明オリーブ色	2.5GY7/1	0.3mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y7/1)	良好 龍泉窯系青磁碗 II-B類
20	2	18	2	SK02		土師器	壺				浅黄橙色～灰白色	7.5YR8/3～7.5YR8/2	1mm以下の砂粒を含む	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ
20	3	18	2	SK02		青磁(中国青磁)	碗				オリーブ灰色	10Y6/2	1mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y7/1)	良好
20	4	18	2	SK04		陶器(唐津焼)	皿				外:灰褐色 内:灰褐色	外:5YR5/2 内:5YR4/2	1mmの砂粒を含む(灰白色 2.5Y7/1)	良好 外:施釉 回転ナデ 内:回転ナデ
20	5	18	2	SK06		陶器(備前焼)	擂鉢	29.4			外:灰白色 内:灰色	外:7.5Y5/1 内:5Y5/1	0.5mm以下の砂粒を含む(にぶい赤褐色2.5YR4/3)	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ 撥目6条 備前焼IV-A類
20	6	18	2	SK07		磁器(肥前系染付)	皿	13.8	2.7	9.2	白色		0.5mmの砂粒を含む(白色)	良好 外:呉須で絵付 内:呉須で絵付
21	1	19	2	NR01	下層	土師器	皿	7.8	1.9	3.8	にぶい橙色	5YR7/4	0.5mm以下の砂粒を含む	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ
21	2	19	2	NR01	灰白色土	陶器(備前焼)	擂鉢				外:にぶい赤褐色 内:灰褐色	外:5YR5/4 内:7.5YR4/2	1～2mmの砂粒を含む(灰色N6/)	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ 撥目8条以上 備前IV期
21	3	19	2	NR01	灰褐色粘質土	青磁(龍泉窯系)	碗				外:オリーブ灰～明オリーブ灰色 内:明オリーブ灰色	外:2.5GY6/1～2.5GY7/1 内:2.5GY7/1	密(灰白色2.5Y8/1)	良好 外:蓮弁文
21	4	19	2	NR01	上層	青磁(龍泉窯系)	碗			4.8	灰オリーブ色～にぶい黄色	7.5Y6/2～2.5Y6/3	2mmの砂粒を含む(にぶい 橙色5YR7/4)	不良
25	1	20	2	NR02		土師器	皿				灰白色	10YR8/2	2mmの砂粒を含む	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ
25	2	20	2	NR02		土師器	柱状高台部			4.4	にぶい橙色	外:5YR7/4 内:7.5YR7/4	密	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ
25	3	20	2	NR02		陶器	甕				外:オリーブ黒色・白色 内:灰黃褐色	外:5YR3/2 内:10YR5/2	1～3mmの砂粒を含む(褐色 灰色5YR6/1)	良好 外:自然釉 内:指おさえ
29	1	21	2	SX01		土師器	壺	11.4			外:にぶい橙色 内:にぶい黄橙色	外:10YR7/2 内:5YR7/3	1mm以下の砂粒を含む	良好 外:黒斑 内:黒斑
29	2	21	2	SX01		瓦質土器	鉢				外:灰色 内:黄灰色	外:N6/ 内:2.5Y6/1	1mmの砂粒を含む	良好 外:ナデ 内:粗いハケメ
31	1	21	1	B1	黄灰色土上面	須恵器	甕				外:灰白色 内:灰白色	外:N7/ 内:2.5Y7/1	0.5mm以下の砂粒を多く含む	良好 外:格子状叩き 内:同心円状當て具痕
31	2	21	1	C1	黄褐色土	土師器	皿	11.4	2.5	7.6	浅黄橙色	10YR8/3	1mm以下の砂粒を含む	良好 外:回転ナデ 回転糸切り 内:回転ナデ
31	3	21	1	C1	灰色粘質土	土師器	擂鉢				外:にぶい褐色 内:にぶい橙色	外:7.5YR6/3 内:5YR6/4	2mmの砂粒を含む。9mmの 礫を含む	良好 外:黒斑 内:全面研磨 黒斑
31	4	21	1	C1	青灰色粘質土	陶器(瓷器系)	甕				外:褐色 内:褐色	外:5YR5/1 内:10YR6/1	1～3mmの砂粒を含む(灰色 5Y6/1)	良好 外:ヨコナデ 内:ヨコナデ
31	5	21	1	B1	灰白色土	陶器(備前焼)	擂鉢				灰褐色	7.5YR4/2	1～4mmの砂粒を多く含む (にぶい赤褐色2.5YR5/4)	良好 内:擂目8条以上
31	6	21	1	B1	灰白色土	陶器(備前焼)	擂鉢				外:橙色 内:明赤褐色	外:2.5YR6/6 内:2.5YR5/6	1～3mmの砂粒を含む(赤 灰色2.5Y5/1)	良好 外:ナデ 内:ナデ 備前IV期(IVB-1類)
31	7	21	1	A1	灰色土	白磁	碗				灰白色	2.5GY8/1	密(灰白色N8/)	良好 内外面とも施釉
31	8	21	1	B2	灰色土	青磁	碗				灰色	7.5Y6/1	0.5～2mmの砂粒を含む (黄灰色2.5Y6/1)	良好 内外面とも施釉
31	9	21	1	A1	造成土	陶器(李朝か)	碗				灰白色	5YR7/2	1～2mmの砂粒を含む(灰 白色10Y8/1)	良好 内外面とも施釉
32	1	22	1	C2	造成土	陶器(肥前系)	碗	10.4			黒褐色・黄褐色	10YR2/3・2.5Y5/6	2mm位の砂粒を含む(灰白 色2.5Y8/1)	良好 外:流し掛け 内:流し掛け
32	2	22	1	B2	青灰色粘質土	陶器(肥前系)	皿			4.4	外:にぶい褐色 内:灰オリーブ色	外:7.5YR6/3 内:5Y5/3	1mmの砂粒を多く含む。3 ～4mmの砂粒を含む(灰白 色2.5Y7/1)	良好 外:施釉 回転ナデ 内:施釉 回転ナデ

Fig	遺物番号	写真図版	調査区枝番	出土地点	層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	調整・備考	
32	3	22	1	C1 調査区東側溝	灰色粘質土	陶器(肥前系)	壺か甕				外:赤灰色 内:にぶい橙色	外:2.5YR6/3 内:2.5YR5/1	1~2mmの砂粒を含む(にぶい赤褐色2.5YR5/3)	良好	外:鉄釉 内:当て具痕
32	4	22	1		造成土	陶器(肥前系)	甕	18.0			外:褐色 内:黒褐色	外:7.5YR4/4 内:7.5YR3/1	1mm位の砂粒を含む(にぶい黄橙色10YR7/3)	良好	外:鉄釉 カキ目 内:鉄釉 回転ナデ
32	5	22	1	B2	造成土	陶器(肥前系)	擂鉢			14.6	外:黒褐色 内:灰黃褐色	外:10YR5/2 内:7.5YR3/2	2~3mmの砂粒を多く含む(にぶい橙色7.5YR7/4)	良好	外:鉄釉 内:鉄釉 擂目
32	6	22	1	B2 調査区南側溝		磁器(肥前染付)	合子	6.4	1.8		白色			密(白色)	良好 外:蓮華唐草文
32	7	22	1	C2	造成土	磁器(肥前染付)	小丸碗	7.6	5.2	3.4	白色			密(白色)	良好 外:呉須で絵付 内:呉須で絵付
32	8	22	1	B2 調査区南側溝		磁器(肥前染付)	方形皿		4.7		白色			密(白色)	良好 外:呉須で絵付 内:呉須で絵付(微塵唐草文)
32	9	22	1	C2	造成土	磁器(肥前系染付)	八角鉢	18.4	6.3	8.6	白色			1mm以下の砂粒を含む(白色N9/)	良好 外:呉須で絵付 内:呉須で絵付 在地産の可能性あり
32	10	22	1	B1	灰白色土	陶器(陶胎染付)	碗			7.0	灰オリーブ色	7.5Y6/2	1mmの砂粒を少し含む(灰白色2.5Y7/1)	良好 外:園線	
32	11	22	1	B2	灰色土	陶器(須佐焼か)	擂鉢				外:にぶい赤褐色 内:にぶい赤褐色	外:5YR4/3 内:5YR5/3	1mm位の白色砂粒を少し含む(灰白色10Y8/2)	良好 外:鉄釉 内:鉄釉 擂目	
32	12	22	1		造成土	陶器(萩焼系)	碗			3.2	明黃褐色	2.5Y6/6	0.5mm以下の砂粒を含む(浅黄橙色10YR8/3)	軟質 外:施釉 内:施釉	
33	1	22	1	C1	造成土	陶器(布志名焼)	碗	10.4		4.8	明緑灰色	10GY7/1	0.5mm以下の砂粒を少し含む(灰白色2.5Y7/1)	良好 外:施釉 下半ケズリ 内:施釉 ぼてぼて茶碗	
33	2	22	1	A3	耕作土	磁器(在地産)	碗			4.0	白色			0.5mm位の砂粒を含む(白色)	良好 内:呉須で園線 外:呉須で絵付 久村焼か
33	3	22	1	C1	造成土	陶器(在地産)	小壺			3.0	暗褐色	10YR3/3	1mm位の砂粒を含む(浅黄橙色10YR8/3)	良好 外:鉄釉 内:鉄釉 茶入れか	
33	4	23	1	C2	造成土・灰色土	陶器(備前焼)	徳利			5.0	外:暗赤色 内:暗赤褐色	外:10R3/2 内:10R3/4	0.5mm以下の砂粒を含む(にぶい橙色2.5YR6/4)	良好 外:鉄釉 極描沈線文 内:鉄釉 備前ペこん模倣	
33	5	22	1	C2	造成土	陶器(石見焼)	擂鉢	36.0			外:暗褐色 内:にぶい橙色	外:7.5YR3/2 内:2.5Y7/1	1mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y8/2)	良好 外:来待釉 内:櫛目 口縁部はナデ	
33	6	23	1	C2	造成土	陶器(石見焼)	瓶			8.4	オリーブ灰色	5YR7/2	密(灰黄色2.5Y7/2)	良好 外:透明釉(並釉) 回転ナデ 底部に墨書 内:透明釉(並釉) 回転ナデ	
33	7	23	1	B2	造成土	陶器(石見焼)	壺			7.8	黒色	10YR1.7/1	0.5mm以下の砂粒を含む(浅黄橙色10YR8/3)	良好 外:来待釉 底部に墨書 内:来待釉	
33	8	23	1	C2	造成土	陶器(石見焼)	甕			8.6	外:橙色 内:浅黄橙色	外:10YR7/4 内:5YR7/6	0.5mm以下の砂粒を含む(浅黄橙色10YR8/3)	良好 外:回転ナデ 施釉 底部に墨書 内:回転ナデ	
33	9	22	1		造成土	土師器	焰烙	34.4			外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄橙色	外:10YR5/3 内:10YR7/4	1~2mmの砂粒を含む	良好 外面に煤付着	
35	1	23	2	A6 調査区西側溝		縄文土器	浅鉢	19.6			外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄橙色～灰黃褐色	外:10YR7/2 内:10YR7/2～10YR6/2	1~2mmの砂粒を含む	良好 外:2条の沈線 ナデ 内:ナデ	
35	2	23	2	B8 調査区南側溝		土師器	坏				浅黄橙色	7.5YR8/6	密	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ	
35	3	23	2	B3	黄灰褐色土	土師器	坏			5.0	にぶい黄橙色	10YR7/3	密	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ	
35	4	27	2	B7		土師器	高台付坏			8.5	黄灰色	外:2.5Y6/2 内:2.5Y7/2	1mm以下の砂粒を少し含む	良好 外:回転糸切り 内:回転ナデ 高台にゆがみ	
35	5	23	2	B7	黄灰褐色土	土師器	鉢	22.0			外:にぶい黄橙色 内:浅黄橙色	外:10YR7/3 内:10YR8/3	0.5~2mmの砂粒を含む	良好 外:粗いハケメ 内:粗いハケメ	
35	6	23	2	A3～B3		土師器	鉢	29.6			灰白色	2.5Y8/2	2mmの砂粒を含む	良好 外:粗いハケメ 内:粗いハケメ 3条以上の擂目	
35	7	23	2	B5	黄灰褐色土	土師器	鉢				外:灰白色 内:にぶい橙色	外:10YR8/1 内:10YR7/2	1~2mmの砂粒を含む	良好 外:ナデ 内:4条以上の擂目	
35	8	23	2	B8	黄灰褐色土	土師器	鍋	24.6			外:黄灰色 内:灰黄色	外:2.5Y4/1 内:2.5YR7/2	2~4mmの砂粒を含む	良好 外:黒斑 内:ナデ	
35	9	23	2	B7	黄灰褐色土	瓦質土器	鉢				灰色～灰白色	N4/～10YR7/1	1mmの砂粒を含む	良好 外:ナデ 内:ナデ	
35	10	23	2	B6		陶器(瓷器系)	甕				黄灰色	2.5Y4/1	1mm以下の白色砂粒を多く含む。2.5mm以下の砂粒を少し含む(赤灰色2.5YR5/1)	良好 外:回転ナデ 内:回転ナデ 備前焼か	
35	11	23	2	A3	黄灰褐色土	中世須恵器	壺				灰白色	2.5Y7/1	1mmの砂粒を含む	良好 外:ナデ 内:ナデ	
35	12	24	2	A7 調査区西側溝		陶器(備前焼)	甕				外:灰褐色 内:灰色	外:5YR5/2 内:7.5Y5/1	6mmの砂粒を含む(にぶい橙色2.5YR6/4)	良好 外:ナデ 内:ナデ 指おさえ	

Fig	遺物番号	写真図版	調査区枝番	出土地点	層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	調整・備考	
35	13	24	2	A3	耕作土	陶器(備前焼)	甕				外:赤灰色 内:灰赤色	外:2.5YR6/1 内:2.5YR5/2	1~5mmの砂粒を含む(にぶい赤褐色2.5YR4/3)	良好	外:ナデ 内:ナデ
35	14	24	2	A6	黄灰褐色土	陶器(備前焼)	甕				外:褐色 内:にぶい赤褐色	外:10YR4/1 内:2.5YR5/3	1~2mmの砂粒を多く含む。8mmの白色礫を含む(にぶい赤褐色2.5YR5/4)	良好	外:ナデ 内:ナデ
35	15	24	2	A3	耕作土	陶器(備前焼)	擂鉢				外:灰褐色 内:灰白色	外:5YR5/2 内:N5/	1~2mmの砂粒を含む(灰色N6/)	良好	外:回転ナデ 内:擂目7条以上 使用痕
35	16	24	2	A6	耕作土	陶器(備前焼)	擂鉢				外:灰褐色 内:暗褐色	外:5YR4/2 内:7.5YR3/3	1~4mmの砂粒を含む(にぶい橙色2.5YR6/4)	良好	外:ナデ 内:擂目5条以上 使用痕
35	17	24	2	A7	灰白色土	陶器(備前焼)	擂鉢				灰色	外:5Y4/1 内:7.5Y4/1	0.5~2mmの砂粒を含む(にぶい橙色2.5YR4/3)	良好	外:ナデ 内:擂目6条以上 使用痕
35	18	24	2	A7	黄灰褐色土	陶器(古瀬戸焼)	碗皿類		4.2		外:浅黄橙色 内:灰白色	外:7.5YR8/4 内:5Y8/2	0.5mm以下の砂粒を含む(浅黄橙色10YR8/3)	良好	外:底部回転糸切り 内:施釉
35	19	24	2	B8	黄灰褐色土	陶器(古瀬戸焼)	鉢皿				灰黄色	2.5Y7/2	1mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y7/1)	良好	外:施釉 内:施釉
35	20	24	2	B6	黄灰褐色土	陶器(瀬戸美濃)	天目碗		4.0		外:灰白色 内:黒色	外:2.5Y7/1 内:10Y2/1	0.5~2mmの砂粒を含む(灰白色2.5Y7/1)	良好	
36	1	25	2	B3	黄灰褐色土	青磁(中国青磁)	碗				灰白色	7.5YR7/2	0.5mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y8/2)	良好	外:施釉 内:施釉
36	2	25	2	A4	黄灰褐色土	青磁	碗		4.6		明オリーブ灰色	2.5GY7/1	1~2mmの砂粒を含む(明黄褐色10YR6/6)	良好	外:施釉 内:施釉 火を受けている
36	3	25	2	B4		白磁	皿	12.8			灰白色	5Y7/1	密(灰白色5Y8/1)	良好	火を受けている
36	4	25	2	A7	黄灰褐色土	白磁	皿				白色(釉薬) 灰白色(釉なし)	10YR8/1(釉なし)	0.5mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y8/1)	良好	外:施釉 内:見込みを釉はぎ
36	5	25	2	B5	黄灰褐色土	白磁	合子	6.6			白色		0.5mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y8/1)	良好	外:施釉 内:施釉
36	6	25	2	B6 調査区東側溝		青花	碗				白色		密(白色)	良好	外:吳須で絵付け 内:口唇部に園線
36	7	25	2		黄灰褐色土	青花	皿				白色		1mm以下の砂粒を含む(白色)	良好	外:吳須で絵付け 内:二重園線 青花皿B1群
36	8	25	2	B3	灰色土	青花	皿				灰白色	7.5Y7/2	0.5mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y8/2)	良好	外:吳須で絵付け 内:吳須で園線 青花皿C群
36	9	25	2	B4	黄灰褐色土	青花	瓶か				外:明緑色 内:灰白色	外:7.5GY7/1 内:2.5Y8/1	0.5mmの砂粒を含む(灰白色2.5Y8/1)	良好	外:施釉 吳須で絵付け 内:無釉
36	10	25	2	B4	黄灰褐色土	青花	碗				灰白色~明緑色	10Y7/2~10GY7/1	1mmの砂粒を含む(灰白色2.5Y7/1)	良好	火を受けている
36	11	25	2	B8	黄灰褐色土	青花	皿		7.1		白色		密(白色)	良好	外:吳須で園線 内:吳須で園線 青花皿E群
36	12	25	2	A5	黄灰褐色土	陶器(李朝)	皿		4.0		にぶい黄橙色	10YR7/2	1~2mmの砂粒を含む(灰黄色2.5Y7/2)	良好	外:施釉 内:施釉 目跡1箇所
36	13	25	2	A3	黄灰褐色土	朝鮮陶器(灰青沙器)	皿		7.0		黄灰色	2.5Y6/1	1mm位の砂粒を含む(黄灰色2.5Y6/1)	良好	No27と同一固体の可能性あり
36	14	25	2	B4	黄灰褐色土	陶器(中国褐釉陶器)	不明				灰赤色(釉薬) 赤灰色(釉なし)	2.5YR4/2(釉薬) 10R5/1(釉なし)	1mmの砂粒を含む(赤灰色2.5YR5/1)	良好	外:施釉 内:施釉
36	15	25	2	A5	耕作土	陶器	碗		3.6		明黄褐色~暗褐色 (釉なし) 灰白色(釉なし)	10YR7/6~ 10YR3/4(釉薬) 10YR8/2(釉なし)	0.5mm以下の砂粒を含む(灰白色2.5Y8/1)	良好	外:施釉 高台は無釉 内:施釉
37	1	27	2	A5	黄灰褐色土	陶器(肥前系)	碗	10.6	7.2	4.8	灰白色(釉薬) にぶい橙色(釉なし)	2.5Y8/2(釉薬) 5YR7/4(釉なし)	5~6mmの砂粒を含む(にぶい橙色7.5YR7/4)	良好	外:施釉 高台疊付は無釉 内:施釉
37	2	25	2	A5	灰色土	陶器(肥前系)	碗			4.8	灰黃褐色	10YR4/2	密(赤灰色7.5YR5/1)	良好	外:白化粧
37	3	25	2	B3	青灰色粘質土	陶器(肥前系)	鉢か皿		5.2		外:オリーブ色(釉薬) にぶい黄橙色(釉なし) 内:灰オリーブ色~オリーブ黒色(釉薬)	外:5Y5/4(釉薬) 10YR6/3(釉なし) 内:5Y5/3~5Y2/2(釉薬)	0.5mm以下の砂粒を含む(灰白色5Y7/1)	良好	外:灰釉 底部糸切り 内:灰釉
37	4	25	2	A5 調査区西側溝		陶器(肥前系)	片口鉢	18.0			灰白色	5Y7/1	0.5mm以下の砂粒を含む(灰赤色2.5YR5/2)	良好	外:白化粧 ハケメ波状文 内:白化粧
37	5	25	2		灰色土	陶器(肥前系)	鉢	34.0			灰褐色(釉薬) 褐色(釉なし)	7.5Y6/2(釉薬) 7.5YR4/3(釉なし)	1mmの砂粒を含む(淡赤色2.5YR7/4)	良好	外:白化粧 内:白化粧 ハケメ波状文 37-6と同一固体か
37	6	25	2	A5	黄灰褐色土	陶器(肥前系)	鉢		10.6		外:橙色 内:灰褐色	外:2.5YR6/6 内:7.5YR6/2	1mmの砂粒を含む(にぶい橙色2.5YR6/4)	良好	内:白化粧 ハケメ波状文 37-5と同一固体か
37	7	26	2	B3	耕作土	陶器(肥前系)	甕	30.3			灰褐色(釉薬) にぶい赤褐色(釉なし)	5YR4/2(釉薬) 2.5YR5/3(釉なし)	1~2mmの砂粒を含む(にぶい赤褐色2.5YR4/3)	良好	外:格子目文タタキ ヨコナデ 貼花文 内:格子目当て具痕

Fig	遺物番号	写真図版	調査区枝番	出土地点	層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	調整・備考
37	8	26	2	B3	耕作土	陶器(肥前系)	甕			19.0	黒褐色	7.5YR3/2	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底部に放射状文の当て具痕
38	1	26	2	A3	黄灰褐色土	磁器(肥前系)	碗	11.8			白色		良好	外:線・赤色絵 柿右衛門様式
38	2	27	2	B3	耕作土	磁器(肥前系)	碗	11.0		4.0	灰白色	10Y8/1	良好	外:施釉 呉須で絵付け 内:施釉 呉須で絵付け
38	3	27	2	B3 調査区北側溝		磁器(肥前系)	碗	10.4	5.8	4.2	灰白色	N8/	良好	外:施釉 呉須で絵付け 内:施釉 呉須で絵付け
38	4	26	2	B3	耕作土	磁器(肥前系)	变形皿				灰白色	2.5Y8/1	良好	外:施釉 内:施釉
38	5	27	2	A5	黄灰褐色土	磁器(波佐見焼)	皿	11.8	3.4	4.2	灰白色(釉薬) にぶい橙色～灰白色(釉なし)	10YR8/1(釉薬) 5YR7/4～2.5Y7/2(釉なし)	良好	外:施釉 高台は無釉 内:施釉 見込みは蛇の目釉 はぎ
38	6	27	2	B3 調査区北側溝		磁器(肥前系)	皿	15.0	3.7	10.0	灰白色～白色	N8/	良好	外:施釉 呉須で絵付け 内:施釉 呉須で絵付け
38	7	26	2	B4	黄灰褐色土	陶器(瀬戸美濃)	丸形碗			5.8	灰白色(釉薬) 灰白色(釉なし)	2.5GY8/1(釉薬) 10YR8/2(釉なし)	良好	外:施釉 高台無釉 内:施釉
38	8	26	2	B5	茶褐色土	陶器(萩焼)	碗				灰白色(釉薬) にぶい黄色(釉なし)	7.5Y7/2(釉薬) 2.5Y6/3(釉なし)	良好	外:施釉 高台付近無釉 内:施釉
38	9	26	2	A6	耕作土	陶器(萩焼系)	捏鉢			10.6	灰白色(釉薬) 浅黃橙色(釉なし)	10YR8/2(釉薬) 10YR8/4(釉なし)	良好	外:施釉 高台付近無釉 内:施釉 重ね焼きの跡
38	10	26	2	A5	耕作土	陶器(須佐焼)	擂鉢	27.0			外:灰褐色 内:灰赤色	外:5YR4/2 内:2.5YR4/2	良好	外:鉄釉 内:鉄釉 擂目I-A類 第1期
38	11	26	2	A4	黄灰褐色土	陶器(須佐焼)	擂鉢	30.0			にぶい赤褐色	2.5YR4/3	良好	外:鉄釉 内:鉄釉 擂目I-D類 第3期
38	12	26	2	A5	黄灰褐色土	陶器(明石焼系)	擂鉢			10.0	赤色	10R5/6	良好	外:底部糸切り 内:放射状に擂目9～10条1単位
38	13	26	2	B3	耕作土	陶器(備前焼)	香炉				にぶい赤褐色 にぶい黄色(自然釉)	5YR4/4 2.5Y6/3(自然釉)	良好	幕末から明治
38	14	28	2	B3	耕作土・青灰色土	磁器	碗	8.4	4.8	3.6	白色		良好	外:吳須で絵付け 底面に「幽□□製」
38	15	26	2	B3	耕作土	陶器(布志名焼)	鉢				外:灰白色 内:オリーブ灰色	外:7.5Y8/1 内:5Y6/3	良好	外:緑釉 口縁部に白色釉を流し掛け 内:施釉
38	16	26	2	B3	耕作土	陶器(在地産)	鉢				外:オリーブ黄色 内:灰白色	外:5Y6/2 内:5Y7/2	良好	外:灰釉 ヘラ掘り 内:灰釉 濱戸水甕の模倣品
38	17	26	2	B3	耕作土	陶器(在地産)	小壺				外:黒色(釉薬)にぶい橙色(釉なし) 内:暗褐色(釉薬)	外:7.5YR2/1(釉薬) 7.5YR6/4(釉なし) 内:7.5YR4/3(釉薬)	良好	外:施釉 内:施釉 茶入れか
38	18	26	2		灰白色土	土師器	焰焰	23.6			外:黒褐色 内:にぶい橙色	外:7.5YR3/1 内:7.5YR6/4	良好	外:ナデ 内:ナデ
38	19	26	2	B3	耕作土	土師器	五徳		6.7		にぶい橙色	7.5YR5/4	良好	外:「イ十七」の刻書
39	9	28	2	B4	黄灰褐色土	製鉄関連	羽口				青黒色(先端) にぶい黄橙色(内面)	5BG2/1(先端) 10YR7/2(内面)	2mmの砂粒を含む	先端はガラス質化
No.1	18	2	SD01			陶器	不明				灰褐色	7.5YR5/2	良好	1～2mmの砂粒を含む(にぶい黄橙色10YR7/3)
No.2	18	2	SD07			青磁(中国青磁)	輪花碗				オリーブ灰色	10Y6/2	良好	密(灰白色2.5Y8/1)
No.3	18	2	SK02			青磁					灰白色	7.5Y7/2	良好	1mm位の砂粒を含む(灰白色2.5Y7/1)
No.4	18	2	SK02			磁器(高麗青磁)	碗				灰色	10YR6/1	良好	内:象嵌
No.5	19	2	NR01			陶器	甕				外:にぶい黄橙色 内:黄灰色	外:10YR6/3 内:2.5Y6/2	良好	外:スス付着 产地不明
No.6	20	2	NR02			白磁	皿				白色		良好	白磁皿E群
No.7	20	2	NR02			白磁	碗				灰白色	2.5Y8/1	良好	外:施釉 内:施釉
No.8	20	2	NR02			陶器(備前焼)	甕				外:灰赤色 内:灰褐色	外:2.5YR5/2 内:7.5YR5/2	良好	外:ナデ 内:ナデ
No.9	19	2	NR02			陶器(備前焼)	甕				外:灰褐色 内:灰褐色	外:7.5YR5/2 内:7.5YR6/2	良好	外:ナデ 内:ナデ
No.10	21	1	B1	灰白色		陶器(備前焼)	甕				褐灰色	7.5YR5/1	良好	外:ナデ 内:ナデ
No.11	21	1	C1	造成土		青磁	碗				灰白色	10Y7/2	良好	内外面とも施釉

Fig	遺物番号	写真図版	調査区 枝番	出土地点	層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	焼成	調整・備考	
	No.12	21	1	A1	灰白色	白磁 (中国白磁)					灰白色	5Y7/2	密(灰白色2.5Y8/1)	良好	
	No.13	24	2	A3	黄灰褐色土	土師器	鉢				灰白色	10YR8/2	2mmの砂粒を含む	良好	外:ハケメ 内:ハケメ
	No.14	24	2	A5	耕作土	陶器 (備前焼)	甕				外:にぶい褐色 内:褐色	外:7.5YR5/3 内:7.5YR4/3	1~3mmの砂粒を含む(に ぶい橙色2.5YR6/3)	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ
	No.15	24	2	A4	黄灰褐色土	陶器 (備前焼)	甕				外:灰赤色 内:黄灰色	外:10R4/2 内:2.5Y4/1	1mmの砂粒を含む(黄灰色 2.5Y6/1)	良好	外:ナデ 内:ナデ
	No.16	24	2	A5	黄灰褐色土	陶器 (備前焼か)	甕				灰色	N5/	2~3mmの砂粒を含む(黄 灰色2.5Y6/1)	良好	外:ナデ 内:ナデ
	No.17	24	2			陶器 (備前焼)	甕				外:灰色 内:にぶい赤褐色~ 灰色	外:N5/ 内:5YR5/3~N5/	2mmの砂粒を含む(灰白色 2.5Y7/1)	良好	外:ナデ 内:ナデ
	No.18	24	2	A6	黄灰褐色土	陶器 (中世陶器)	甕				褐灰色	10YR5/1	1mm以下の砂粒を含む(に ぶい黄橙色10YR7/3)	良好	外:ナデ 内:ナデ
	No.19	24	2	A6	耕作土	陶器 (中世陶器)	甕				外:褐灰色 内:灰褐色	外:7.5YR5/2 内:7.5YR4/2	1~2mmの砂粒を多く含む (にぶい黄橙色10YR7/4)	良好	外:ナデ 内:ナデ
	No.20	24	2	B7	耕作土	陶器 (瀬戸美濃)	碗				暗褐色~黒色	10YR3/4~ 10YR2/1	密(灰白色2.5Y8/1)	良好	天目か
	No.21	24	2	A3	耕作土	陶器 (瓷器系)	甕				外:暗オリーブ色 内:オリーブ黒色	外:5Y4/3 内:5Y3/2	1~3mmの砂粒を含む(灰 白色2.5Y7/1)	良好	外:自然釉
	No.22	25	2	A3	黄灰褐色土	青磁	碗				灰白色	7.5YR7/2	密(灰白色2.5Y8/2)	良好	外:施釉 内:施釉
	No.23	25	2	B5	黄灰褐色土	青磁 (中国青磁)	碗				オリーブ灰色	2.5GY6/1	密(灰白色2.5Y7/1)	良好	外:施釉 内:施釉
	No.24	25	2	B5	黄灰褐色土	青磁 (龍泉窯系)	碗				オリーブ灰色	10Y6/2	1mmの砂粒を含む(灰白色 2.5Y7/1)	良好	外:施釉 内:施釉
	No.25	25	2	B3	黄灰褐色土	青磁	碗				オリーブ灰色	10Y6/2	密(灰白色2.5Y8/1)	良好	外:施釉 内:施釉
	No.26	21	2	A5	耕作土	青磁 (中国青磁)	碗				明オリーブ灰色	2.5GY7/1	0.5mm以下の砂粒を含む (灰白色2.5Y7/1)	良好	
	No.27	25	2	調査区 北側溝		朝鮮陶器 (灰青沙器)	碗				黄灰色	2.5Y6/1	0.5mm以下の砂粒を含む (黄灰色2.5Y6/1)	良好	36-13と同一固体の可能性あり
	No.28	25	2	B4		朝鮮陶器 (灰青沙器)	皿				灰オリーブ色	7.5Y6/2	1mm位の砂粒を含む(黄灰 色2.5Y6/1)	良好	

第3表 出土木製品観察表

Fig	遺物番号	写真図版	調査区 枝番	出土地点	層位	分類	器種	長さ・口径(cm)	幅・器高(cm)	厚さ・底径(cm)	その他の寸法(cm)	木取り	樹種	備考
18	1	17	2	ピット33		建築部材	柱	85.5	16.5			芯持材		えつり孔1箇所
22	1	19	2	NR01 (A6)		容器	漆器椀	15.2	9.5	8.0		トチノキ		外:黒漆塗り 赤漆で絵付け 内:黒漆塗り
22	2	19	2	NR01	下層	調理加工具	杓子	41.8	6.5	0.8		柾目	スキ	完形品 先端の裏面・側面と持ち手の一部が黒く焦げている
22	3	19	2	NR01	下層	その他	加工材	15.8	4.8	2.2		板目	マツ属複維管 東亜属	端材
26	1	20	2	NR02		—	—	17.9	3.3	0.4		柾目	スキ	板材
26	2	20	2	NR02	青灰色粘質土	土木材	杭	25.9	2.9	2.1		芯持材	ガマズミ属	
26	3	20	2	NR02	青灰色粘質土	土木材	杭	30.2	4.7~5.3	4.8~6.3		芯持材	カツラ	
26	4	20	2	NR02	青灰色粘質土	土木材	杭	52.3	8.5	8.8		芯持材	マツ属複維管 東亜属	
40	1	28	2	A6	黄灰褐色土	容器	漆器椀						クスノキ科	外:黒漆塗り 内:赤漆塗り
40	2	28	2	B3	青灰色粘質土	容器	漆器椀						ブナ属	外:黒漆塗り 内:赤漆塗り
40	3	28	2	A6	黄灰褐色土	容器	漆器椀	12.0					ブナ属	外:黒漆塗り 内:赤漆塗り

第4表 出土錢貨観察表

Fig	遺物番号	写真図版	調査区枝番	出土地点	層位	名 称	初 鑄 年	錢径(A) (mm)	錢径(B) (mm)	内径(A) (mm)	内径(B) (mm)	錢厚 (mm)	量目 (g)
30	1	21	2	SX02	棺内	寛永通寶	1697	23.58	23.59	18.93	18.74	1.16	2.91
30	2	21	2	SX02	棺内	寛永通寶	1697	24.11	23.98	18.74	19.21	1.13	2.12
30	3	21	2	SX02	棺外	不明		24.23	-	19.40	-	0.88	2.03
41	1	28	2	B7		紹聖元寶	1094	23.06	22.20	18.88	19.19	1.30	2.05
41	2	28	2	A7		寛永通寶	1697	23.34	23.55	18.74	18.68	1.33	3.07
41	3	28	2	A7		寛永通寶	1636	-	25.42	-	-	1.16	2.32
41	4	28	2	A7		□永□寶	1636	-	-	-	-	1.20	0.97

第5表 石・金属製品観察表

Fig	遺物番号	写真図版	調査区枝番	出土地点	層位	器 種	径・長さ (cm)	器高・幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備 考
25	4	20	2	NR02		五輪塔水輪	30.3	18.5	29.2	1175	凝灰岩	
39	1	28	2	B7		石鍋	21.4		1.2	198	滑石	断面三角形の鍔 外:鍔から下は縦方向の細かい削り。煤付着 内:横方向に研磨 木戸分類III-d類
39	2	28	2	B7		石硯	(4.1)	(3.7)	1.2	39	赤色頁岩	
39	3	28	2	B3	耕作土	石硯	(3.5)	(1.5)	0.9	6	赤色頁岩	
39	4	28	2	A5	黄灰褐色土	砥石	11.0	5.6	3.9	366	流紋岩	
39	5	28	2	A3	耕作土	砥石	(4.0)	(2.8)	(3.7)	46	流紋岩	
39	6	28	2	A3	耕作土	砥石	(7.9)	(5.7)	(2.5)	126	玄武岩	
39	7	28	2			磨石	(10.8)	(4.1)	4.0	276	玄武岩	
39	8	28	2	B4	耕作土	火打石	2.9	2.7	1.5	9	メノウ系石	
34	1	23	1	C2		煙管	(2.3)	0.8	0.1			雁首
34	2	23	1	A1		煙管	(4.7)	1.1	0.1			吸い口

第6表 2区出土石製品観察表

Fig	番号	写真図版	調査区	出土地点	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備 考
15	16	25	1	ピット78		茶臼か(上臼)	(径) (35.2)			113.0	安山岩質凝灰岩	
15	17	25	1	ピット160		砥石	(10.6)	5.8	4.6	349.0	流紋岩	全面使用 刃先痕
15	18	25	1	ピット119		砥石	(6.7)	6.2	6.5	260.0	流紋岩	1面使用 刃先痕
21	1	29	2	SD02		礫臼(上臼)	30.0		10.6	750.0	デイサイト	
21	2	29	2	SD02		礫臼(上臼)	36.0		10.7	1,350	デイサイト	
24	4	30	1	SX01		置石	31.8	25.6	14.5	1,395	凝灰岩	焼痕
36	3	31	1	SE01		砥石	(5.6)	6.3	3.6	119.0	流紋岩	2面使用 刃先痕
36	4	31	2	SE01		砥石	(12.8)	6.2	5.0	536.0	流紋岩	3面使用
42	7	36	1	B2	包含層	砥石	(5.4)	5.4	3.7	150.0	流紋岩(流紋岩質凝灰岩)	2面使用 刃先痕
42	8	36	1	B3	包含層	砥石	(8.2)	6.4	(2.7)	189.0	流紋岩(流紋岩質凝灰岩)	2面使用 刃先痕
42	9	36	2	B6	包含層	砥石	6.7	5.3	2.7	74.0	流紋岩(流紋岩質凝灰岩)	4面使用 刃先痕
42	10	36	2	B6	包含層	砥石	7.4	4.6	2.1	155.0	砂岩	4面使用 刃先痕
42	11	36	1	B3	包含層	砥石	(2.5)	(2.6)	1.6	15.0	砂岩	2面使用 刃先痕

★『高浜 I 遺跡(2区)』の「第4表 高浜 I 遺跡出土石製品観察表」に石材を追加した表

写真図版



1. 3-1 区表土掘削後（南東から）



2. 3-1 区調査終了後（南東から）

図版 2



1. 3-2 区表土掘削状況（北から）



2. 3-2 区調査終了後（南から）

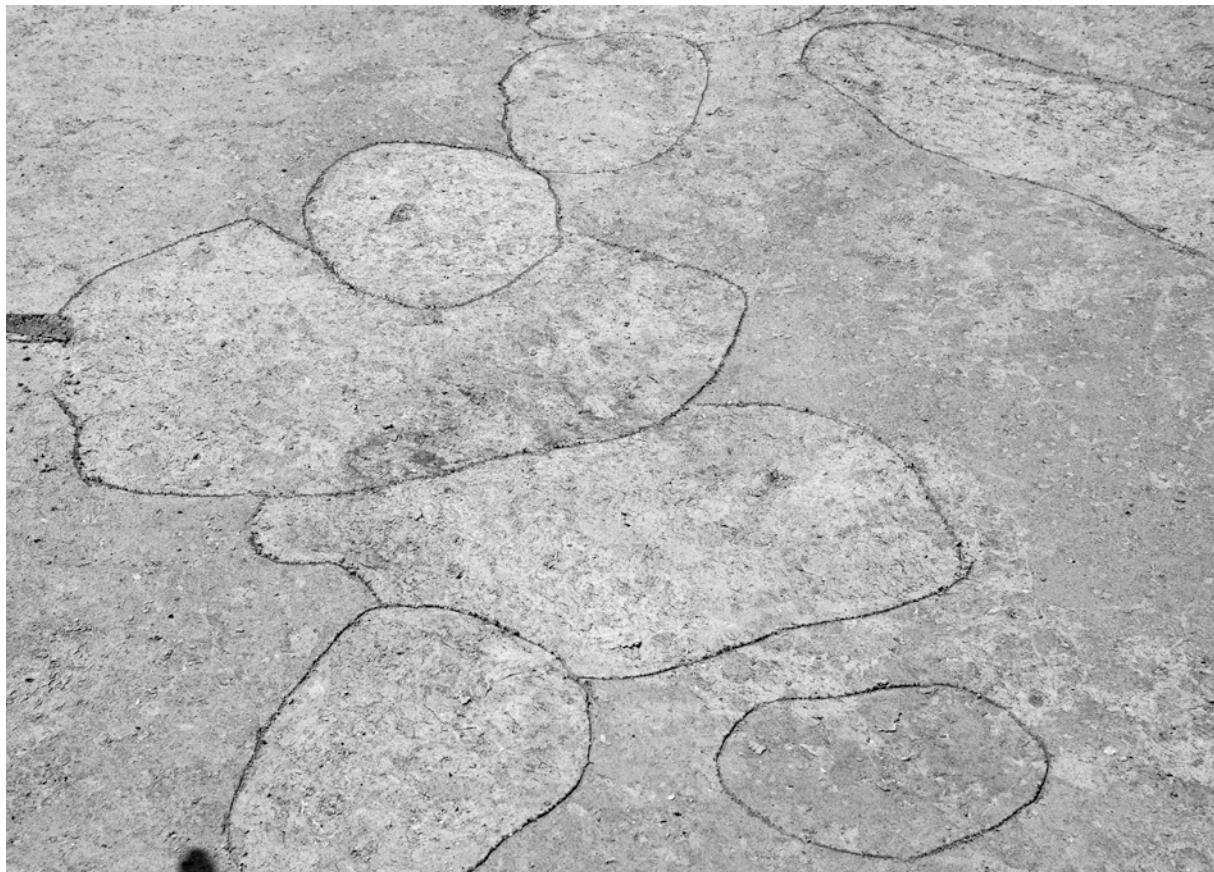


1. 3-1 区北壁土層堆積状況（西から）



2. 3-2 区東壁土層堆積状況（南から）

図版 4



1. 3-2 区ピット検出状況（東から）



2. 3-2 区ピット半裁状況（南から）

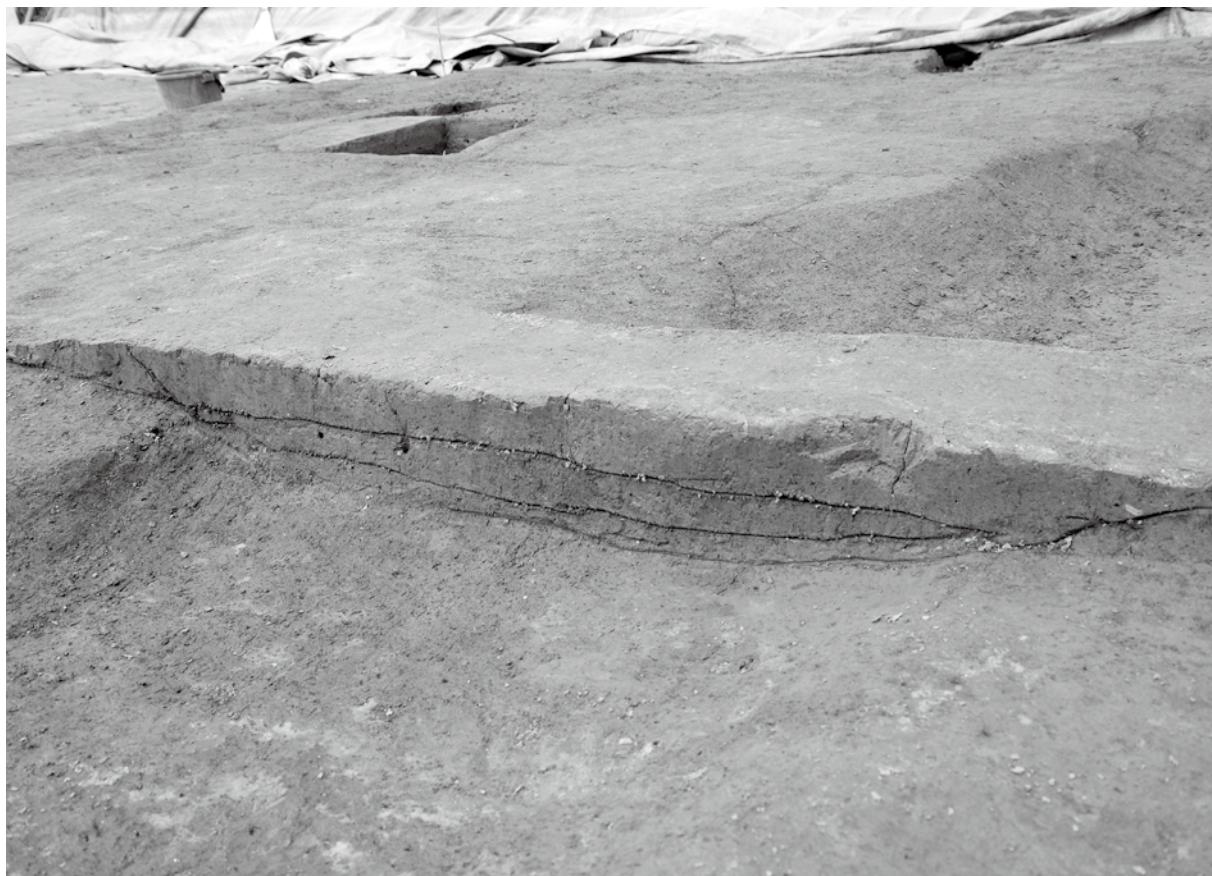


1. ピット 33 完掘後（北から）



2. SD01 調査状況（東から）

図版 6



1. SD01 土層堆積状況（東から）



2. SD04・05 土層堆積状況（南から）



1. SK01 半裁状況（東から）



2. SK02 調査状況（東から）

図版 8



1. SK06 土層堆積状況（南から）



2. NR01 調査状況（東から）



1. NR01 漆器椀 (第 22 図 1) 出土状況 (東から)



2. NR01 枠子状木製品 (第 22 図 2) 出土状況 (東から)

図版 10



1. NR01 完掘状況（東から）



2. NR02 杭（第 26 図 2～4）出土状況（東から）



1. NRO2 五輪塔水輪部(第25図4)出土状況(北から)

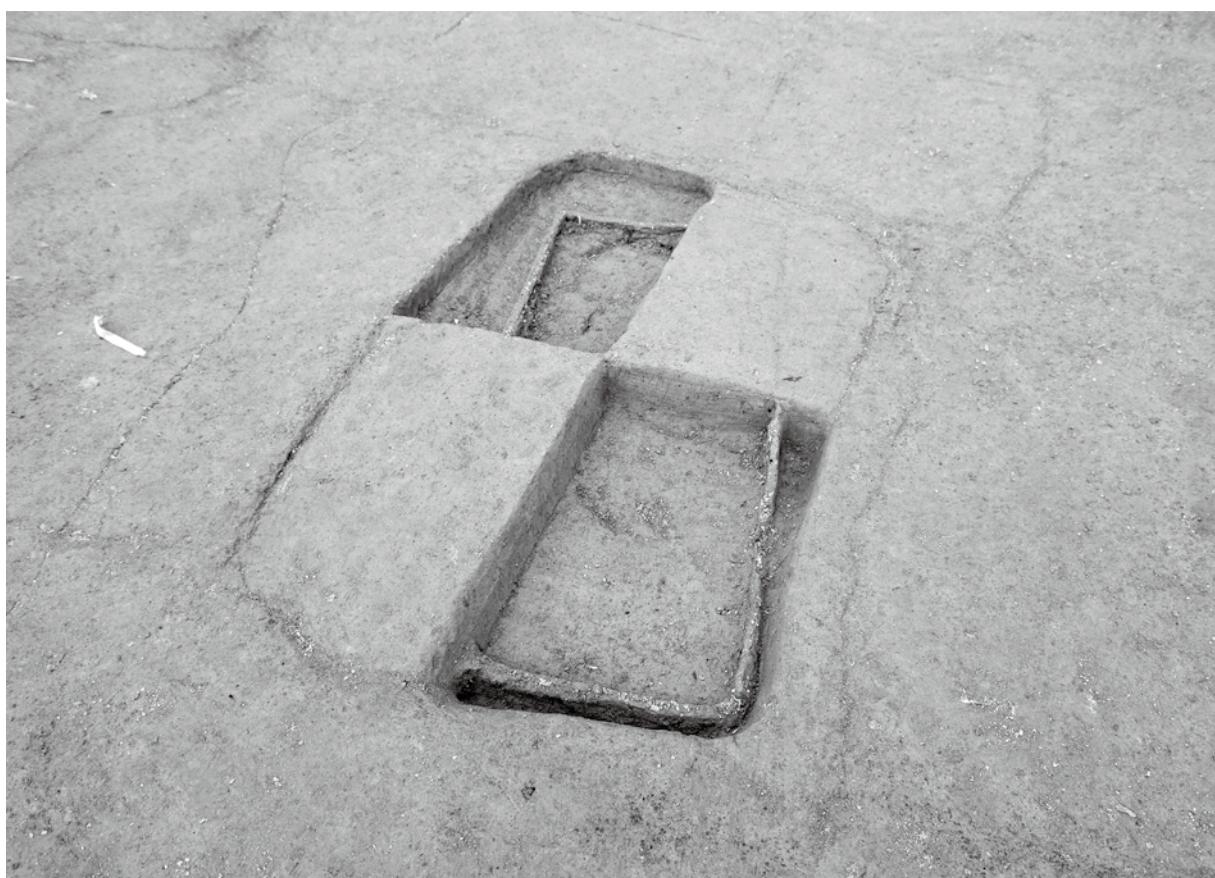


2. SD04・SD05 完掘状況(南から)

図版 12



1. SX01 検出状況（東から）



2. SX01 半裁状況（北東から）



1. SX01 人骨出土状況（北東から）



2. SX01 底面検出状況（北から）

図版 14



1. SX02 検出状況（東から）



2. SX02 検出状況（北から）



1. 土師器鍋 (第 35 図 8) 出土状況 (東から)



2. 青灰色粘質土：須恵器 (第 9 図 4) 出土状況 (東から)

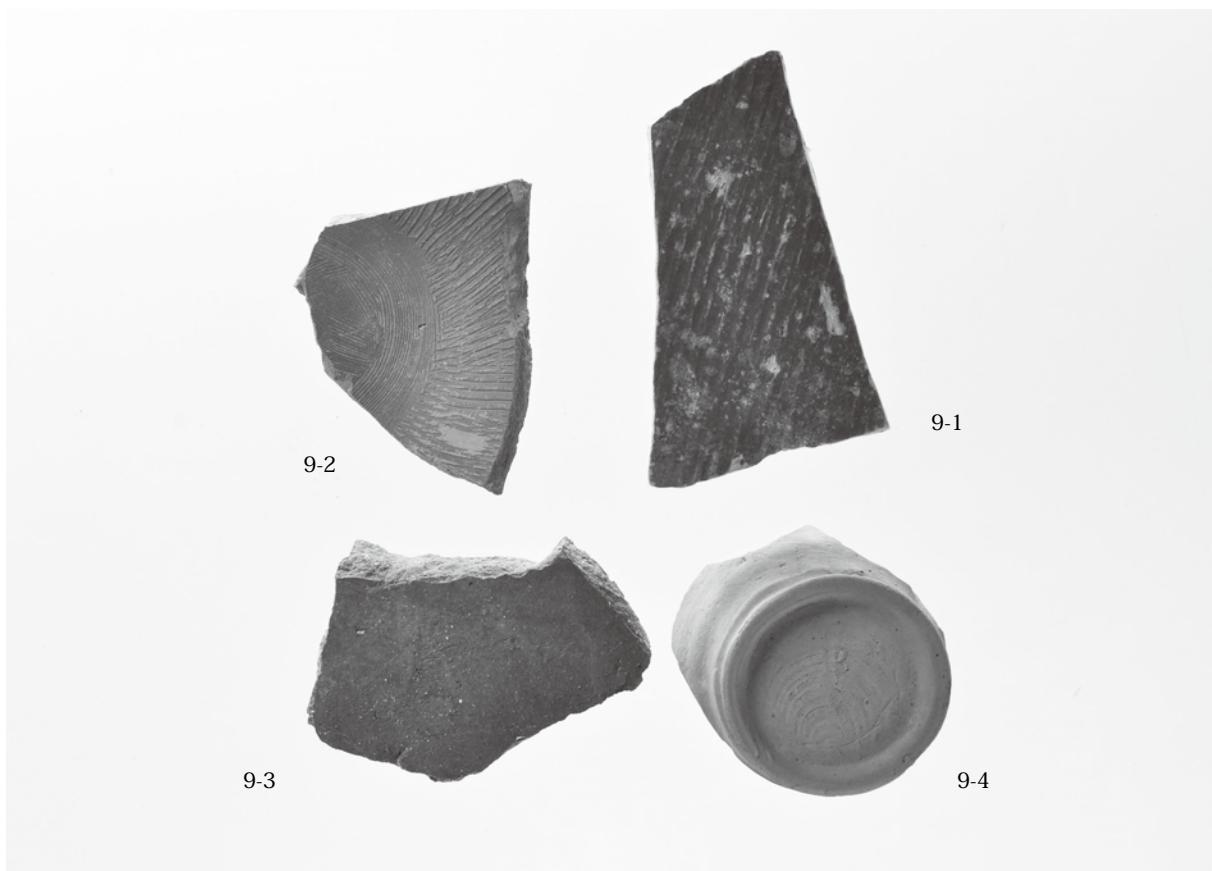
図版 16



1. 茶褐色土：中世須恵器（第9図2）出土状況（北東から）



2. 茶褐色土：須恵器甕（第9図1）出土状況（西南から）

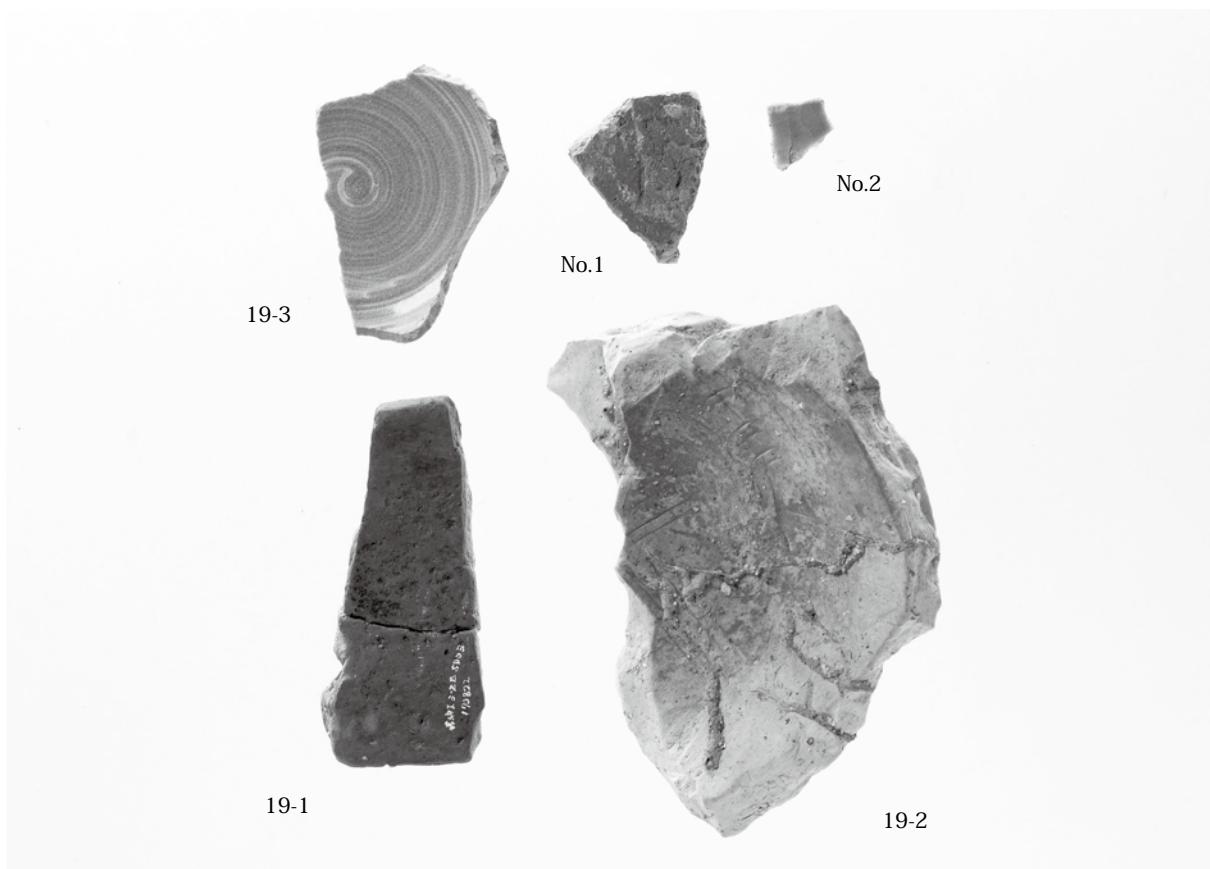


1. 茶褐色土・青灰色粘質土出土遺物（第 9 図）

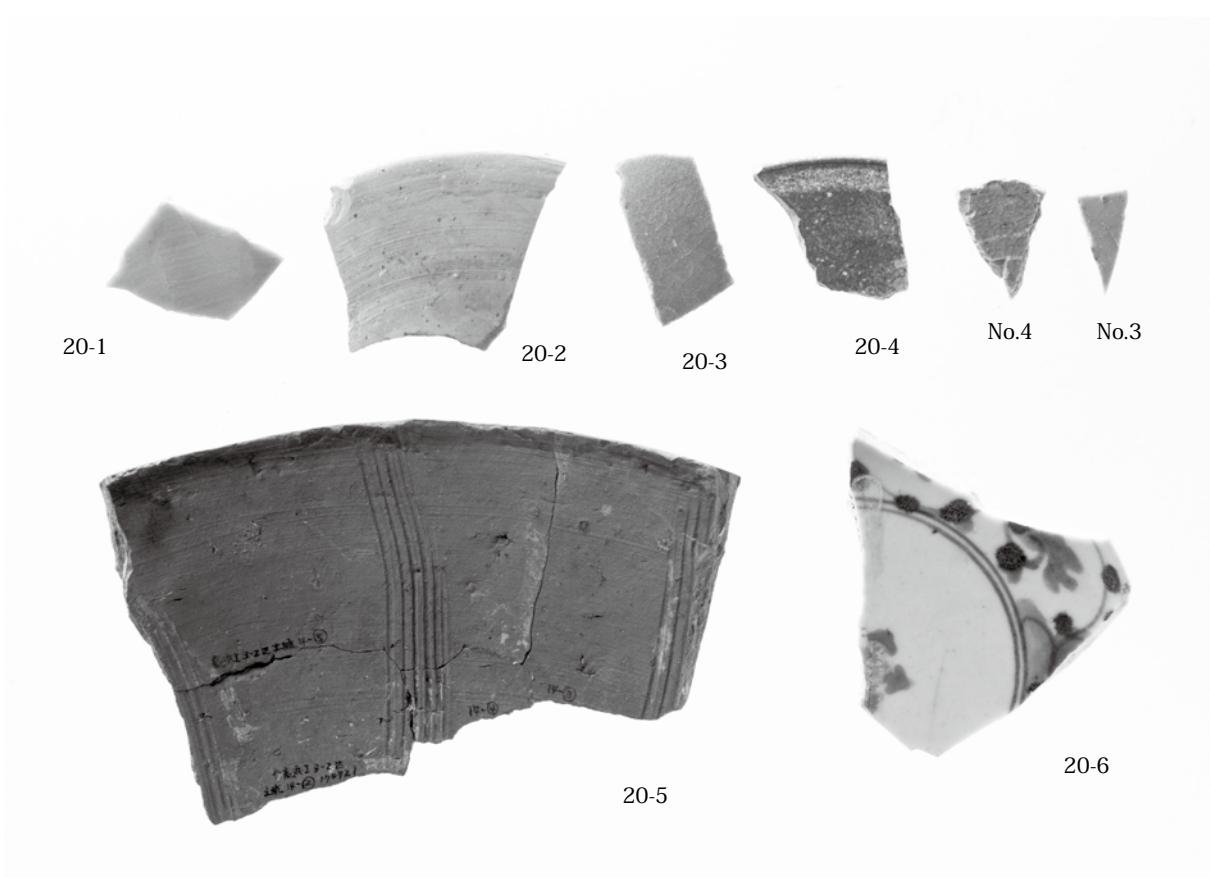


2. ピット 33 出土遺物（第 18 図）

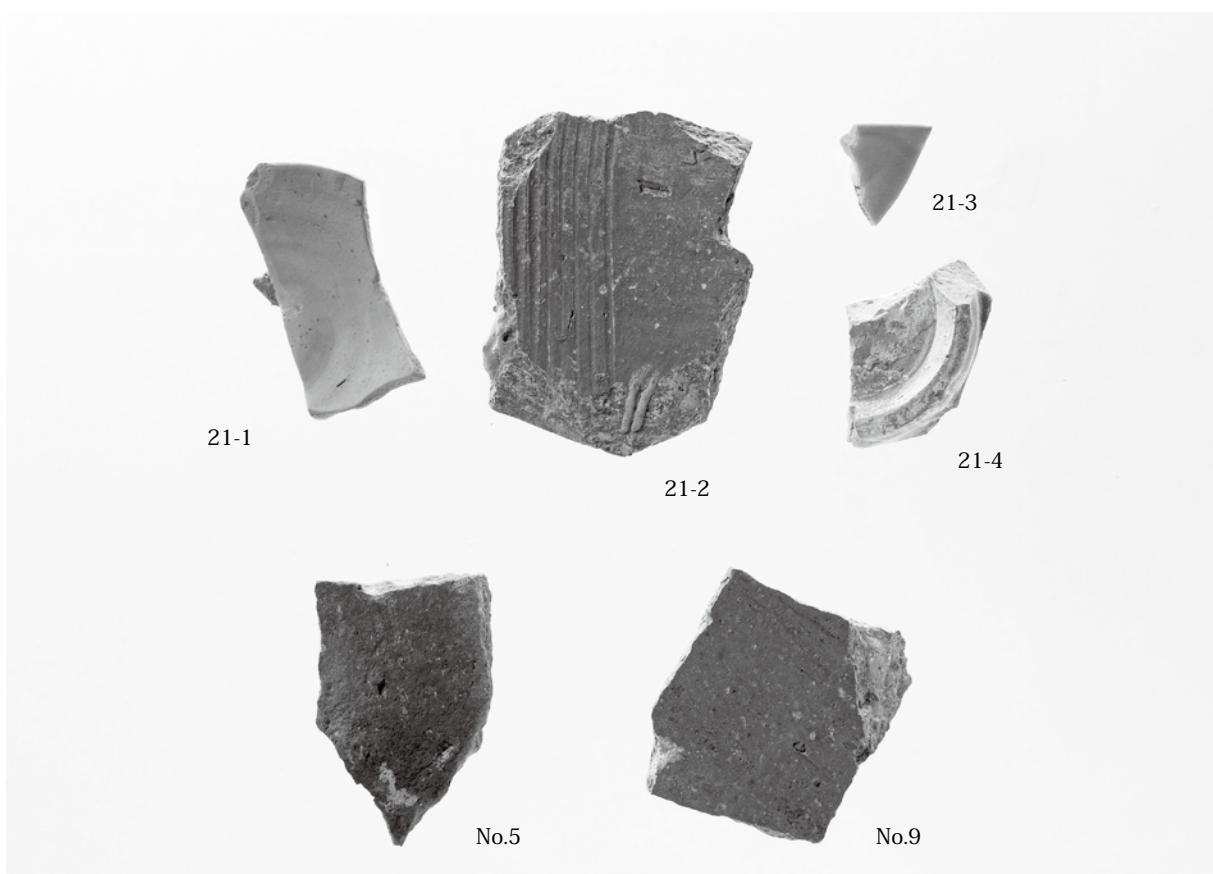
図版 18



1. 溝状遺構出土遺物（第 19 図）



2. 土坑出土遺物（第 20 図）

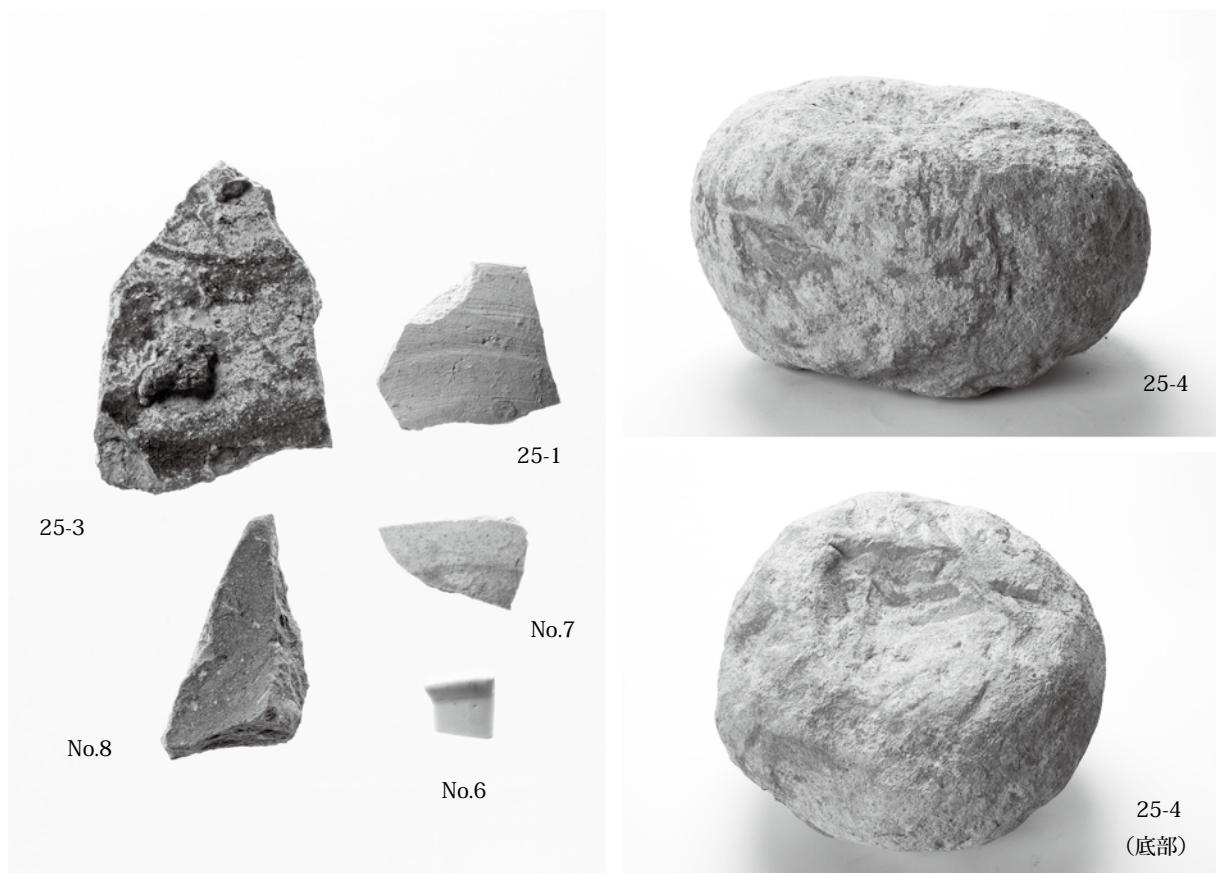


1. NR01 · 02 出土遺物 (第 21 図)

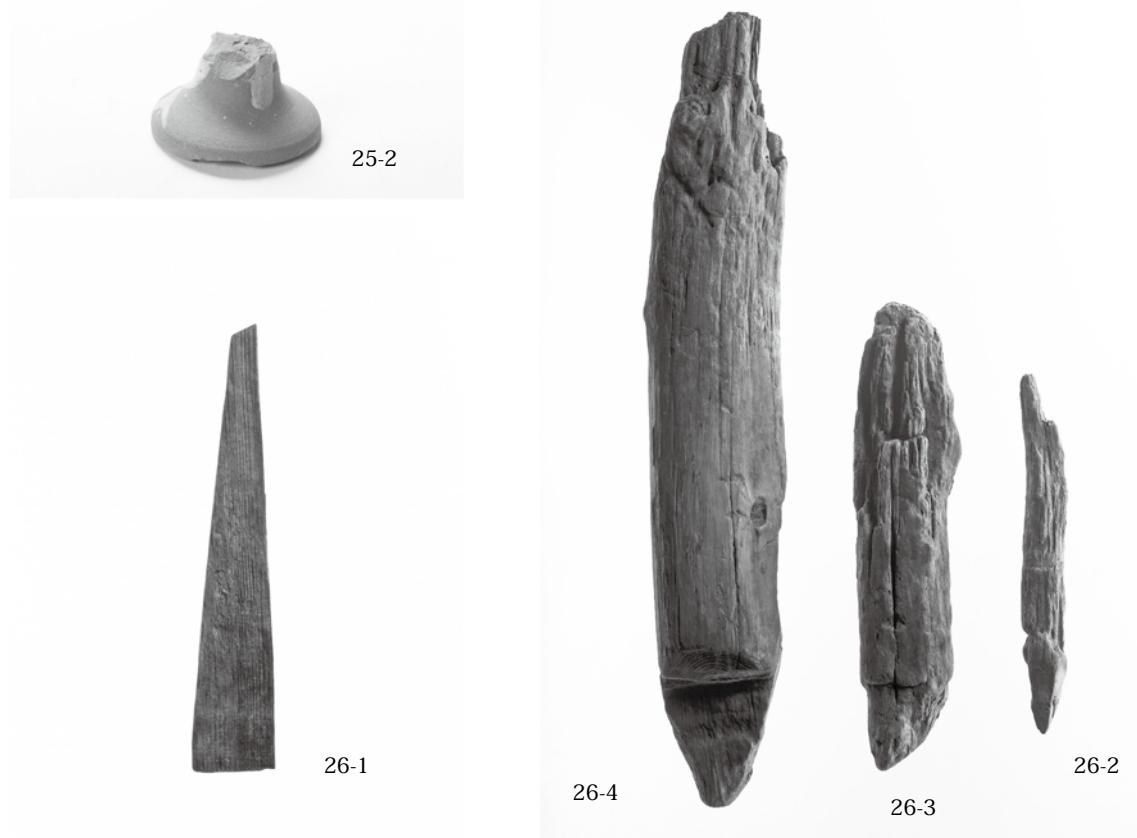


2. NR01 出土遺物 (第 22 図)

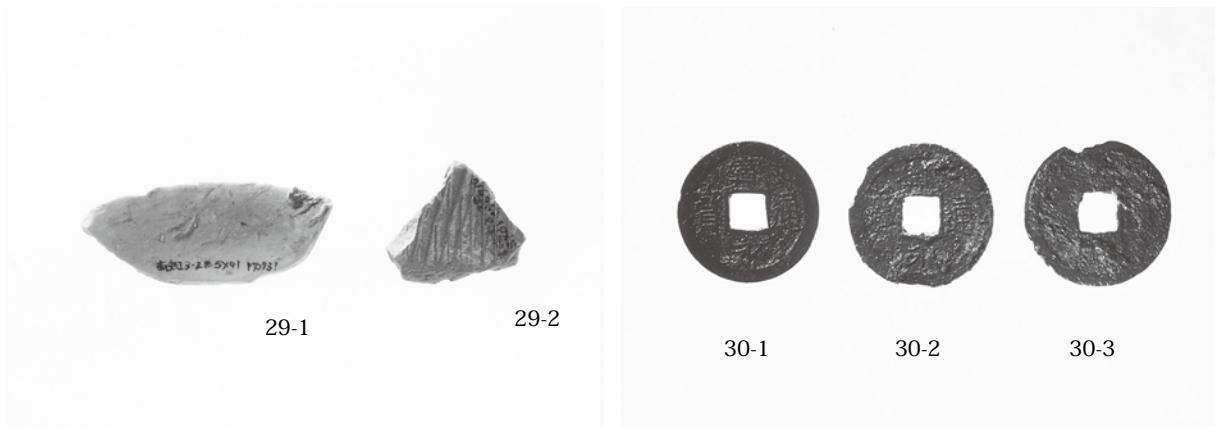
図版 20



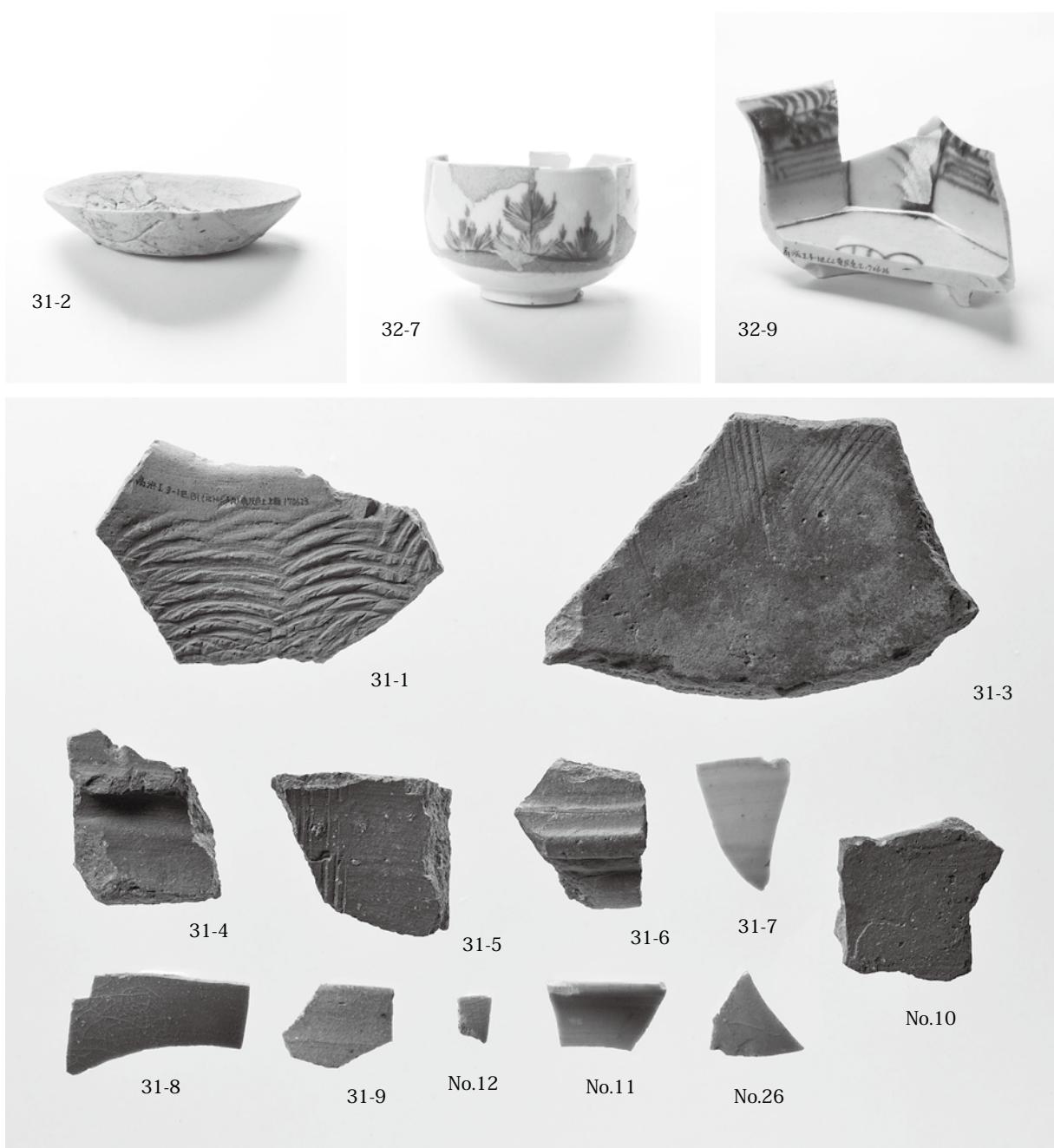
1. NR02 出土遺物 (第 25 図)



2. NR02 出土遺物 (第 25・26 図)

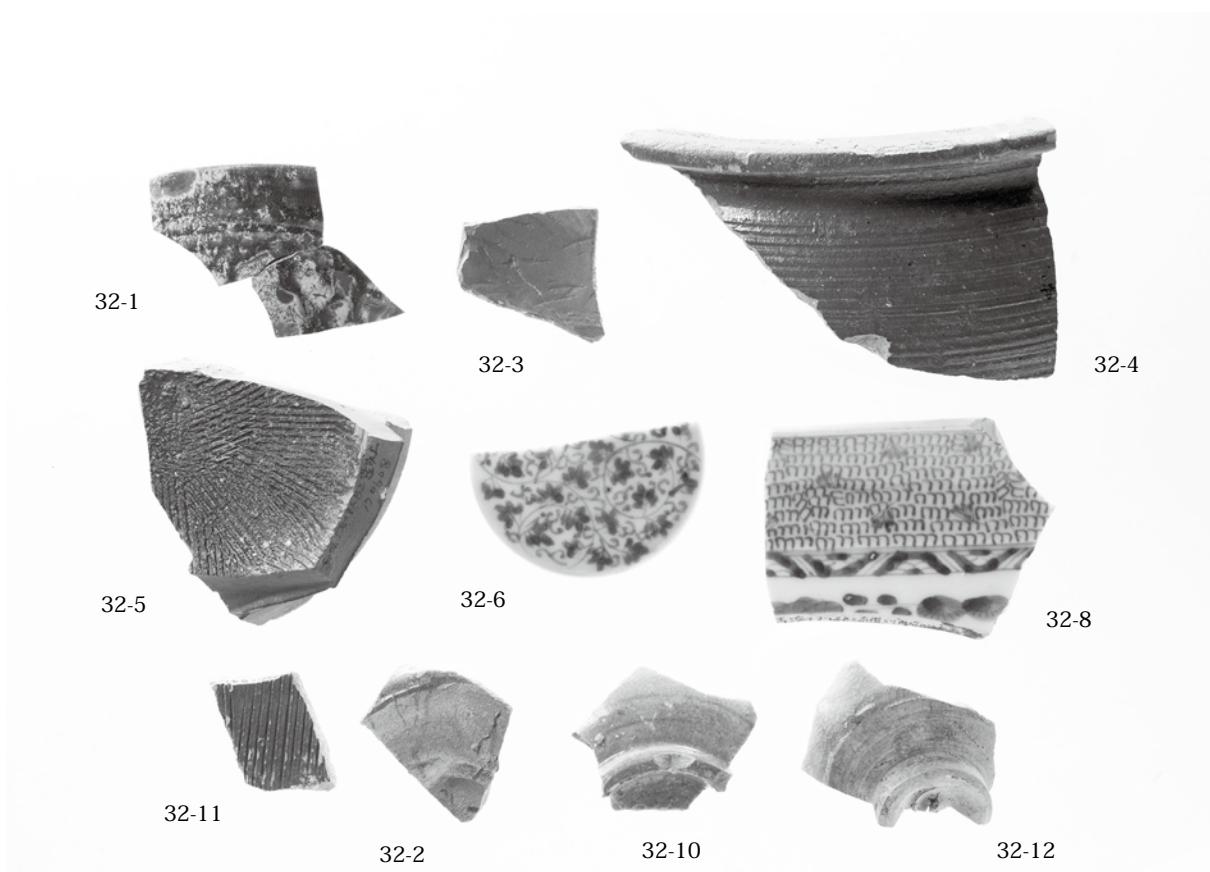


1. SX01・02 出土遺物（第 29・30 図）

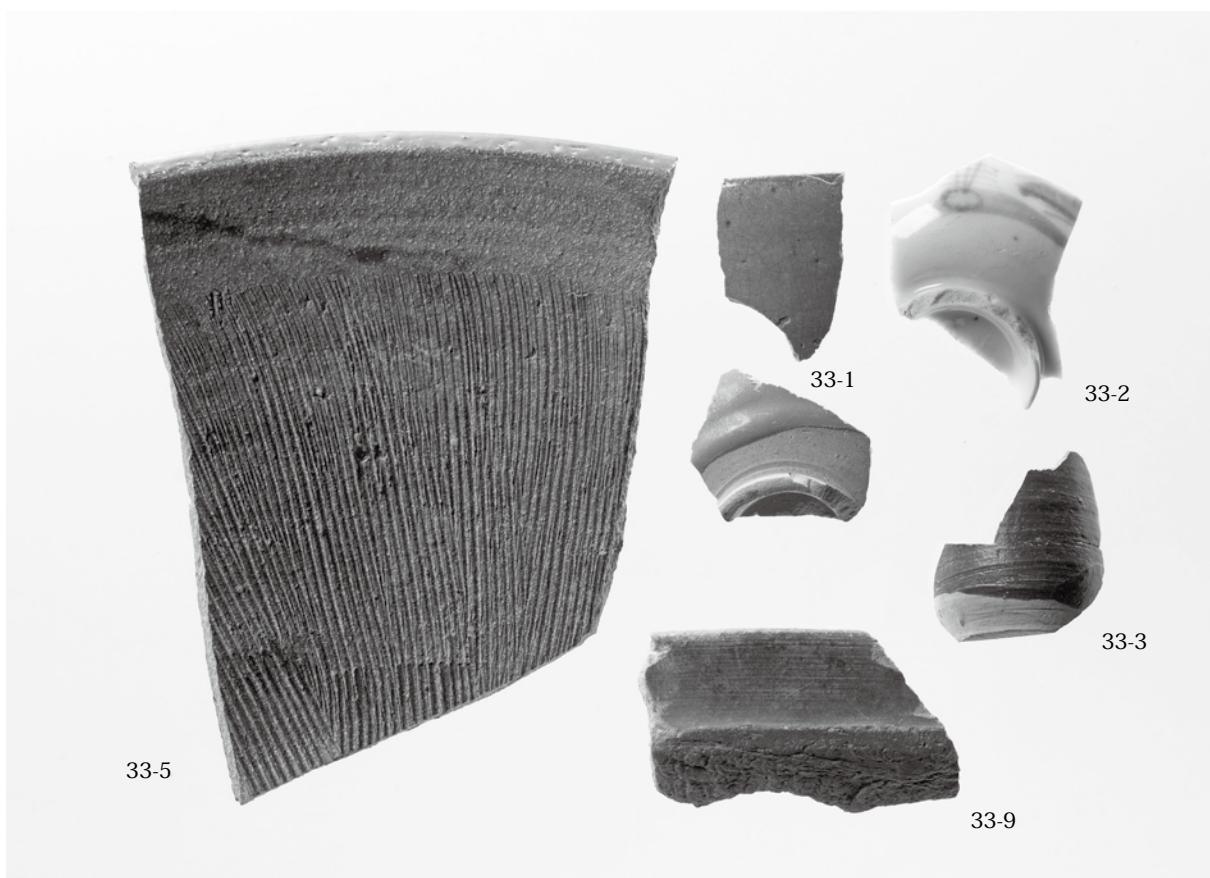


2. 3-1 区・3-2 区包含層出土遺物（第 31・32 図）

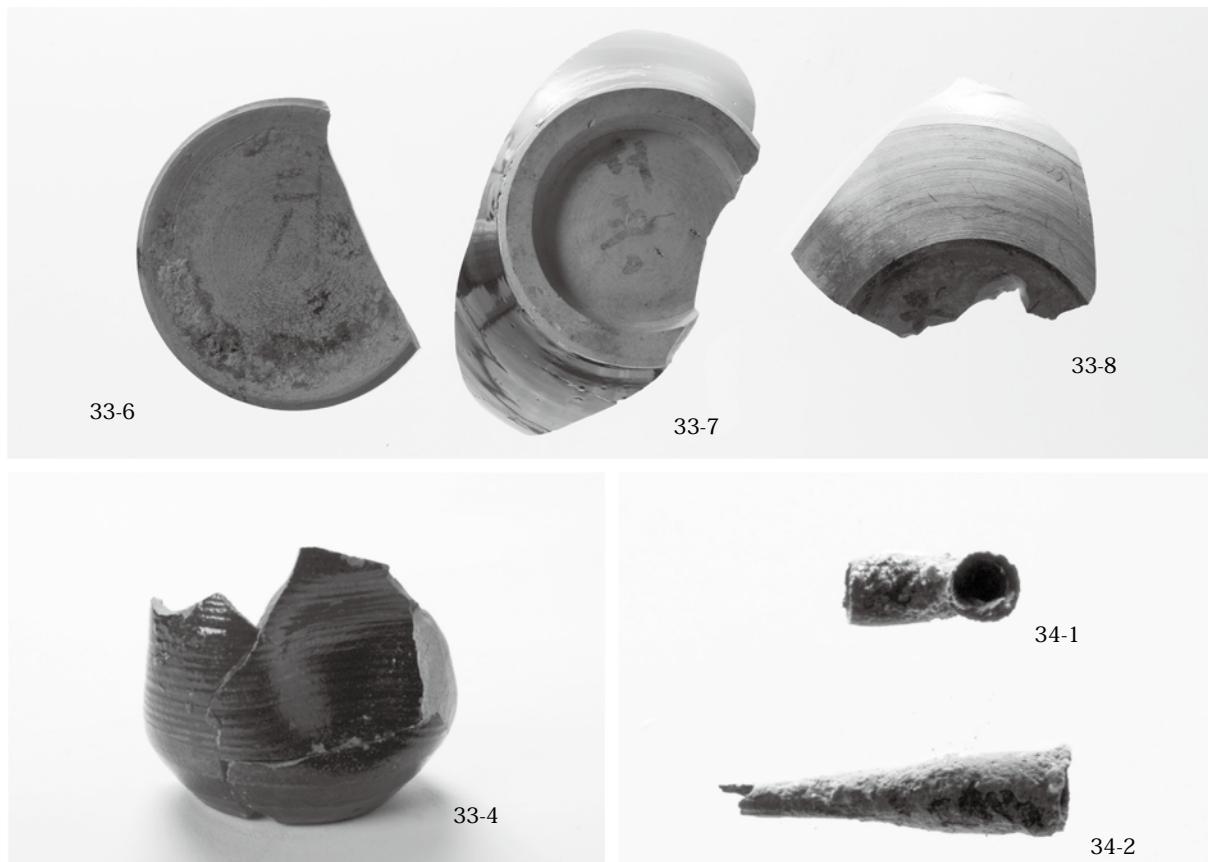
図版 22



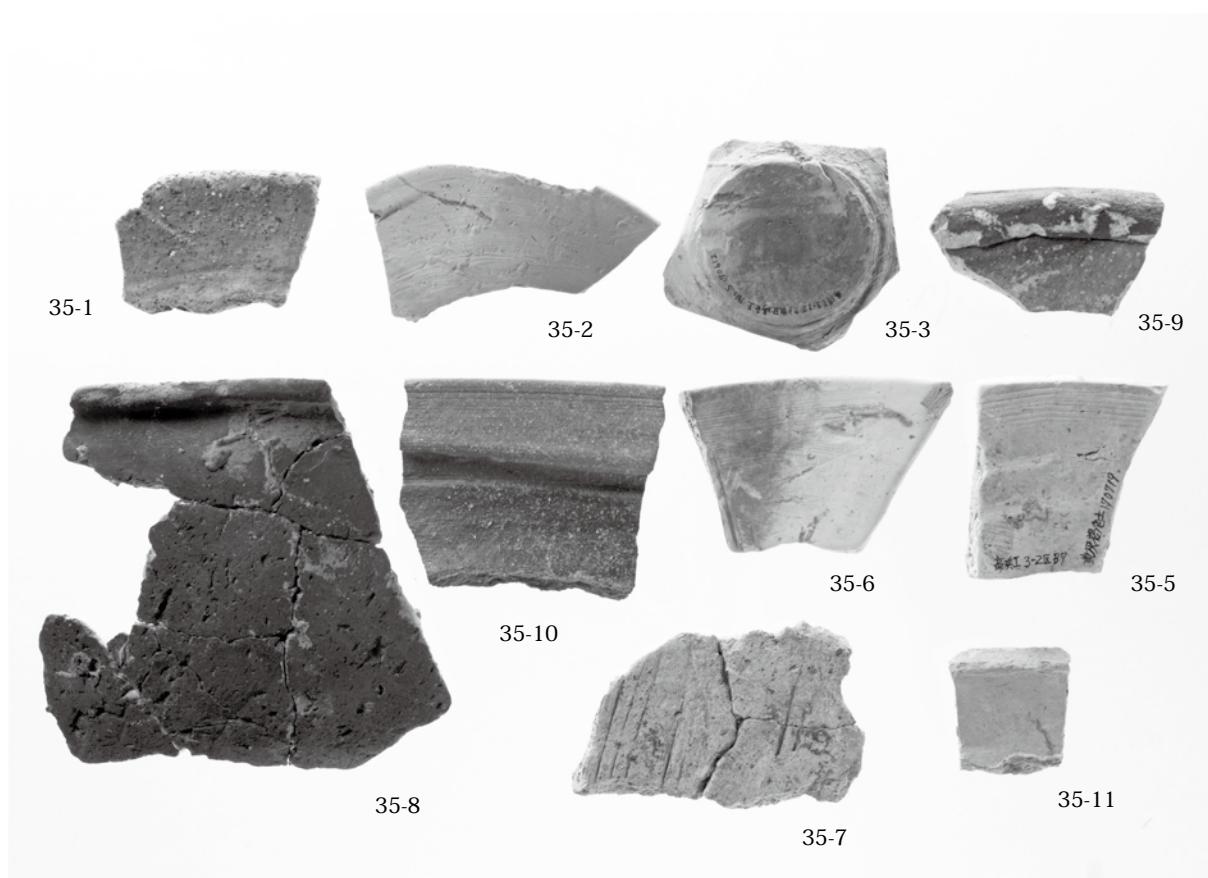
1. 3-1 区包含層出土遺物（第 32 図）



2. 3-1 区包含層出土遺物（第 33 図）

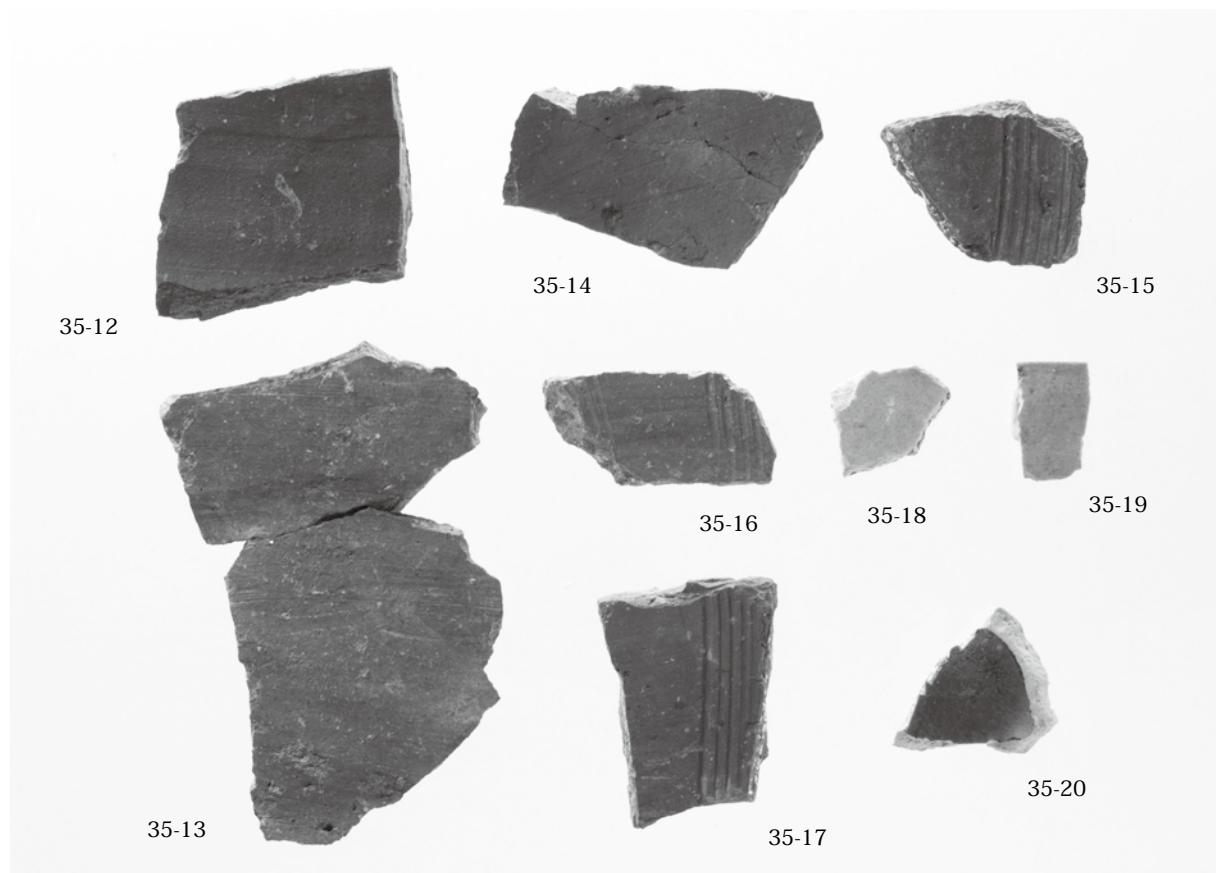


1. 3-1 区・3-2 区包含層出土遺物 (第 33・34 図)

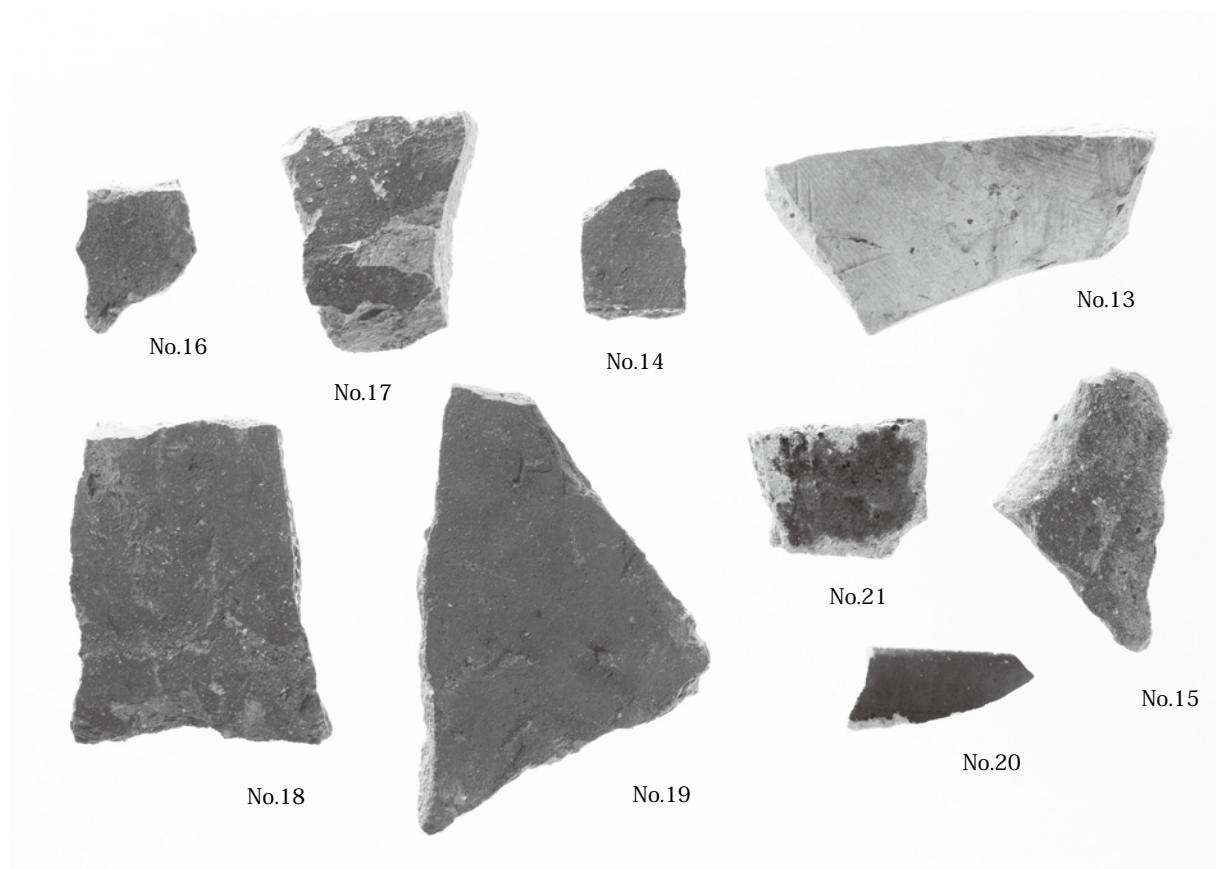


2. 3-2 区包含層出土遺物 (第 35 図)

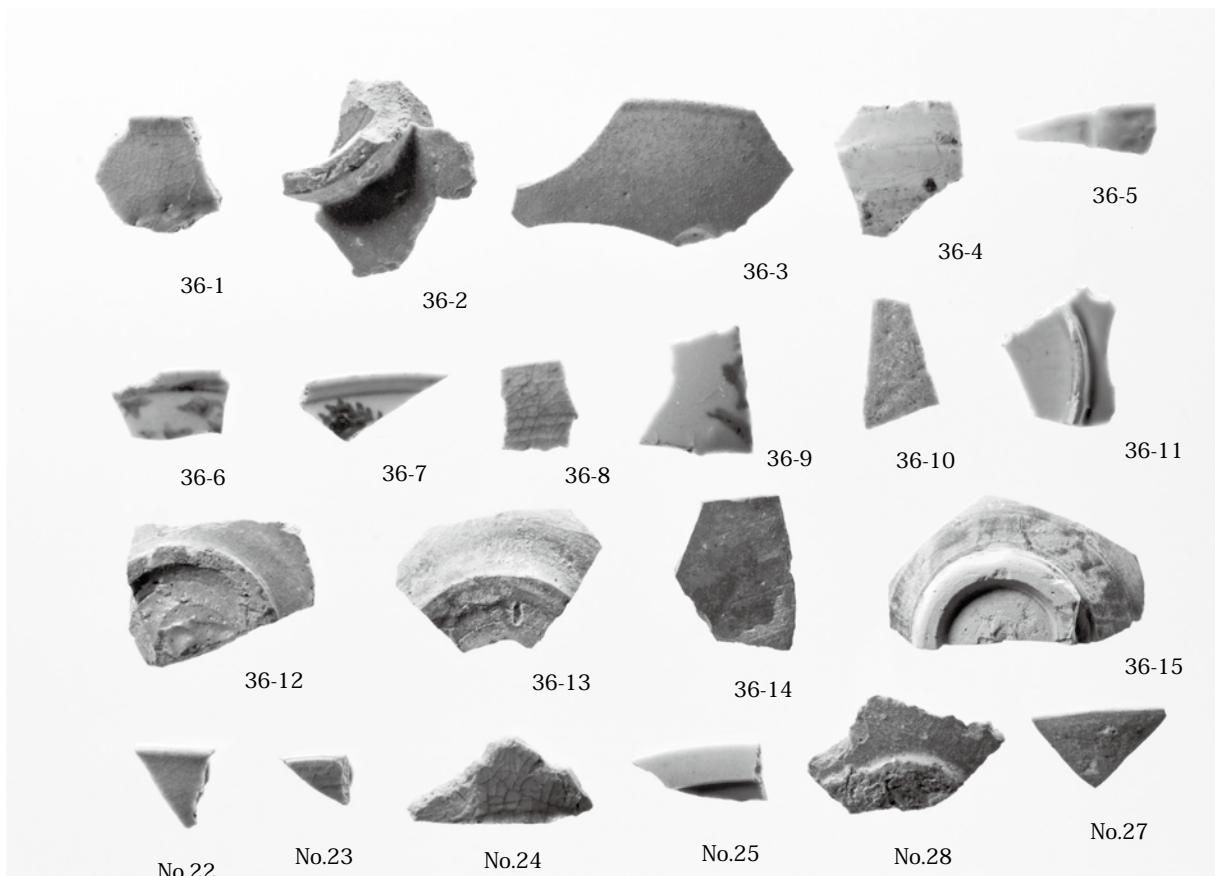
図版 24



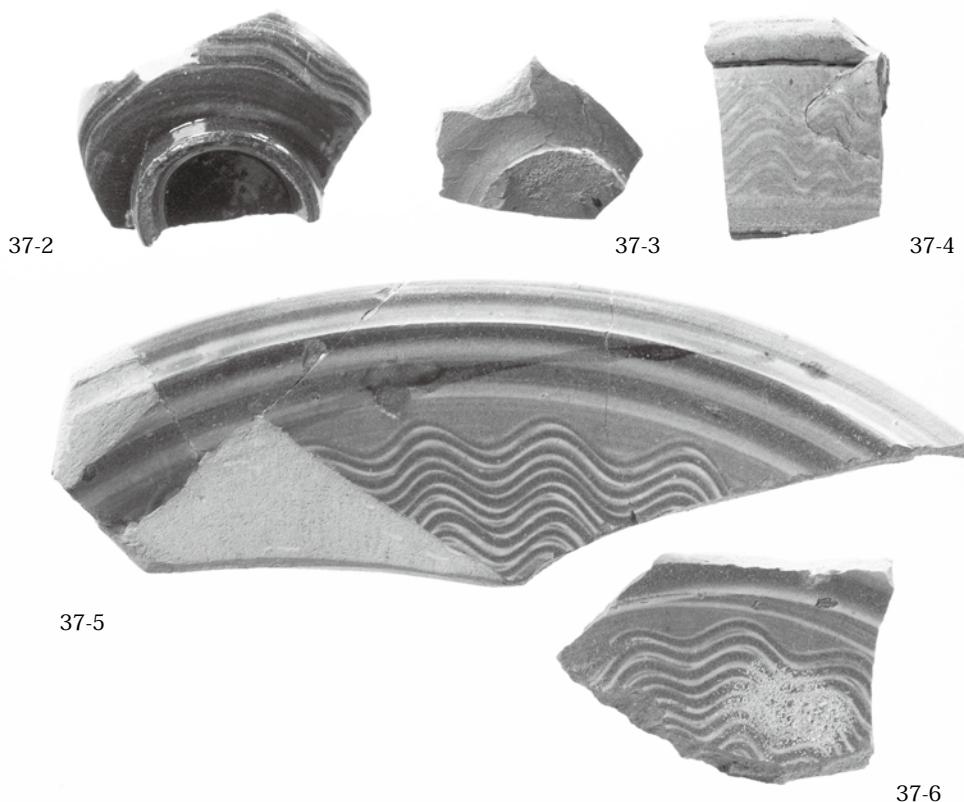
1. 3-2 区包含層出土遺物 (第 35 図)



2. 3-2 区包含層出土遺物



1. 3-2 区包含層出土遺物（第 36 図）

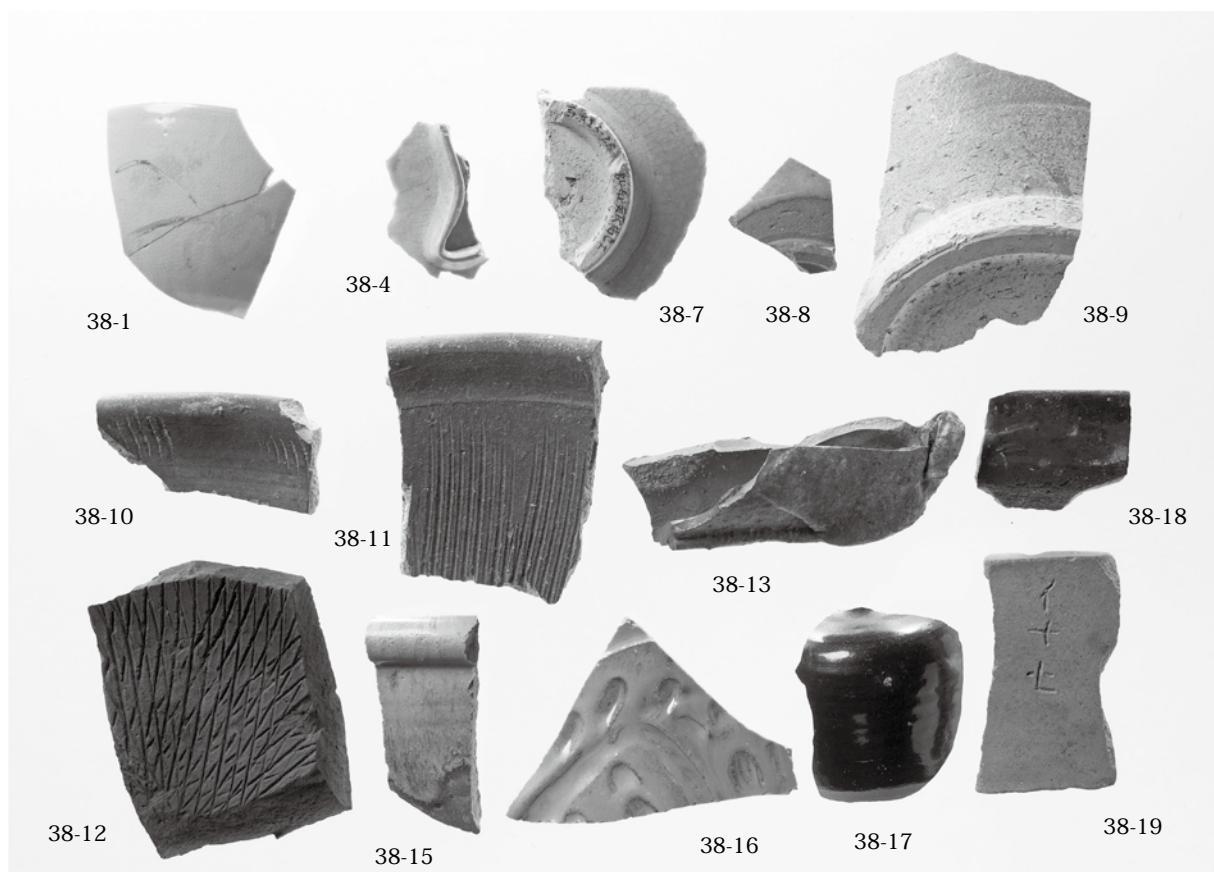


2. 3-2 区包含層出土遺物（第 37 図）

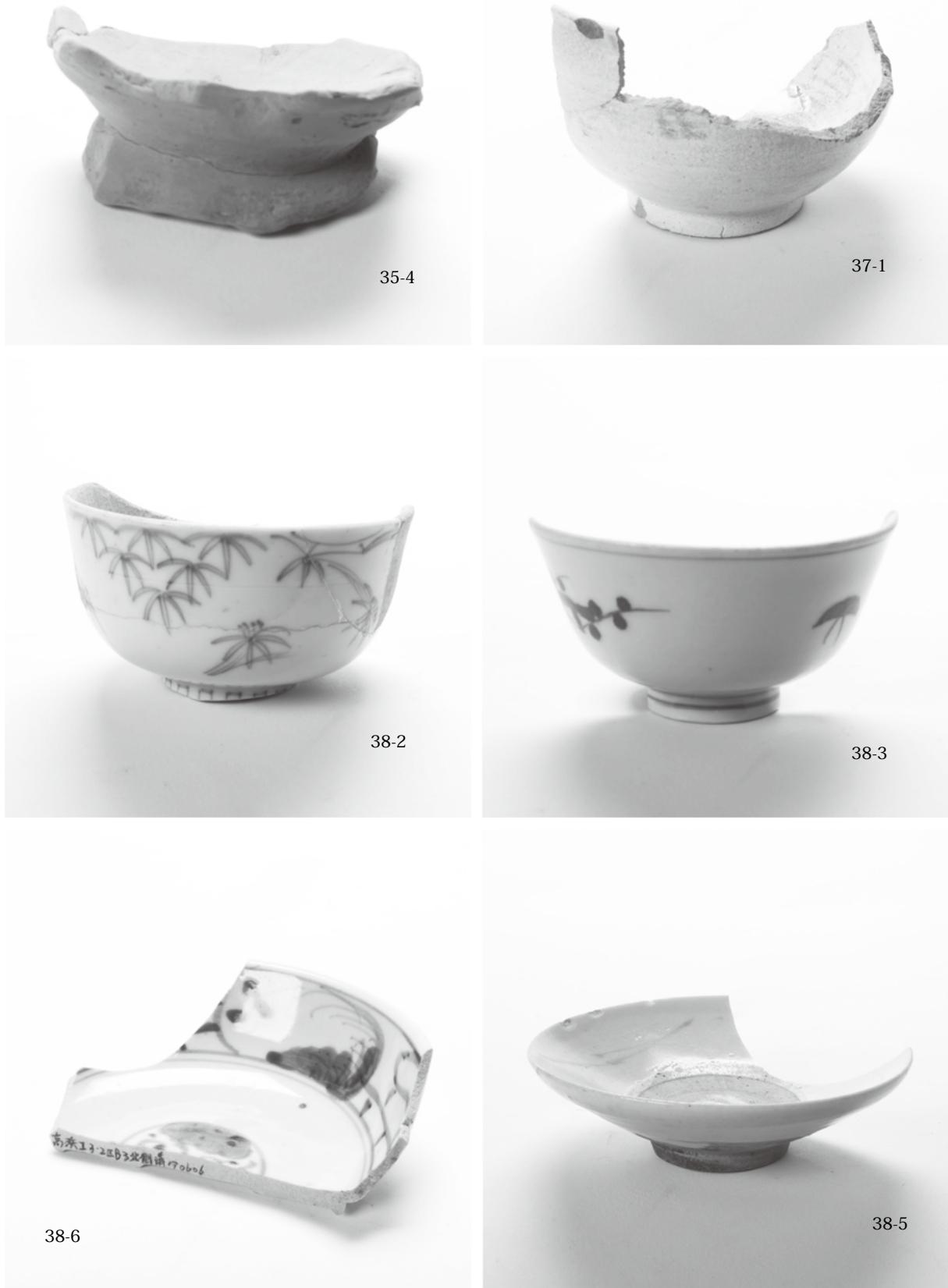
図版 26



1. 3-2 区包含層出土遺物（第 37 図）

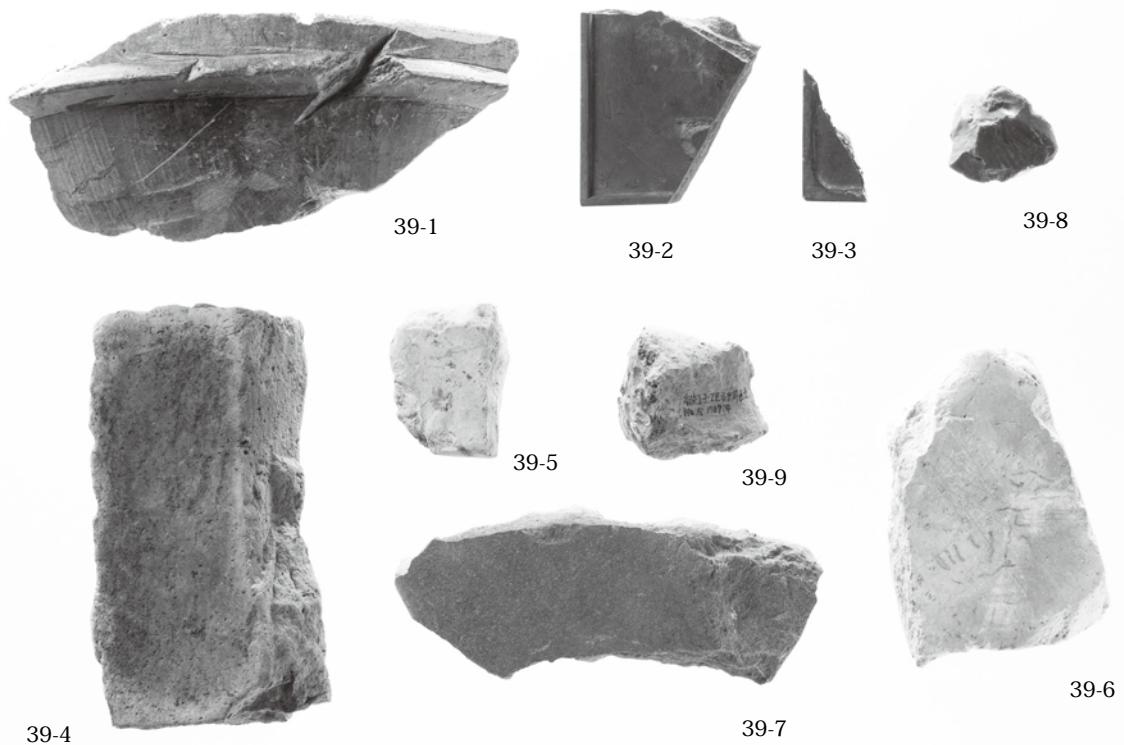


2. 3-2 区包含層出土遺物（第 38 図）

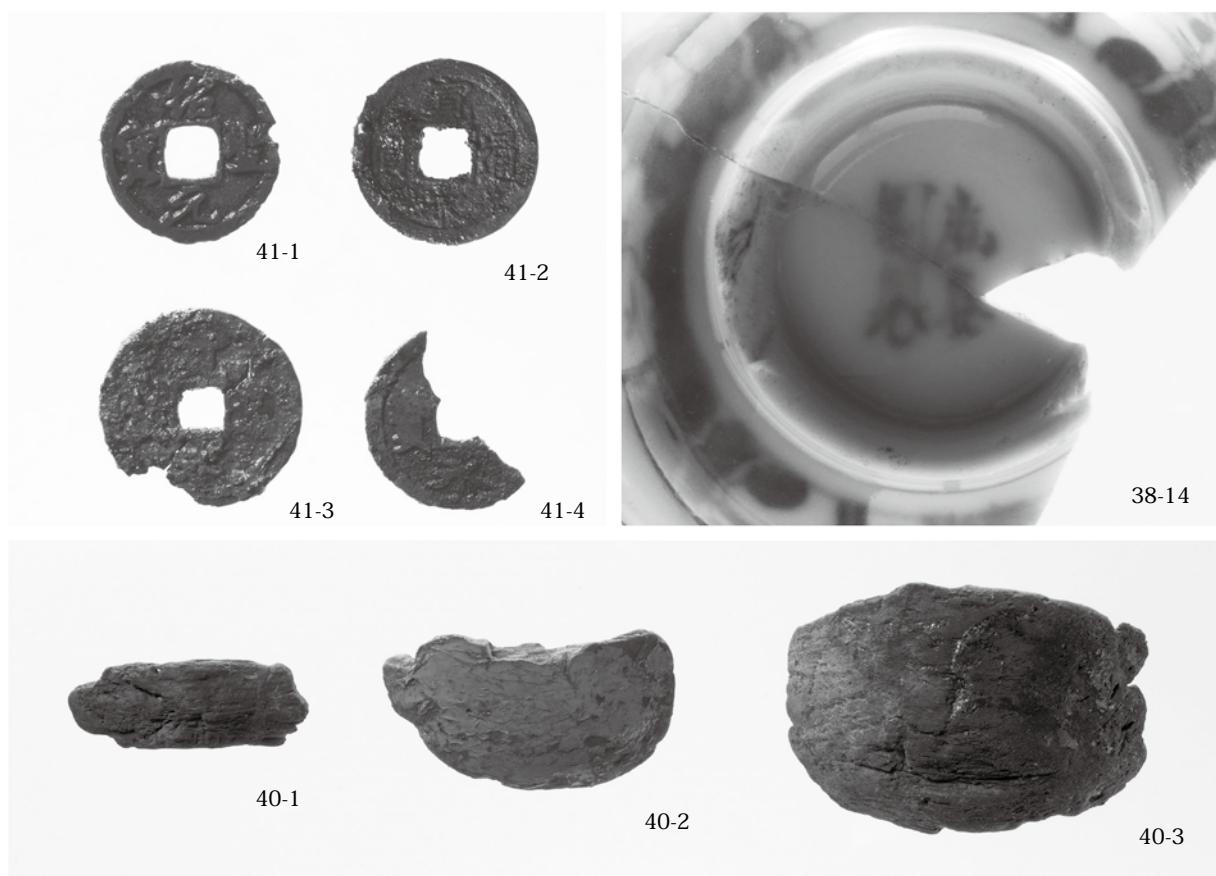


1. 3-2 区包含層出土遺物 (第 35・37・38 図)

図版 28



1. 3-2 区包含層出土遺物（第 39 図）



2. 3-2 区包含層出土遺物（第 38・40・41 図）

報 告 書 抄 錄

高浜 I 遺跡（3 区）

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4

発行 2019(平成 31) 年 3 月

発行者 島根県教育委員会

編集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒 690-0131

島根県松江市打出町 33

TEL 0852-36-8608

印刷 株式会社 報光社

TAKAHAMA I SITE

Loc.3 Excavation Report

March,2019

Shimane Prefectual Board of Education